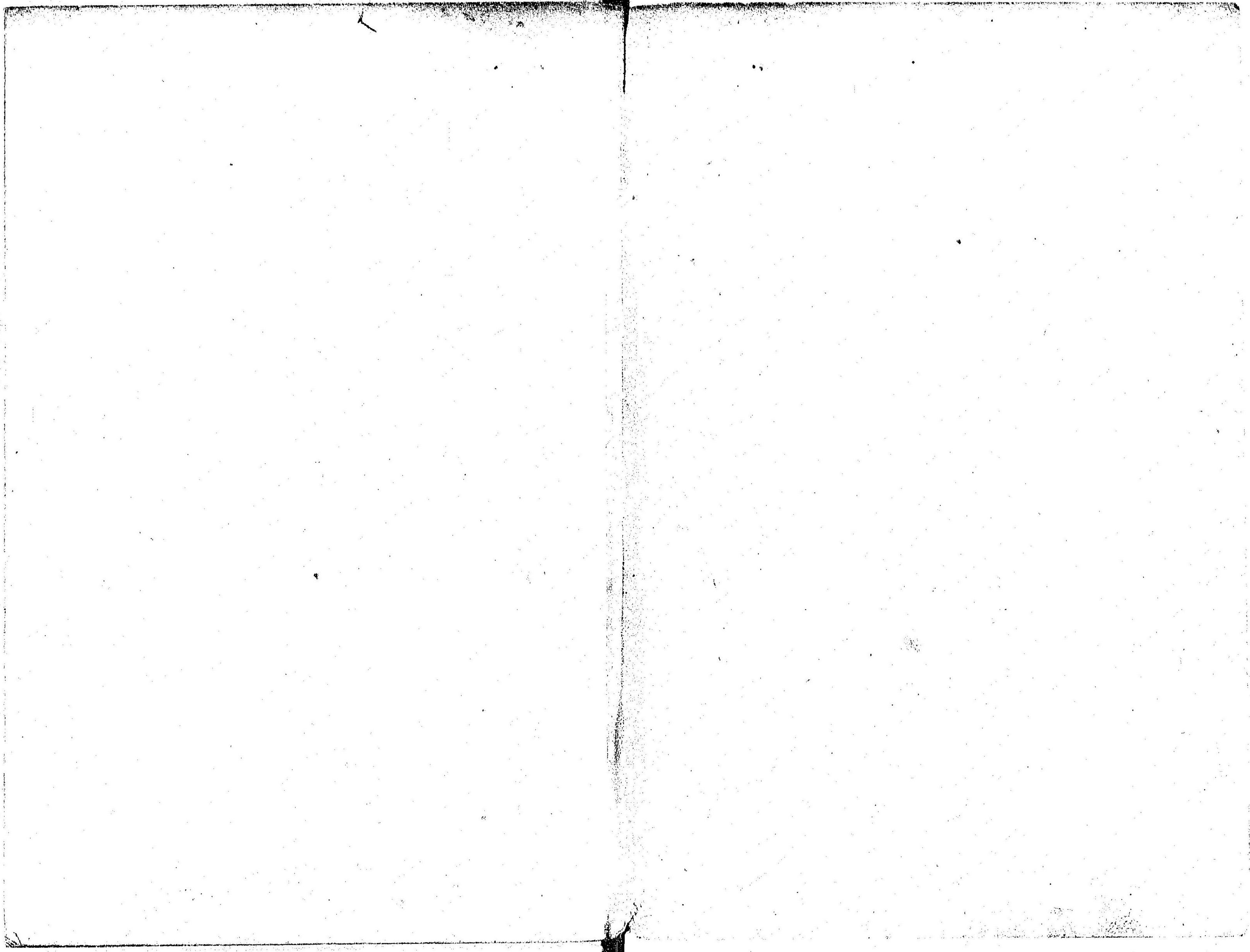


28
1711
65-91

石井義
市川清
忱閱
編

三重縣田討法類纂

明治十七年
六月出版
淺野書房藏



科15
987

石井市
川

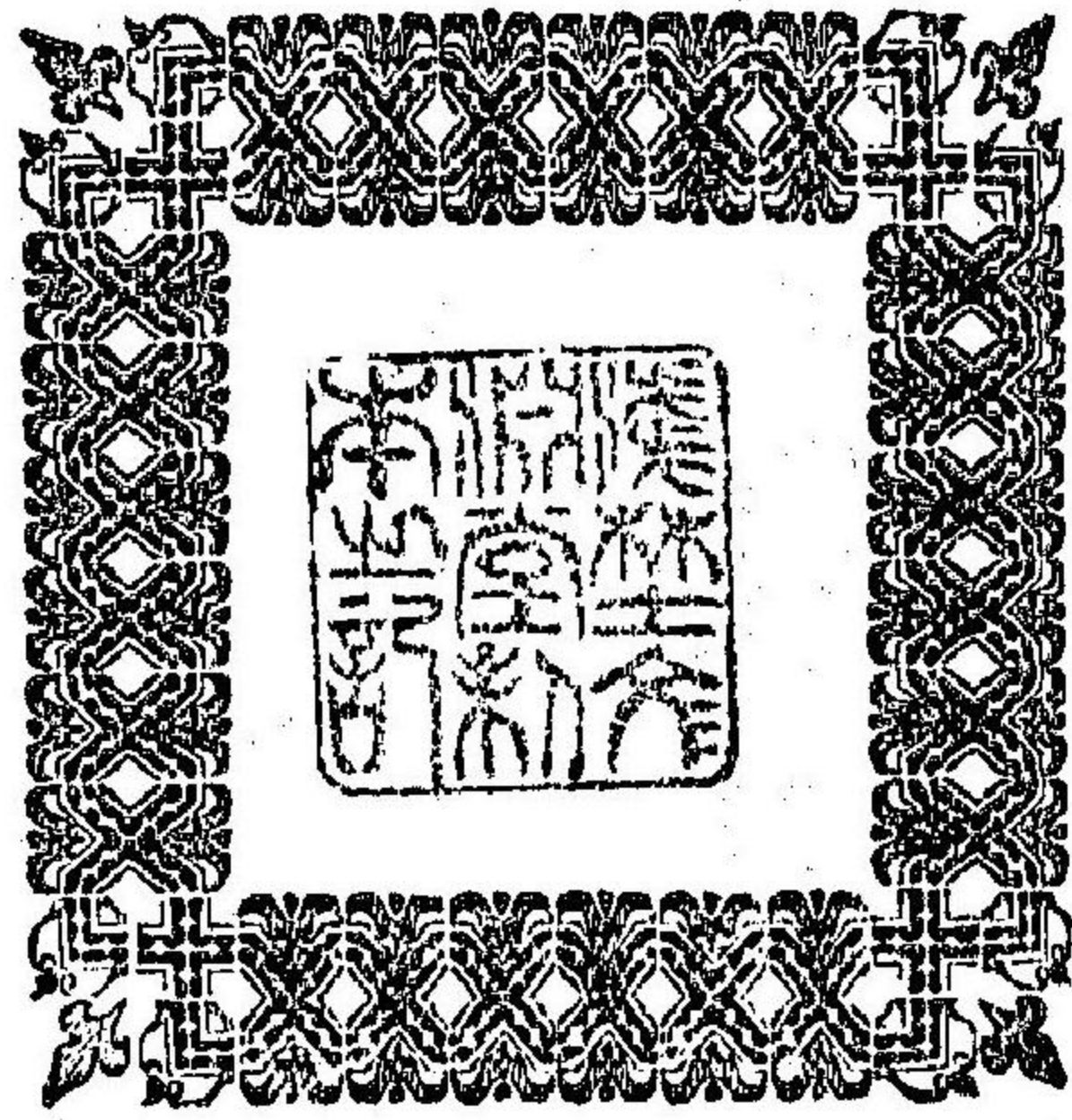
義
忱
清
編
閱

三重縣田討法類纂

明治十七年
六月出版

淺野書房藏

CZ
1711
65-01



西映
清波共
天出月

海鏡

明治十七年五月

心王位空高



三重縣罰法類纂序

夫罪惡者刑典制止之警察豫防之而重罪輕罪之刑名古來沿革之所由雖有不均者不變其大綱可以觀也獨至違警罪者反之其惡小其刑輕各府縣異其趣者不一而足也故雖博學卓識之士不知之而往往有罹其禍者矣明治十五年改正刑法實施以來於我縣下其犯者之數實至四千有餘之多可勝慨歎哉是我警察豫防之力為不足乎抑亦非無以也蓋違警之罪目甚輕易而人常不顧之且其布令甚浩濶而改廢刪補相踵人不遑討索之是乃當局者所宜加意而所編輯之不可一日忽也頃日市川清以游刃之暇蒐集此布令名曰三重縣罰法類纂來需予序披而讀之一

目井然使人得考索之便其世益豈小少哉予欣然辨之卷首

明治十七年五月下院

從七位 山縣昌雄述

三重縣罰法類纂

凡例

- 一 此書ハ明治四年十月ニ起リ明治十七年三月ニ至ル其間出ル所ノ違警罪並ニ行政上ノ懲罰ニ關スル一切ノ法令ヲ類聚ス
- 一 編ヲ分ツ三其上編ニ刑法第四編ノ違警罪中編ニ當縣違警罪下編ニ行政上ノ懲罰ニ關スル法令ヲ掲ク而シテ其上中二編ニ關スル法令ハ各條款ノ左傍ニ具載シ其注意ヲ要スルモノハ參看ノ二字ヲ附記ス
- 一 編纂ノ休專ヲ管便ヲ主トス故ニ事目ノ改廢

刪補ニ係ルモノハ改正補訂ノ文章ヲ編入シ
 テ廢止刪除ノ文章ハ之ヲ省畧ス但某年月某
 号ノ令達ニ因リ改正刪除等ノ文字ヲ附記シ
 テ索閱ニ便ス

明治十七年五月

編者誌

三重縣司法類纂上編目次

刑法第四百二十五條

同第一項	同	一丁	○火藥運搬規則	二丁
同第二項	三丁		○火藥庫圍線規則	四丁
同第三項	四丁		○烟火製造心得	同
同第四項	同		○烟火放揚ノ節願出ノ件	五丁
同第五項	五丁			
同第六項	同			
同第七項	同			
同第八項	同			
同第九項	同			
同第十項	同		○密賣淨取締地方官ニ委任ノ件	五丁
同第十一項	六丁			
同第十二項	同			
同第十三項	同		○墓地規則ノ内	六丁
同第十四項	同		○刑法第二百十八條三項	同
同刑法第四百二十六條	七丁		○刑法第二百十九條	同

- 同第一項 同
- 同第二項 同
- 同第三項 同
- 同第四項 同
- 市街掃除規則 八丁
- 針灸取締規則 十三丁
- 屠牛及牛肉販賣規則十五丁
- 水製造發賣請賣規則十九丁
- 產婆規則 廿二丁
- 吸角蟻針ノ技術開業不相成件 廿三丁
- 藥舖藥種商規則 廿四丁
- 天然痘豫防規則 三十一丁
- 同第五項 三十二丁
- 同第六項 三十三丁
- 同第七項 同
- 同第八項 同
- 同第九項 同
- 賣藥部外藥劑調製并販賣規則十丁
- 斃牛馬取扱規則 十四丁
- 墓地規則 十七丁
- 牛乳搾取販賣并請賣規則二十丁
- 廿七丁

- 同第十項 同
- 同第十一項 同
- 同第十二項 同
- 刑法第四百二十七條 同
- 同第一項 三十四丁
- 同第二項 同
- 同第三項 同
- 軍人乘馬ハ本文ノ限ニアラサル件 同
- 同第四項 同
- 同第五項 同
- 同第六項 同
- 同第七項 同
- 同第八項 同
- 旅館屋取締規則 三十五丁
- 同第九項 三十八丁
- 同第十項 同
- 同第十一項 同
- 雇人請宿取締規則 三十七丁

○古物商取締條例 廿丁

○古物商取締假細則

二十五丁

○質屋取締條例 三十丁

○質屋取締假細則

卅三丁

尾

三重縣罰法類纂上編

刑法違警罪

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處

シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

壹 規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂スヘキ物品ヲ市街ニ運搬シタル者

明治四辛未年兵部省達

別紙之通火藥運送規則被相定候ニ付テハ府縣共此旨篤ト相心得管轄地方不浪様可相達事

別紙

一 船箱類運送ノ節ハ前以テ沙汰可有之候條其當日通行道筋運送中ハ烟ヲ留メ精々用心可致事

一 運送ノ節ハ車或一船等赤地ニ火藥ノ二字ヲ識シタル旗一旒ヲ被建置候事

一 運送取締役人ヨリ告諭候義モ有之候ハ、能々可相守事

上登

火藥運搬規則

- 一 火藥類ノ運送ハ務メテ水路ヲ取ルヘシ已テ得ス陸地運送ノ時ハナルヘク丈ケ市街雜沓ノ地ヲ避ケ人家稀疎ノ地ヲ撰ヒ經過スヘキ事
- 一 其運送ノ時ニ當テハ時日ヲ刻シ前以テ其地方管轄廳ヘ届出テ其廳ヨリ先觸ヲ以テ運送道筋ヘ嚴密警戒ヲ傳ヘ通行中ハ烟留メ可爲致事
- 一 水陸共數多ノ火藥ヲ同時ニ運送スヘカラス已ムテ得ス途中宿泊ヲ要スルトキハ凡拾丁餘人家ヲ隔ツヘキ事

水路運送

- 一 火藥ノ運送ハ豫メ之カタメニ掩蓋ヲ設クル所ノ良好ナル船隻ヲ造ルヘシ若シ已ムコトヲ得スシテ通常ノ船ヲ用フルトキハ其堅牢ニシテ危害ナキヲ檢點シ船中火器ヲ用ヒス烈焰ヲ置カル等一定ノ警戒ヲ施シ船底ニ板ヲ並列シ其上ニ毛布ヲ敷キ枕木ヲ高シ船體ヲ輕クスヘシ若シ掩蓋ナキ船ナレハ毛布或ハ「フレンセン」ニシテ以テ破覆ヲナシ濕氣危險ノ患ヒ無之極最モ注意スヘキ事

- 一 每船間隔凡三四町勉テ中流ヲ行ルヘシ且一船毎ニ二人ノ取締役ヲ附シ一旒ノ赤旗ヲ建テ及ヒ「ルーブル」（講話）ヲ備ヘ置キ警戒ノ用ニ充ツヘキ事

陸地運送

- 一 火藥運送車ニ屋蓋ヲ設クルヲ法トス若シ民間ノ車輛ヲ備ヒ用ヒルキハ精密ニ檢査ヲ加ヘ其載量ヲ輕クシ每桶ニ藁或ハ舊繩ヲ以テ之ヲ圍繞シ固密ニ載積シ激動摩擦ノ患無ラシメ然ル後毛布或ハ「フレンセン」ニシテ以テ破覆ヲナシ載物ヲシテ外面ニ露ハレサル様可致事

- 一 車行ハ總テ一分時間ニ凡二十八間ノ路程ヲ行ク疾徐其度ヲ亂ルヘカラス時々軸ニ油ヲ塗リ鋪石等ヲ避ケ通行スヘキ事
- 一 一車毎ニ距離凡三十間ヲ隔テ一人ノ取締役ヲ附スヘシ又別ニ二人ヲシテ第一ノ火藥車ニ先タツ「凡壹丁餘火藥旗」ヲ持シテ諸人ニ示シ途中障礙物ヲ除去シ且懇ニ可相警事
- 右ハ火藥運搬ノ大体ヲ示スモノナレハ尙更丁寧ニ警備ヲ加ヘ禍害無之様尤モ注意スヘキモノナリ

貳

規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂スヘキ物品又ハ自ラ火ヲ發スヘ

キ物品ヲ貯藏シタル者

明治九年九月十八日第百貳拾號布告

火藥庫圍線規則別紙之通相定候條此旨布告候事

別紙

火藥庫圍線規則

上四

第壹條

火藥庫周圍近接ノ地ヲ分チ二圍トシ火害ヲ豫防スルコト左ノ如シ

第壹圍

火藥庫牆壁外拾四間以内ノ地ニ於テ諸種ノ建物ヲ設ケ材木草秣其他

總テ燃質物ヲ蓄積スルコトヲ禁ス

第貳圍

火藥庫牆壁外貳拾八間以内ノ地ニ於テ火ヲ取扱フ建物ヲ設ケ瓦斯ノ

傳送管ヲ施シ發火質ノ陶品ヲ蓄積スルコトヲ禁ス

三 官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者

明治十五年七月廿八日甲第百五拾壹號布達

烟火ヲ製造セントスルモノハ其種質及場所之ヲ販賣セントスルモノハ其種質玩弄見本花火ヲ詳具シ又其シカタヲ要スル所ノ火藥ヲ購買セントスル者ハ其量目ヲ詳記シ俱ニ戶長ノ奥印ヲ受ケ所屬警察署ヘ願出ヘシ因テ右ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ且又明治十一年天甲第百拾四號布達ハ自今廢止候條此旨布達候事

四 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者

明治十一年天甲第百拾壹號布達

五 蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者

煙火放揚願ハ是迄本廳ヘ差出シ來リ候處以來祭禮祝節開業式等ノ節煙火放揚候モノハ其所屬警察分署宛ヲ以テ直ニ同署ヘ可差出此旨布達候事

六 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲サ、ル者

七 官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者

八 自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他處ニ移シタル者

九 人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者

十 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ニ至ラサル者

參看 明治十四年十二月九日第六拾四號布告

密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候ヘ共當分ノ内其取締懲罰ハ從前之通東京ハ警視廳其他ハ地方官ヘ委任ス

上五

- 拾壹 人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者
- 拾貳 定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者
- 拾三 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

參看 墓地規則之内

第壹條 此規則ニ稱スル處ノ墓地トハ埋葬地燒場及ヒ斃牛馬捨場ノ既設及ヒ將來設置ノ場所ヲ總稱スルモノニシテ今后増設又ハ區域ヲ廣メントスルモノハ出願許可ヲ得ヘシ

第四條 墓地ハ其種類ニ從ヒ火葬又ハ埋葬又ハ斃牛馬ヲ埋メ及傳染病排泄物等
・埋葬スルノ外他用ニ充ツルヲ許サズ又燒場ニ遺骨ヲ埋メスヘカラス
第拾壹條 此規則第壹條第四條ニ違犯スルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

拾四 違警罪ノ犯人ヲ曲庇スルタメ偽証シタル者但被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル時ハ第貳百拾九條ノ例ニ倣フ

參看 刑法第二百十八條三項

違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽証シタルモノハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス

刑法第二百十九條

偽証ノタメ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽証者ハ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第四百貳拾六條 左ノ諸件ヲ犯シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

- 壹 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者
- 貳 水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防衛スヘキノ求ヲ受ケ傍觀シテ之ヲ背ンセサル者
- 三 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
- 四 健康ヲ保護スル爲メ設ケタ規ル則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者

明治十五年十一月八日甲第百七十二號布達

市街掃除規則左之變更正來ル十二月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但明治九年九月天甲第四十七號布達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

市街掃除規則

第壹條 此規則ハ市街ノ道路及ヒ之ニ屬セル溝渠下水橋梁厠房等ノ清潔法ヲ施行スルヲメニ設ケ而シテ左ニ掲クル宿驛及ヒ之ト接續連擔ノ村落ヲ限リ施行スルモノトス

- 津 四日市 桑名 神戸 龜山 關中町 白子 一身田
- 松坂 久居 山田 宇治以上 上野 名張以上 鳥羽志 伊賀 伊勢 伊賀 鳥羽志

明治十七年一月甲第四號增補

右ノ市街宿驛中ト雖モ此規則ニ據リ難キ箇所ハ其地關係ノモノヨリ何出指揮ヲ乞フヘシ

第貳條

市街掃除ハ左ノ區別ニヨリ其住民之ヲ負擔スヘシ

第壹項

同上 道路ノ掃除ハ其中央ヲ分界シ兩側ノ家屋所用主ニテ負擔シ片側ノ場所及片側明家ナル場所ハ其全幅ヲ負擔スヘシ而シテ兩側明家ノ場所ハ其家主兩側明地ノ場所ハ其所用主又其所用主ナキケ所ハ其町村ニ於テ負擔シ掃除負擔人ヲ定メ其住所人名ヲ其町村人民惣代人ヨリ衛生委員ヲ經テ處轉警察署又ハ巡查交番處ニ届出ツベシ

第貳項

同上 橋梁ノ掃除ハ其處在ノ町村ニテ豫メ協議ヲ遂ケ適宜掃除負擔

人ヲ定メ其住處人名ヲ其町村人民惣代人ヨリ衛生委員ヲ經テ所轄警察署又ハ巡查交番所ニ届出ヘシ

第三項

溝渠下水ノ掃除ハ其處用關係及ヒ沿涯ノ人民協議豫メ其負擔ヲ定メ置キ平常疏通及ヒ毎年一度寒冷ノ候ニ於テ大浚ヲナシ其汚泥ハ人家遠隔ノ地ニ捨ツヘシ但負擔人ノ住處人名ヲ届出ルコト前項ニ同シ

第四項

厠房ノ掃除ハ其持主ニテ負擔シ汲取ヲ怠タルヘカラス其掃除人ヲ定ムルモノハ掃除人ニテ負擔スヘシ

第三條

道路ノ凹凸ヲ平ケ其兩側ニ便宜溝ヲ作り雨潦ノ滯留ヲ防キ又旱燥烈風ノ際ハ時々水ヲ洒テ飛埃ヲ鎮壓スヘシ

第四條

但腐敗汚穢ノ惡水ヲ洒キ又ハ溝渠ノ汚泥ヲ以テ置土スヘカラス 同 上 厠房捨場ハ可成人家ニ隔リ飲用水ニ關係ナキ地ヲ擇ミ衛生委員ノ檢査ヲ經テ設置シ相當ノ外圍ヲ作り且厠房捨場ノ標札ヲ建テ其厠房ノ堆積セサル様便宜野外ニ於テ之ヲ燒却又ハ埋却ノ方法ニ設ケ負擔人ヲ定メ其住處人名

第五條

厠房ハ必ス相當ノ雨覆及ヒ外圍ヲ作り汚物ヲ露出スヘカラス且其持主

第六條

厠房ハ必ス相當ノ雨覆及ヒ外圍ヲ作り汚物ヲ露出スヘカラス且其持主

第七條

厠房ハ必ス相當ノ雨覆及ヒ外圍ヲ作り汚物ヲ露出スヘカラス且其持主

第七條 惡役豫防上溝渠下水廁房屋芥拾物等ハ防臭藥ヲ注滿スルヲ必要ト見認

ルルハ衛生委員ハ負擔ノ人民ヲ指圖シテ之ヲ注滿セムヘシ若シ之ヲ怠ルト

第八條

第九條

第十條

以テ罰セラルヘシ

明治十五年十一月八日甲第百七十四號布達

賣藥部外藥劑調製并販賣規則別冊之通相定メ來ル明治十六年一月一日ヨリ施行候
條此旨布達候事

別冊

賣藥部外藥劑調製并販賣規則

第一條

第二條

第三條

第四條

此規則ニ稱スル處ノ賣藥部外藥劑トハ左ノ品類ヲ云

鼠取藥劑取藥風紐ノ類

防臭藥蚊遺粉石炭酸入石鹼同線香ノ類

凡藥品ヲ以テ調製シ若シハ藥品ヲ配合セル飲食物化粧水齒磨粉ノ類

第五條

賣藥部外ノ藥劑ヲ調製シテ販賣セントスルモノハ藥味分量用法功能ヲ

詳記書式ニ製劑相添鑑札願出ヘシ

第六條

縣廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其取扱上失誤ノ虞ナキモノ及毒劑藥取給ニ

關係セサルモノ其他弊害ナシト見認ムルモノニ限り之ヲ評シ鑑札ヲ附與スヘ

シ但本文ニ據テ許可セシ後ト雖モ更ニ其害ヲ發見スルトキハ鑑札ヲ取上ケ販

賣ヲ差止ムヘシ

第七條

賣藥部外ノ藥劑ヲ販賣スルモノハ檢査濟ノ看板書式ヲ掲クヘシ

第八條

藥味分量用法功能方名等ヲ改正セントスルルハ其理由ヲ詳記シ鑑札相

第九條

添ヘ檢査願出ヘシ

第十條

鑑札ヲ他人ニ讓渡サントスルルハ讓受人ト連署シ鑑札書換ヲ願出ヘシ

第十一條

檢査ヲ經スルテ販賣シ及ヒ鑑札ヲ貸借スルヲ禁ス

第十二條

營業人廢業若シハ死亡セハ鑑札ヲ返納シ改氏名代替リ其他一身上ニ異

第十三條

動ヲ生シタルトキハ書換ヲ請フヘシ又水火盜難等ニテ毀失シタルトキハ其事

第十四條

由テ詳記シ再附ヲ請フモノトス

第十五條

第五條第七條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○書式

第壹号

賣藥部外藥劑檢査願用紙半野
紙二通

一方名

藥品分量

製法詳細

用法詳細

功能詳細

右藥劑調製何處ニテ發賣仕度候間御檢査ノ上御差支無之候ハ、鑑札御下渡被下度依テ製劑相添此段奉願候也

國郡町番屋敷

族籍 氏名 印

年月日

縣令宛

第貳号

檢査	取	藥
濟	或何々藥	

調製人住處氏名ハ營業人ノ都合ニヨリ記入スルモ妨ケナシ

參看 明治十五年十一月八日甲第百七十六號布達

今般中第百七十四號ヲ以テ賣藥部外藥劑調製并ニ販賣規則發行情候ニ付テハ從前許

可ノモノハ更ニ檢査願出ルニ不及ト雖モ來ル十二月三十一日マテニ鹽札願受クヘシ此旨布達候事

參看明治十六年三月十四日甲第二十二號布達

今般甲第二十一號ヲ以テ賣藥部外藥劑調製并ニ販賣規則第壹項中腰下藥ノ

三字刪除候ニ付テハ此迄檢査濟販賣ノ者モ向后二年ナ期シ該等販賣不相成候條此

旨相達候事

明治十六年十月二十四日甲第九十號布達

針灸取締規則別冊之通相定來ル十一月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但從前ノ諸達指令等此規則ニ抵觸スルモノハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

別紙

針灸取締規則

第壹條 針術又ハ灸治ハ免狀所持ノモノ 從來鹽札所ニ非サレハ營業スルヲ得

第貳條 針術又ハ灸治ヲ營業セントスルモノハ試驗願書ニ修學履歷書ヲ添ヘ第

三條ニ明示セル試驗期日迄ニ願出ヘシ但年齡ハ滿廿年以上ノモノニ限ル

第參條 針術又ハ灸治試驗ハ毎年二月五月八月十一月ノ十五日ヨリ縣廳内ニ開

場シ左ノ科目ニ據リ適宜試問シ其應答合格ノモノニハ營業免狀ヲ附與スヘシ

一針又ハ灸ヲ施シ差支ナキ局部及其解剖大意
一針又ハ灸ヲ施スヘキ病候

第四條 針術又ハ灸治ハ危險ノ症ニアリテハ内外科醫ノ指圖ニ非レハ施ス可ラ
ス

第五條 藥劑ヲ與ヘ又ハ之ヲ指ホスヘカラス

第六條 自家術ノ信用ヲ得ンガ爲メ神佛等ニ託シテ人ヲ惑シ又ハ強テ其術
ヲ施スヘカラス

第七條 免狀紛失又ハ改姓名等異動ヲ生シタルトキハ再附又ハ再換願出ヘシ

第八條 此規則第壹條第四條第五條第六條ニ違犯スルモノハ違警罪ヲ以テ罰セ
ラルヘシ

明治十五年一月三十一日甲第十九號布達

斃牛馬取扱規則左之通相定候條此旨布達候事

斃牛馬取扱規則

第壹條

明治十七年一月 斃牛馬ヲ解体セントスルトキハ其場所 人家ヲ距ル二
甲第六號改正 丁以外ノ地
ナ記シ所轄警察署若クハ巡查番所ニ届出テ之カ監督ヲ受クヘシ

但斃牛馬ヲ買取リ解體セントスル者ハ木文届書ニ飼主ト買主ト連署スヘシ
解體ノ肉ハ勿論臟腑骨節其他汚穢物ハ都テ其場ニ於テ封臭液或ハ綠礬

第貳條

末ヲ撒布シ速ニ取除クヘシ

第三條

同上 斃牛馬ヲ埋葬セントスルトキハ其場所 斃牛馬
改正 推場 ヲ記シ所轄警察署若
クハ巡查番所ニ届出ツヘシ

第四條

同上 此規則第壹條第三條ニ違犯スルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ
追加

明治十五年一月二十六日甲第十六號布達

明治十年月

十一 天甲第百六十三號及ヒ同年月

十二 天甲第百七十號ヲ以テ屠牛及禽獸肉

販賣取締規則并ニ屠牛場距離ノ義布達候處右相廢シ屠牛及ヒ牛肉販賣規則左ノ相
定候條此旨布達候事

但從來營業ノモノモ第壹條ノ手續ニヨリ本年二月二十八日限リ更ニ出願候議ト

心得ヘシ

屠牛及牛肉販賣規則

第壹條

屠牛ノ業ヲ營マント欲スル者ハ願書ニ屠場ノ位置及其近傍ノ地形ヲ記
シタル繪圖ニ添ヘ鑑札ヲ願受クヘシ

但數人ニテ一屠場ヲ設クルモノハ連署スヘシ

第貳條

屠場ハ人家ヲ距ル二丁以外ニシテ衛生上障害ナキ地ニ非ラサレハ之ヲ
設クルコトヲ許サス

第三條

屠場ハ專テ清潔ヲ要シ掃除洗淨ヲ怠ルヘカラス

第四條 明治十七年一月 牛ヲ屠殺セントスルモ其期日ヲ所轄警察署若クハ巡查交番所ニ届出テ之カ監督ヲ受クヘシ

第五條 屠殺スル牛ハ現場ニ於テ獸醫ノ診斷ヲ受ケ健康ノ見認アルモノニ限ル但屠殺ノ都度其頭數及牝牡ノ別等ヲ屠場所屬ノ衛生委員ニ届出ヘシ

第六條 牝牛ハ牛種蕃息ノ基本ニ付屠殺スヘカラス但十二三歳以上及孕牛ニ適セサルモノハ苦カラス

第七條 牛肉販賣者ハ他ノ獸肉ヲ混合シ及ヒ屠場不分明ノ肉ヲ販賣スヘカラス
第八條 屠牛營業人ニ於テ姓名住所變換或ハ相續人ニ於テ引續營業セントスルモハ鹽札書換願出テ廢業又ハ死亡スルトキ速ニ返納スヘシ

但屠場ヲ轉スルモノハ第五條手續ニヨリ書換願出ツヘシ
第九條 同上 此規則第五條第七條ニ違犯スルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

明治十五年十一月十日甲第七十五號達

墓地規則左之通相定メ候條此旨相達候事

但既設ノ墓地今后尙使用スヘキモノハ其慣用ニ據ルヲ得ヘシト雖モ健康ニ害アルモノハ可成改良ノ見込ヲ立ツヘシ尤其害特ニ甚シト認ムルトキハ之カ改良ヲ命スルコトアルヘシ

墓地規則

第一條 此規則ニ稱スル處ノ墓地トハ埋葬地焼場及ヒ斃牛馬捨場ノ既設及ヒ將來設置五號ニテ以下増補

廣メントスルモノハ出願許可ヲ得ヘシ
第二條 墓地ハ宗旨若クハ種族ニ據リ之ヲ別設スルヲ許サス

但一町村數部落ニ分シ其距離遠隔等ニテ實際増設ヲ要スル者又ハ實際墓地狹隘等ニテ其區域ヲ廣ムルヲ要スルモノハ審査ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第三條 墓地ハ一町村已上ノ其葬タルヘシト雖モ其町村ニ於テ死亡スルモノハ何處ノ人タルト問ハス該墓地ニ葬ルヲ得

第四條 明治十六年五月甲 墓地ハ其種類ニ從ヒ火葬又ハ埋葬又ハ斃牛馬ヲ埋メ及傳染病排泄物等ヲ燒埋スルノ外他用ニ充ツルヲ許サス又燒場ニ遺骨ヲ埋葬スヘカラス

第五條 墓地ノ費用ハ其地ノ習慣ニ從ヒ習慣ナキモノハ其地盤ノ所有者ト使用ハ者トノ協議ニ任ス

第六條 同 墓地ハ垣溝ノ類ヲ以テ判然境界ヲ設ケ埋葬地ト燒場ト相連ナルモノ其區域ヲ立ツヘシ

但地形ニヨリ境界區域ノ判然タルモノハ本條ノ限リニアラス

第七條 燒場ヲ修繕シ若クハ新設スルトキハ可成火爐ヲ造リ二丈以上ノ烟筒ヲ

設クヘシ

第八條 明治十七年 墓地ハ可成民有荒蕪地ノ内ニテ之ヲ見立テ衛生委員ノ檢

査ヲケ其事由及地權字番反別ヲ詳記シ近傍ノ景況及人家并ニ飲用水ノ距離ヲ

受詳記セル圖面ヲ添ヘ該町村人民又ハ人民中ヨリ惣代人ヲ設ケテ出願スヘシ

但墓地ト爲スヘキ場所ハ人家并ニ飲用水ノ距離三十間以外ノ地ニ限ル

第九條 前條出願ヲ爲スルハ衛生委員ノ檢査意見書ヲ願書ニ副テ差出シ猶郡長

ニ於テハ其當否ヲ勘査シ何分ノ意見書ヲ副ヘ進達スヘシ

第十條 墓地ノ地券面所有主變換スルキハ其住戶氏名ヲ詳記シ郡役所ヨリ縣廳

ヘ報告スヘシ

第十一條 同上 此規則第一條第四條ニ違犯スルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘ

明治十四年六月二十四日甲第百一號布達

水製造發賣并ニ請賣規則別冊之通相定候條此旨布達候事

但既ニ水質檢査濟ノ者ハ其月日ヲ明記シ速ニ鑑札下附願出ヘシ

別冊

水製造發賣并ニ請賣規則

第一條 水ヲ製造セントスル者ハ毎年其製造場ノ地名圖面并ニ貯藏所ノ地名ヲ

詳記シ原泉相添ヘ檢査願出ツヘシ

第二條 水製造人ニ於テ發賣ノ節ハ製造ノ噸數ヲ記シ水塊ヲ添ヘ更ニ檢査願出

ヘシ

但他管内ニ於テ製造ノ水ハ其許可ノ証ヲ添フヘシ

第三條 縣廳ニ於テハ水質檢査ノ上飲料ニ適スル片ハ發賣免許證札ヲ與ヘ若シ

飲料ニ適セント認ムル片ハ投棄ヲ命スヘシ

第四條 請賣ヲナサントスルモノハ其製造ノ人名及製造ノ地名ヲ詳記シ郡役所

ニ届出スヘシ

但製造人他管ナラハ其水塊ヲ添ヘ出願許可ノト本條ノ手續ニヨルヘシ

第五條 請賣人ハ其店頭ニ何地製ノ水ト記シクル看板ヲ掲クヘシ

但行商ハ本文ノ廉ヲ荷桶石クハ荷箱等ニ表記スヘシ

明治十七年一月十四日甲第二號布達

明治十四年六月甲第百四號布達牛乳搾取販賣規則左ノ通改正來ル二月一日ヨリ施行

ス此旨布達候事

牛乳搾取販賣并ニ請賣規則

第一條 牛乳搾取販賣并ニ請賣共其免許鑑札所持ノ者ニアラサレハ營業スヘカ
スラ又牛乳搾取販賣人ハ甲養場ニ於テ免許ヲ得タル鑑札ヲ以テ乙養場ノ營業
ヲナスヲ得ス

第二條 牛乳搾取販賣ヲ營業セントスルモノハ願書ニ具ス 書式末ニ養場及隣地ノ繪圖
ヲ添ヘ鑑札願出ツヘシ
牛乳搾取販賣ヲ營業セントスルモノハ何某ノ牛乳ヲ請賣スル旨ヲ願書面ニ明記シ
且其搾取販賣ハト連署請賣鑑札願出ツヘシ

第三條 牛乳搾取販賣人及請賣人ニ於テ其住所氏名ヲ變換スルキハ免許鑑札訂
正願出ツ可シ又牛乳搾取販賣人ニ於テ其養場ヲ轉スルキハ免許鑑札書換願出
ツ可シ牛乳搾取販賣人及ヒ請賣人廢業又ハ死亡スルキハ免許鑑札ヲ返納ス可
シ尤相續ハニ於テ引續營業セントスルキハ其理由ヲ詳記シ免許鑑札書換願出
ツ可シ

第四條 牛乳搾取販賣人ハ其畜牛ノ増減アルキハ其都度之ヲ届出可シ尤畜牛死
亡ノキハ減數届ニ主診醫師ノ診斷書ヲ添フ可シ若疾病ト見認ムルキハ
明治九年四月
天甲第三十九號布達ニヨリ速ニ届出可シ

第五條 牛乳搾取販賣人ハ養場ノ掃除ヲ怠ラヌ勉メテ臭氣ヲ防遏シ盛夏炎熱ノ
候又ハ人畜流行病アルキ及ヒ養場ニ病牛アルキハ殊ニ注意スヘシ

但畜牛病ニ罹ラハ速ニ別厩ニ繋キ且醫師ノ診斷ヲ受ク可シ

第六條 乳汁ヲ運搬シ又ハ之ヲ貯フルニ銅製黃銅等有害ノ器具ヲ用ヒサル様注
意ス可シ

但運搬器貯器トモ勉メテ清潔ニス可シ

第七條 牛乳搾取販賣人及受賣人ニ於テ左ノ乳汁ヲ販賣ス可カラス

一他ノ品種ヲ混合シタル乳汁

一腐敗シタル乳汁

一病牛ノ乳汁

第八條 此規則第一條第七條ニ違犯スルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラル可シ

書式

牛乳搾取販賣願 〔書換願ノ時ハ牛乳搾取販〕
賣鑑札書換願ト記ス可シ

何國産

一牛

何頭
何頭
何頭
何頭

右何地ニ於テ乳汁搾取致度候間鑑札附與 〔書換願ノトキハ付〕 被下度尤四隣ニ於
テ故障無之候條養場繪圖面 〔書換願ノキハ并舊〕 相添ヘ此段奉願候也

〔蓋札ノ四字ヲ加フ〕 國郡町村番地屋敷

年月日 借地ナレハ地主連署ノ一 族籍 何 某 印

國郡町村番地屋敷

隣家 何 某 印

同 何 某 印

縣 令 宛

明治十四年六月二十八日甲第百五號布達

產婆規則別冊之通相定候條此旨布達候事

但從來開業ノモノハ願書ニ修學歷證書ト開業年月日トチ明記シ本年九月三十

日マテニ鹽札下附屬出ヘシ

別冊

產婆規則

第一條 產婆ヲ開業セントスル者ハ修學歷證書ニ公私學塾ノ卒業証書寫若ク

ハ師家習熟ノ認可書ヲ添ヘ開業鹽札願出ヘシ

第二條 產婆ハ藥劑ヲ投シ若クハ藥劑ヲ指圖スヘカラサルハ勿論醫師ノ指圖

ニアラサルハ器械ヲ用ヒ或ハ非常ノ施術ヲ施スヲ禁ス

第三條 明治十七年一月 產婆ハ明治十三年十月甲第百三十一號布達死亡届取

甲第八號改正 報規則ニ據リ四十以上ノ流産或ハ死胎分娩ノ届書ヲ作り其家ハニ附與スヘ

第四條

司七 追加 此規則第一條第二條ニ違反スルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘ

明治十四年六月二十九日甲第百六號布達

向盾吸角蟻針ノ技術ヲ以テ開業不相成候條從來開業ノ者ニ限リ營業鹽札可下渡

ニ付本年九月三十日限リ修學歷證書ヲ添ヘ鹽札可願出猶又該營業ノ者ニ於テ藥

劑ヲ投シ或ハ藥劑ヲ差圖スヘカラサルハ勿論醫師ノ指圖ヲ受クルニアラサルハ

施術不相成候條此旨布達候事

但本文期限後ハ如何様ノ事情申立候共鑑札不下渡候條目下病氣他行等ニテ休

業ノモノ及ヒ其他ノ事故ニテ鹽札難願出者ハ本人若クハ親戚ヨリ右期限迄ニ

其事故詳細申出候様可致事

參看明治十五年六月十六日甲第百二十五號布達

明治十四年六月甲第百三號ヲ以テ藥舖規則布達候處今般藥舖藥種商規則左之通

相定ノ本年九月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但明治十四年六月甲第百三號布達藥舖規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

藥舖藥種商規則

第一章

第一條 此規則ニ稱スル所ノ藥舖トハ醫師ノ處方書ニ據リテ調劑スルヲ業トスルモノヲ云ヒ藥種商トハ專ラ單味ノ藥品ヲ販賣スルヲ業トスル者ヲ云フ

第二條 藥舖若クハ藥種商ヲ開業セントスルモノハ第二章及第三章ニ示ス處ノ手順ヲ以テ官ノ許可ヲ受クヘシ又支店ヲ設クルハ其擔當人ナシテ許可ヲ受ケシムヘシ

第三條 藥舖藥種商ハ相兼テテ營業スルヲ得醫業ト相兼ルヲ得ス但藥舖藥種商ヲ相兼テ營業スルモノハ各別ニ其許可ヲ受クヘシ

第二章

第四條 藥舖ヲ開業セントスル者ハ試驗願書ニ修學歷歷書ヲ添ヘ第五條ニ明示セル試驗期日迄ニ縣廳ニ願出ツヘシ

第五條 藥舖開業試驗ハ毎年二月五月八月十一月十五日ヨリ縣廳内ニ開場シ其應答合格ノ者ハ内務省ヨリ開業免狀ヲ附與セラルヘシ又落第ノ者ハ試驗後六ヶ月以上ヲ經テ再試験ヲ願フコトヲ得

第六條 藥舖開業試験ノ科目ハ左ノ五科トシ每適宜ニ問題ヲ與ヘ試験委員ノ眼前ニ於テ答記セシム
算術 物理學大意 化學大意 藥物學大意 處方學大意

第七條 官立學校ニ於テ製藥學卒業證書ヲ得タルモノハ更ニ試験スルコトヲ要セ

ス其修學歷歷書ニ卒業證書ヲ添ヘ開業免狀附與テ願出ツヘシ

第八條 藥舖開業免狀所持ノ者他府縣ヨリ寄留若クハ轉籍シテ該舖ヲ開業スルハ又ハ當縣人民他府縣寄留中ニ該免狀ヲ受ケ歸縣開業スルハ修學歷歷書ニ免狀寫ヲ添ヘ第十七條ニ照シ其旨届出ツ可シ

第九條 藥舖ハ左ノ看板ヲ掲クヘシ
二尺五寸

七	免	住所	氏名
寸	藥舖		
許			

第十條 藥舖ニ於テ藥劑ヲ調合スルハ明治十三年十二月甲第百八拾二號布達醫業規則第十二條ニ掲ケタル處方書ニ據ル者ニ限ル

第十一條 藥舖ニテ調合セル藥劑ハ其包紙貼紙或ハ別紙等ニ患者ノ氏名及ヒ用法服量内服藥外用藥等ノ別並ニ藥舖ノ住所氏名年月日ヲ記シ捺印シテ之ヲ請求者ニ與フヘシ

第十二條 藥舖ハ醫師ノ處方書ニ登錄セル分量ニ隨ヒ精密調劑シ毫モ私意ヲ加フヘカラス若シ藥品ノ名稱不分明又ハ分量不適當ト思惟スルハ之ヲ處

方主ニ質シ了解之上調劑ス可シ

第十三條 藥舖ハ其調劑ノ醫師處方書ヲ保存シ臨時點檢ノ用ニ供ス可シ

第三章

第十四條 藥種商ヲ開業セントスルモノハ修業履歷書ヲ添ヘ開業免許鑑札附

與テ願出ツ可シ

第十五條 藥種商ハ醫師處方書ノ有無ニ拘ラズ藥劑ヲ調合シ若シクハ之ニ類

似ノ所業ヲナス可カラス

第四章

第十六條 藥舖藥種商ハ毒藥劇藥ト通常藥品ト其置場ヲ區分スヘシ又如何様

急劇場ノ合ト雖モ毒藥劇藥ニ使用セシ器械ハ相當ノ洗淨ヲ行フニ非レハ他

ニ使用ス可カラス

第十七條 藥舖開業免狀若クハ藥種商開業免許鑑札ハ共ニ之ヲ貸借ス可カテ

ス又水火盜難ニ毀燒紛失又ハ改姓名ノ節ハ其理由ヲ記シ再附若クハ書替ヲ

願出ツ可シ

第十八條 藥舖開業免狀ハ管内ニテ轉居若クハ管外ニ寄留スルトキハ書換ニ

及ハス藥種商開業免許鑑札ハ管内ニテ轉居ノ都度書替願出且管外ニ寄留ノ

節ハ之ヲ返納ス可シ

第十九條 藥舖開業免狀及藥種商開業免許鑑札ハ死亡廢業ノ節ハ速ニ返納ス

可シ

明治十三年七月九日第三十四號布告

明治十二年八月第三十二號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ傳染病豫防規則左之通相定

候條此旨布告候事

傳染病豫防規則

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺、腸室扶私、赤痢、霍布拉利亞、發疹

室扶私及ヒ痘瘡ノ六病ヲ云フ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルキハ地方長官ハ內務省ニ具申シ

豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ遅クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町

村衛生委員ニ通知スルヲ要ス衛生委員ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知

シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳(東京府下ハ府廳及ヒ警視本署)ニ届出ヘシ地方廳ハ

一週毎ニ新舊患者及治癒死亡ノ數ヲ內務省ニ申報スヘシ

但土地ノ便宜ニヨリ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出警察署ヨリ衛生委員ニ通知ス

ルモ妨ナシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキハ其性狀ヲ記シテ速ニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其他碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ

但書(十三年十二月第五十四號布告ニテ削除
十三年十二月第五
十四號布告削除

第五條 該管廳、兵營、軍艦、監獄及ヒ官立ノ學校、病院、製作所等ニ於テ傳染病者アルキ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺、赤痢、發疹室扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ルルハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得

但人民協議ヲ以避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ

第七條 醫師并ニ衛生委員ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ點付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶タシムヘシ

但患者治愈死亡又ハ避病院ニ入リタル後相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運轉シ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區畫シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且ツ他ニ改葬スルヲ許サス

但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フニフラヤシムル再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流、水道及ヒ厠園、芥溜、下水、溝渠等總テ病毒滿生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルルハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査シ患者若クハ死者アルルハ此規則ニ從テ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛烈ナルルハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員ト

ナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルコトヲ得

明治十五年第四此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備フル病ヲ診斷スルハ惣テ檢疫委員ニ届出ヘシ

但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示シ内務省ニ申報スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ムル

ヲ得

明治十四年第五十八號布告追加 虎列刺己ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサル様遮斷シ得ヘキモノト見認ルトキハ地方官ヨリ内務卿ニ稟議シ交通ヲ絶クシムルノ處分ヲナスヲ得 但要用ノ者ハ掛官吏検査ノ上交通ヲ許スヲ得

腸室扶私病

第十六條 腸室扶私流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

實布埜里亞病

第十八條 實布埜里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰喋及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹室扶私病

第十九條 十三年十二月第五十四號布告改正 發疹室扶私病者アルルハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十三條第十四條及ヒ第十六條ヲ適用スヘシ

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行

フニアラサレハ他用ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條 十五年第四十八號改正 痘瘡病者アルルハ第十條第十一條及ヒ第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ

罰則

第二十二條 醫師衛生委員此規則ニ違背シタルルハ五十圓内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルルハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條 十五年八月警視廳ノ同ニ對シ該條消滅スヘキ旨指令アリ

明治九年五月十八日內務省甲第十六號布達

天然痘豫防規則別紙ノ通相定候條其方法細目並ニ右ニ關スル費用収集支給等ノ儀ハ各地方ノ便宜ニ從ヒ精々普及候様可取計此旨布達候事

天然痘豫防規則

第一條 小兒初生七十日ヨリ滿一年迄ノ間ニ必ス種痘スヘシ若シ事故アリテ此期ニ後ル、モノハ其次第ヲ醫務取締若クハ區戸長ニ届クヘシ 但初種ノ後五年或ハ七年毎ニ再三種ヲ試ムヘシ

第二條 種痘シタル者ハ必ス其種痘醫ヨリ種痘濟ノ證書ヲ受ケ取り置クヘシ
但天然痘變痘ニ感シタルモノモ本文ニ準シテ醫師ノ證書ヲ受ケ取り置ク
ヘシ

第三條 醫務取締若クハ區戶長ハ初種ノモノ再三種ノモノ及ヒ事故アリテ種
痘スルノ能ハサルモノ等夫々検査ノ地方廳ニ届出ツヘシ

第四條 地方廳ニ於テハ醫務取締若クハ區戶長ノ届書ヲ以テ半年分ツ、取
纏メ毎年三月九月内務省ニ出ス可シ

第五條 送籍ノ時ハ必ス第二條ニ掲ケル醫師ノ證書ヲ所持スヘシ
但滿二十五年以上ノモノ並天然痘濟ノ証跡アルモノハ此限リニアラス

第六條 管内ニ於テ天然痘流行スルキハ管廳ヨリ流行ノ緩急病症ノ輕重等ヲ
接近ノ府縣ニ報告シ且内務省ニ届出ツ可シ

第七條 前條ノ際ニ臨テハ未痘兒ハ勿論種痘濟ノ者ニ至ル迄年齢期限ナ間ハ
ス普ク接種スヘシ

但未決既決監獄繫留ノ囚徒ハ本條ニ準シ官ヨリ接種セムヘシ
第八條 第一條及ヒ第二條ノ旨ヲ遵守セ、或ハ無稽ノ説ヲ唱ノ種痘ヲ植、若
クハ他ハテ蠱惑スル等ノ者ハ違式註違ヲ以テ論シ罰金ヲ科スヘシ

五 人ノ通行ス可キ場所ニアル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ

爲サ、ル者

六 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ噉シ又ハ驚逸セシメタル者

七 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者

八 狂犬猛獸ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放ケタル者

九 變死人ノ檢視ヲ受ケヌシテ埋葬シタル者

十 墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者

十一 神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者

十二 公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者

但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二拾七條 左ノ條件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留

ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 轆リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 二 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者
- 三 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者

明治十六年太政官第二十二號達

刑法第四百二十七條第三項夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スルモノト有之候處軍人制服ヲ着用乘馬シタル者ハ右ノ限ニ無之候條此旨相達候事

- 四 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
- 五 瓦礫ヲ道路家屋園囿ニ投擲シタル者
- 六 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
- 七 汚穢物ヲ道路ノ家屋園囿ニ投擲シタル者
- 八 警察之規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者

明治十四年三月三十日甲第四十六號布達

明治十年^四月天甲第五十二號布達旅籠屋取締規則別紙之通改正候條此旨布達候事
別紙

旅籠屋取締規則

- 第一條 旅籠屋營業ノ者ハ左ノ條々ヲ遵守スヘシ
- 第二條 新規營業或ハ廢業ノ節ハ其旨所屬警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第三條 旅籠屋何某ト標記シタル看板ヲ店頭ニ掲ケ夜間ハ點燈ニ換フヘシ
- 第四條 宿泊帳ヲ製置シ宿泊人ノ族籍姓名年齢ヲ記載シ其滯留三日以上ニ及
フ者ハ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ其警察署又ハ分署無之地ハ所屬戶長役場
ニ差出スヘシ戶長ハ之ヲ遲シモ十五日以内ニ所屬警察署又ハ分署或ハ巡查
交番所又ハ巡行ノ巡查ニ差出スヘシ
- 第五條 但警察官吏ニ於テ時々宿泊帳ハ勿論宿泊人ヲモ檢査スルコトアルヘシ
宿泊帳ニ就キ每一ヶ月ノ宿泊人員ヲ查出シ翌月十五日限所屬警察署
又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第六條 單身ノ旅客ト雖モ故障ナク宿泊セシムヘシ若シ其不審ト認ムルモノ
ハ第八條ノ手續ヲナスヘシ
- 第七條 旅客ヲ待スルハ精々實意ヲ以テシ殊ニ病氣等ノ節ハ醫藥ヲ始メ看護
方厚ク世話致シ若シ死去スルハ其旨詳記シ醫師診斷書相添速ニ所屬郡役

所ニ届出ヘシ

第八條 宿泊中金錢ヲ濫用シ或ハ故ナク滞留スルモノ其他怪敷舉動ヲ見認ムルトキハ本人留置キ直ニ所屬警察署又ハ分署或ハ巡行ノ巡查等ニ密告スヘシ

第九條 宿泊人身元調ノ節ハ本人ノ氣付カサル様厚ク注意シ其他探索向ハ何事ニ依ラス他ニ漏ス可カラズ

第十條 宿泊ハ變死死傷又ハ所持ノ物品紛失等ノ節ハ同宿者ノ他出テ留置キ速ニ其事由ヲ所屬警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第十一條 旅客ノ忘レ置キタル物品ハ速ニ送り届ケテナシ若シ其持主判然セサル等ノ場合ニ於テハ物品相添ヘ兵長役場ヲ經テ其旨所屬警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第十二條 往來ノ旅人ヲ引留メ強テ宿泊セシムル等ノ事ヲナスヘカラス

第十三條 宿泊料ハ相當代價ヲ定メ客室ニ揭示スヘシ

第十四條 貸座敷營業ヲ兼ヌルヲ許サズ但家屋ヲ異ニスルモノハ此限ニアラス

第十五條 船宿營業ノ者モ都テ此規則ヲ遵守スヘシ但看板行燈ハ船宿何某ト標記ス可シ

第十六條

ル可シ

明治十六年十二月 此規則ニ違反シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラ

明治十五年二月一日甲第二十三號布達

明治十四年十二月 甲第二百號布達雇人請宿取締規則左之通改正條此旨布達事

但從來營業者ト雖モ此規則ヲ遵守シ來ル二月二十八日迄ニ鑑札ヲ受ク可シ

雇人請宿取締規則

第一條 雇人請宿ヲ新規ニ開業セントスル者ハ所轄警察署ヘ願出鑑札ヲ受ク可シ改名代替リ等ノ砌リ營業繼續セントスルモノモ亦同シ

第二條 火水盜難等ニ罹リ鑑札ヲ遺毀シタルモノハ其事由ヲ詳記シ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受ク可シ

第三條 甲警察署所轄地ヲ離レ乙警察署所轄内ニ移住シ營業セントスル者ハ甲署ヘ鑑札返納シ更ニ乙所轄警察署ニ願出鑑札ヲ受ク可シ尙ホ轉業廢業死亡又ハ他管下ニ移住等ノ節ハ其段届出鑑札返納ス可シ

但一警察署部内ニ於テ移住スルトキハ其移地ヲ詳記シタル書面ヲ以テ直ニ届出鑑札ノ訂正ヲ受ク可シ

第四條 無鑑札ニテ營業シ若シハ鑑札ヲ他人ニ貸與ヘ又ハ他人ヨリ借受クルヲ禁ス

第五條 雇人請宿營業人ハ雇人名前帳ヲ作り其本籍姓名職業年齡並ニ年月日何所何某ノ雇入ニ口入セシメテ詳細シ變換ノ都度加除ヲ加ニ他日調査ノ用ニ供ス可シ

第六條 本籍不分明ノ者ハ決シテ口入ヲナス可カラズ若シ怪シキモノト見認ルニ於テハ速カニ警察署又ハ分署若シ巡査交番所ニ密告ス可シ

第七條 雇人名前帳ハ時トシテ警察官吏臨檢スルコトアル可シ

第八條 第一條第三條ノ場合ニ於テ願濟届濟ノ上ハ速ニ所管郡役所ニ届出ツ可シ

第九條 明治十六年十二月 此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラレ
甲第百六號追加
ノ外警察署ニ於テ鹽札取上ケニケ年以内營業ヲ停止スルコトアルヘシ

九 醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者

十 死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者

十一 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者

十二 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者

十三 私有地外へ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者

十四 官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者

明治十五年七月二十七日甲第百五十號布達
道路敷地へ床店接續等ヲ設ケントスルトキ願書ハ其場所ノ圖面ヲ添へ該地所轄ノ警察署へ差出スヘシ因テ明治十二年甲第百九十一號布達道路取締規則第七條ヲ刪削シ尙其第三條ヲ左ノ通改正候條此旨布達候事

參看 道路取締規則中
第六條 家屋修繕中足場板圍等ヲ設ケントスルトキハ該地警察署へ届出ツヘ

但下水又ハ雨落際ヨリ二尺ヲ踰ユヘカラス且道巾九尺以内ノ地ハ其場所ノ圖面ヲ添フヘシ

十五 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ廁場等ヲ毀損シタル者

十六 道路橋梁其他ノ場所ニ傍示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

第四百二拾八條左ノ條件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以

上一圖以下ノ科料ニ處ス

一 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者

二 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者

三 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フヘキ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者

參看 明治九年三月五日內務省甲第四號

道修橋梁渡津等ニテ公私ノ別無ク賃錢請求ノ義許可致置候場所モ有之候處自今警部并巡查持區內巡視之節制服着用ノ者ニ限リ賃錢請求不相成候條此旨布達候事

參看 明治十三年四月九日內務省乙第十七號達

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津自今軍隊隊伍ヲ組ミ行進ノ節ハ其賃錢請求不相成候條兼テ許可之架橋渡船願入共ニ無漏可相達候此旨相達候事

參看 明治十三年七月二十二日內務省乙第三十三號達

本年乙第十七號達人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津ノ下ニ又ハ新道ノ四字追加候一條此旨相達候事

參看 明治十五年三月十三日內務省乙第十八號達

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及ヒ私費開鑿ノ道路等郵便脚夫飛信遞送并郵物遞送集配特ニ配達ハケルヲ証スルノ時ニ限リ賃錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡船及ヒ開路願入共ニ無漏可相達此旨相達候事

參看 明治十五年十二月九日內務省乙第六十六號達

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電信配達人配達特ニ配達ハケルヲ証スルノ時ニ限リ賃錢請求不相成候條免許人共ニ遺漏無ク達シ置クヘシ此旨相達候事

明治十五年一月十日甲第二號布達

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及其私費開鑿ノ道路等憲兵巡行ノ節ハ單騎獨歩ト雖モ制服着用ノ節ニ限リ其賃錢請求不相成旨今般內務卿ヨリ被達候條此旨布達候事

四 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者

五 官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル

者

明治十五年一月十九日甲第十二號布達

劇場其他觀物場取締規則左之通相定候條此旨布達候事

但十二年三月甲第二十五號布達郡長へ委任條件中諸興行願ノ事トアル一項ヲ

削除ス

第一條 劇場其他觀物場ヲ開カントスル者ハ其興行ノ種類演劇ハ其題目及場及所及興行ノ日數ヲ詳記シ戶長ノ與書印ヲ請ケ所轄警察署へ願ヒ出テ許可ヲ

請クヘシ

但興行日限ヲ經過シ開場セサルモノハ許可ノ効ナキモノトス

第二條 興行場取締筋ハ出張警察官ノ指揮ヲ受クヘシ

第三條 奔客ノ安全ヲ保ツカクメニ興行場ノ構造ヲ堅固ニスヘシ

第四條 便所ハ興行中毎日掃除シ其他不潔物アラハ速カニ取棄ツヘシ

第五條 奔客ノ散スル時ハ木戸ノ雜沓ヲ制シ怪我等無カラシムヘキ様厚ク注

意スヘシ

第六條 第一條ニ依テ許可ヲ得タルモノハ明治十四年六月甲第百十三號布達

第四條ニ照シ郡役所へ届出ツ可シ

六

溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル

者

恭看 市街掃除規則ノ内

第一條 此規則ハ市街ノ道路及ヒ之ニ屬セル溝渠下水橋梁厠房等ノ清潔法ヲ

施行スル爲メニ設ケ而シテ左ニ掲クル宿驛及ヒ之ト接續連擔ノ村落ヲ限リ

施行スルモノトス

津 四日市 桑名 神戸 龜山 關中町 白子

一身田 松坂 久居 山田 宇治以上 上野 名張以上 伊賀

鳥羽志摩

右ノ市街宿驛中ト雖モ此規則ニ據リ難キ箇所ハ其地關係ノモノヨリ伺出指

揮テ乞フ可シ

第三條 道路ノ凹凸ヲ平ク其兩側へ便宜溝ヲ作り雨潦ノ滯留ヲ防キ又旱燥烈

風ノ際ハ水ヲ洒テ飛埃ヲ鎮壓ス可シ

但腐敗汚穢ノ惡水ヲ洒キ又ハ溝渠ノ汚泥ヲ以テ置土ス可カラス

第七條 惡役豫防上溝渠下水厠房塵芥捨物等へ防臭藥ヲ注瀉スルヲ必要ト見

認ルルハ衛生委員ハ負擔ノ人民ヲ指圖シ之ヲ注瀉セシム可シ若シ之ヲ怠ル

ルハ衛生委員ニテ之ヲ注瀉シ其費用ヲ負擔ノ人民ヨリ取立ルヲ得

七

制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者

- 八 官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放テ又ハ牧畜シタル者
 - 九 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者
 - 十 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
 - 十一 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者
- 第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタルモノハ五錢以上九十錢以下ノ科刑ニ處ス

- 一 橋梁又ハ堤防ノ害トナル可キ場處ニ舟筏ヲ繫キタル者
- 二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 三 車馬ヲ并ヘテ牽テ行人ノ妨害ヲナシタル者
- 四 水路ニ於テ舟ヲ并ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者

- 五 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者
- 六 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サハル者
- 七 制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 八 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クヲ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲナシタル者
- 九 出入ヲ禁止シタル場處ニ濫リニ出入シタル者
- 十 通行禁止ノ傍示ヲ犯シテ通行シタル者
- 十一 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者
- 十二 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者
- 十三 路上ノ常燈ヲ消シタル者
- 十四 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ落書シタル者
- 十五 邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ傍標等ヲ毀損シタル者

十六 他人ノ田野園圃ニ於テ菜蓂ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
十七 公園ノ規則ヲ犯シタル者

定

公園表入口札

- 一 花木ヲ折リ或ハ植物ヲ損害スル事
 - 一 猥リニ焚火スル事
 - 一 垣壁等ニ樂書スル事
 - 一 魚鳥ヲ捕フル事
- 右之條々於園中禁止候者也

明治十年四月

三重縣

公園中札

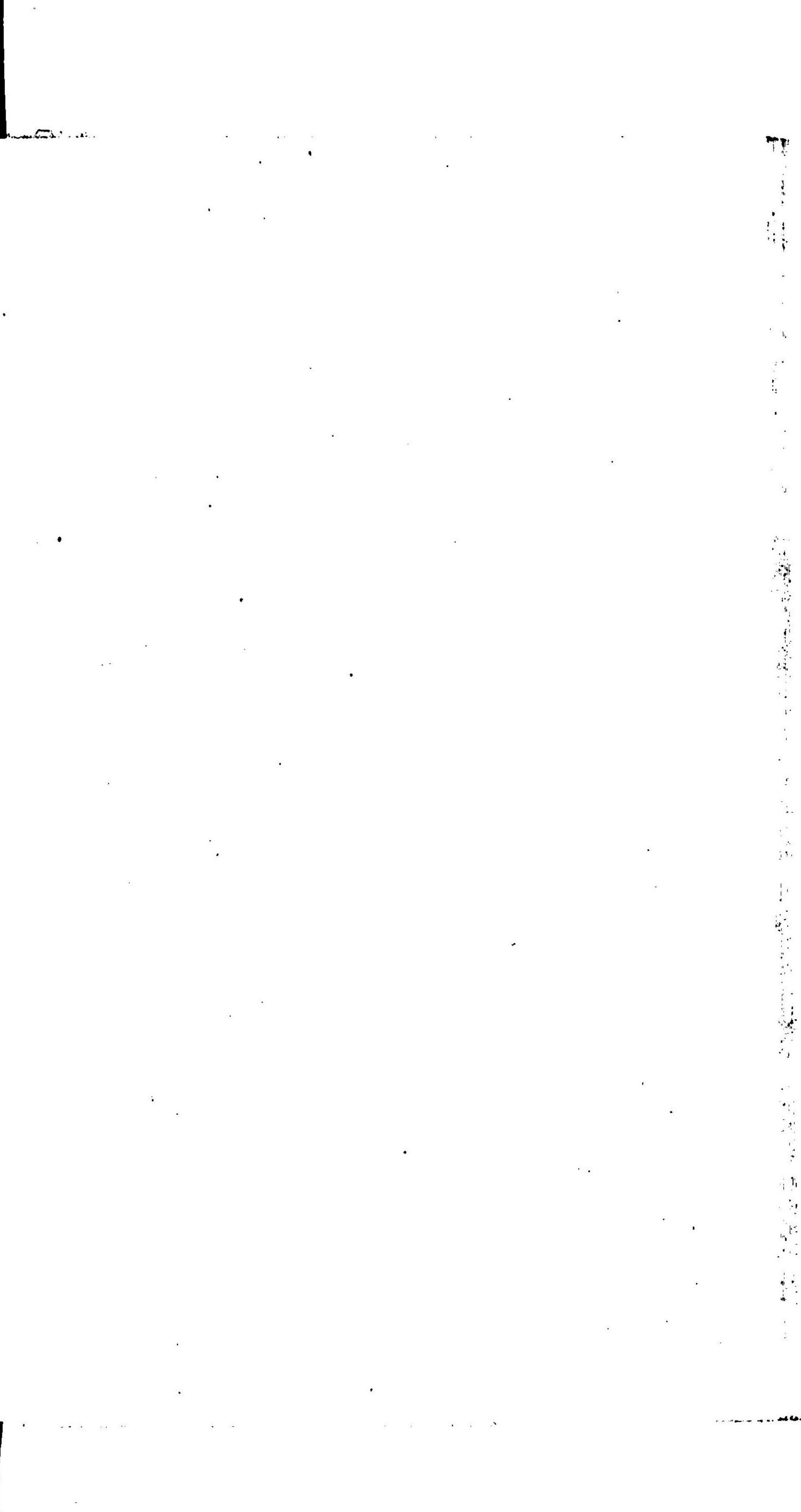
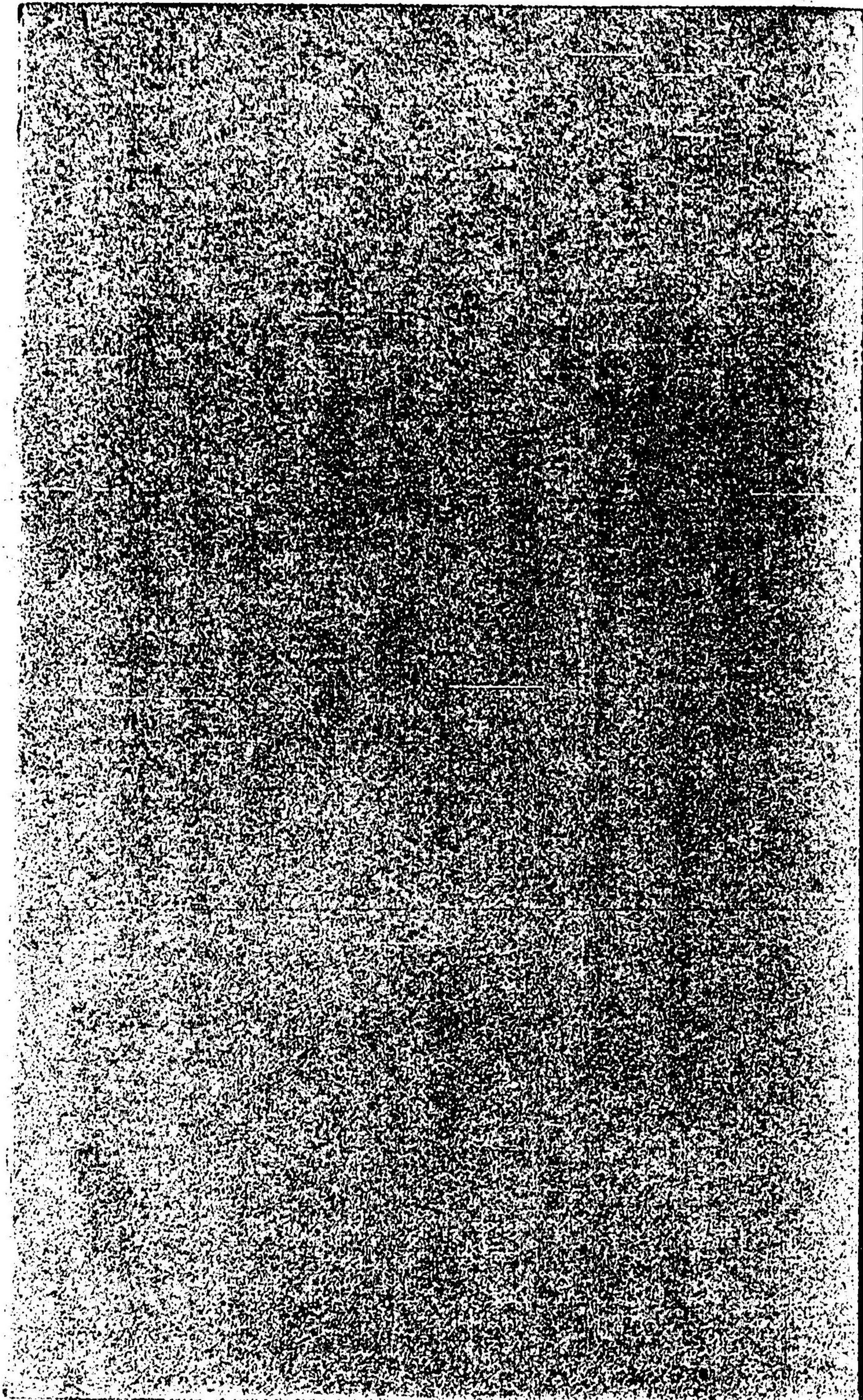
定

- 一 くさ木の花をおりとりまたはうへものをいたむる事
 - 一 みだりにたきびする事
 - 一 かさかべなどへらくがきする事
 - 一 いけの中へ石かわらをなげこむ事
- 右之條々園中にかゝりて禁止候也

明治十一年四月

三重縣

十八 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者
第四百三拾條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル處
ノ違警罪ヲ犯シタルモノハ其罰則ニ從テ處斷ス



三重縣罰法類纂中編

明治十六年七月三日甲第五十六號布達

明治十四年^{十二月}甲第二百一號當縣違警罪目別冊之通改定シ來ル八月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但從前ノ令達本文ニ抵觸スル分ハ此罪目施行ノ日ヨリ廢止ス
別冊

三重縣違警罪目

左ノ諸件ヲ犯シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

但刑法ニ正條アルモノハ其本法ニ從フ

- 一 外國人ヲ私ニ雜居セシメタル者
- 二 旅行免狀ヲ持タサル外國人ヲ私ニ止宿セシメタル者
- 三 客罷若クハ貸座敷ニ於テ族籍姓名ヲ詐稱シ又ハ之ヲ詐稱シテ

明治十六年
二月甲第百十三
號改正

物品ヲ賣買典賣シタル者

四 強テ合力ヲ申掛ケ或ハ物品ヲ押賣シ又ハ押賣セムトスル者

五 穀類ヲ精クル爲メ白砂ヲ用ヒ又ハ其穀類タルヲ知テ販賣シタル者

ル者

六 生河豚ヲ賣買シタル者

但乾魚ハ此限ニアラス

七 製藥免許手續ニ違背シテ製藥ノ試験ヲ受ケサル者

明治九年五月天甲第三號

製煉藥品ノ義ニ付今般内務省ヨリ左ノ通牒達有之候間是迄製藥候者及新規製藥候者共其製品ニ願書美濃紙正副二通常用野半紙普通相添へ可差出明治十七年一月十四日甲第一號ヲ以テ若シ此ノ手續ニ違犯シ製藥ノ試験ヲ受ケスシテ販賣スルモノハ違背罪ヲ以テ罰セラルヘシ

明治九年五月八日内務省乙第五十四號達

府 縣

製煉藥品之儀ハ本邦ニ於テモ往々舶來品ニ勝レル良品モ有之處只管輸入品ヲ妄信ノ概シテ國產ヲ卑ムノ風ニ流レ賈惡藥ノ輸入日ヲ逐テ増加シ其損害不勘ニ付自今製造品試験ノ上其良品ヲ鑑定シ免許鑑札相渡スヘク候條醫療用工職用ヲ不問藥品製煉致シ候者ハ其製造品相添左ノ簡條書ニ從ヒ願出許可ノ上販賣致シ候様可取斗此旨相達候事

但阿片製造人ノ儀ハ詮議ノ次第有之候條富分地方限リ開届置昨八年當省乙第百五十六號達ニ照準シ可取斗事

製藥免許手續

一 製藥人ハ族籍住所姓名等詳記シタル願書ニ通テ作り其製品ヲ添へ管廳へ出サシメ管廳ハ之ニ添書シテ内務省ニ出スヘシ

一 製品ハ各地ノ便宜ニ就キ最寄同藥場ニ送致シ試験シ置キ其譯添書ニ追申スヘシ

但 明治九年天甲 司藥場ニ於テハ試験ノ上直ニ本省ニ差出シ別ニ該管廳ニ通知セサルモノトス

一 試験ノ上良品ナルモノハ免許鑑札ヲ交付シ若シ其製造十全ナラサルモノハ本人ノ志願ニヨリ司藥場ニ於テ製煉ノ方法傳示スヘシ

一 製藥許可ヲ得タルモノハ官許ノ文字ヲ冒シタルモノ商標ニ藥名及ヒ其住所姓

名ヲ記シ每器ニ貼シテ販賣スヘシ
但藥名ハ國字洋文兩様共記載スルハ勝手タルヘシト雖モ洋文ノミヲ書スヘ
カラス

必ス普通ノ譯名或ハ譯名無之モノハ假名ニテ原名ヲ記スヘシ
一鑑札雛形

輪縁銅板唐草料紙西洋紙

製藥免許之証

番號

衛生局長之印

何府何國何郡何町何番地

何之誰

一藥名 一同 一同

一同 一同

右製造免許候事

年号月日

内務卿印

八

死亡届ニ關スル條規ニ違背シタル者

明治十三年十月二十三日甲第百三十一號達布達

明治十二年甲第九號布達死亡届取扱心得書ヲ廢シ死亡届取扱規則別冊之通相定
候條此旨布達候事

死亡届取扱規則

第一條 十七年一月甲 醫師ハ其施治ノ患者死亡セハ直ニ死亡届 昨年七月二十五日
第三號改正 醫師ハ其施治ノ患者死亡セハ直ニ死亡届 甲第六十三號布達

第一号書ヲ作リ死者ノ家人ニ付シ家人ハ自家ノ届書ト共ニ之ヲ其町村戸長
ニ照スヲ作リ死者ノ家人ニ付シ家人ハ自家ノ届書ト共ニ之ヲ其町村戸長
ニ出シ埋葬承認証書式 第三號 受ケ之ヲ司葬者ニ 神宮僧侶教導職 出スヘシ

但寓居出稼キノ者ニシテ原籍地ニ埋葬スルモ承認書ハ死亡地ノ戸長ヨリ
受クヘシ尤寄留ノモノニシテ原籍地ニ埋葬スルハ其旨死亡地戸長ニ届
ケ出テ埋葬承認証書ヲ受クルニ及ハス

第二條 同 死亡者アル家人ハ其町村戸長ノ埋葬承認証ヲ受ケタル后ニフラスレハ
埋葬スヘカラス

第三條 同 順死急病等都テ醫療ヲ受ケ得ス死亡セシモノハ必ス醫師ノ診察ヲ請ヒ
死亡届ヲ受ケ第一條第二條ノ手續ヲナスヘシ

第四條 同 診察ノ醫師ニ於テ死狀常コアラスト認ムルモノアルトキハ速ニ所轄警
察署ニ通報シ事落着ノ上ニアラサレハ死亡届ヲ與フヘカラス

第五條 同 妊娠四ヶ月以上ノ流産或ハ死胎分娩ハ醫師若クハ産婆ヨリ該届書 第二
式 受ケ第一條第二條ノ手續ヲナスヘシ

第六條 明治十四年甲第 他府縣下ニ於テ死亡シ原籍地ニ引取リ埋葬セントス
百四十八號改正
ル片ハ自家ノ届書ニ醫師ノ死亡届書ノ寫ヲ添ヘ原籍戸長ニ差出シ埋葬承認
証ヲ受ケ可葬者ニ出スヘシ

第七條 囚人刑死及ヒ病死等ノ遺骸ヲ引取埋葬スルモノハ其監獄署ヨリ刑死
若クハ病死等ノ証ヲ受取リ埋葬地ノ戸長ニ出シ埋葬承認証ヲ受ケヘシ
但刑死ノモノハ式ヲ以テ葬ルコトヲ得サルハ勿論タルヘシ

第八條 同 該條ハ削除シ
上 以下操上トス

第九條 明治十四年甲第 凡ソ假埋葬ヲナスヘキ死体ハ其町村戸長ニ於テ埋葬
百四十八號改正
承認証ヲ作り其旨ヲ記入シ認印ノ上直ニ司葬者ニ附與スヘシ
但行斃變死ハ警察官檢視済ノ本上條ニ據ルヘシ

第十條 同上 此規則第一條第四條ニ違犯スルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘ
明治十六年甲第六十四號改正
第一号 料紙無郵半紙ニツ折
死 亡 届

郡町村番屋敷
何某父母兄弟妻子等及

有配偶無配偶未婚ノ別
病性(傳染性)(神經系統及五官器病)ノ類 戶主職業
本人職業
病名(腸室扶私)(腦膜炎)ノ類
氏 名

年齡當何年何ヶ月
初生兒ハ(初生兒無名ト記ス)

右拙者施治ノ患者ニ候處本日死亡候ニ付此段御届申上候也

年月日 郡長宛 醫師 氏 名 印

記 載 例
右配偶無配偶(既婚)ノ類 未婚ノ別ヲ記スルハ滿十二年以上ノ男子トス尤肩
書ニ某妻妾トアルモノハ其別ヲ記スルニ及ハス
一死者ノ職業ハ左ノ如シ

公務ニ關スル業
官吏、其他諸官公廳ノ雇員、給仕、小使、門衛、
牧場、山野、橋梁等ノ看守人ノ類ヲ云但陸海
軍軍人ニシテ陸海軍部内ニ於テ直ニ埋葬ス
ルモノヲ除ク

學術ニ關スル業

諸學校ノ教員生徒神佛教導職著譯者新聞記者
代理人測量家畫工筆耕等ノ類ヲ云フ

醫事ニ關スル業

醫師製藥師產婆獸醫針灸按摩灸治看病人等
ノ類ヲ云フ

農耕ニ關スル業

農作主農作人養蠶者炭燒牧畜家植木職獵師
樵夫等ノ類ヲ云フ

商賈ニ關スル業

凡百ノ商業ニ從事スルモノ及諸會社役員商
店番頭支配人雇人等ノ類ヲ云フ

製造工作ニ關スル業

諸職工其他製造工作ニ關スル業務等ノ類ヲ
云フ

漁撈採藻ニ關スル業

漁夫若採等ノ類ヲ云フ

舟楫ニ關スル業

船長以下水夫及船中ニテ事業ヲ執ルモノ渡
守役乘等ノ類ヲ云フ

採鑛ニ關スル業

採掘夫鑛夫等ノ類ヲ云フ

力役

人力車及荷車挽土方米搗人足等ノ類

其他諸業

一婦女老幼癡疾等ニテ現ニ職業ナキモノハ戶主ノ職業ヲ記シ本人ハ無職家族ト

記スヘシ若シ戶主ナルトキハ其家ノ職業則前項ノ職業別ニ依リ記載スヘシ

一死後診斷ハ「拙者以下」ノ十七字ヲ左ノ十五字ニ作ル「本日死後診斷候處病死

又ハ(變死)ニ相違無之「病症病名ノ類別左ノ如シ必ス此名稱ニ據リ區別スヘ

(第一類) 傳染性病

- (一) 腸窒扶私
 - (二) 發疹窒扶私
 - (三) 赤痢
 - (四) 虎列刺
 - (五) 實布の利亞
 - (六) 痘瘡(變痘水痘)
 - (七) 麻疹
 - (八) 猩紅熱
 - (九) 脚氣
 - (十) 間歇熱
 - (十一) 羅斯
 - (十二) 膿毒症
 - (十三) 病院脫疽
 - (十四) 百日咳
 - (十五) 產褥熱
 - (十六) 流行性耳下腺炎
 - (十七) 流行性腦脊體膜炎
 - (十八) 急性關節僂麻質私
 - (十九) 花柳病
 - (二十) 動物性病
- 淋毒 惡性睡 腺炎 急性性レウマチ熱
便毒 下疳 熱馬鼻疽 其他傳染疾患

(第二類) 發育及營養病

(發育的疾患 體質的疾患)

- (二十一) 初生兒ノ生活薄弱 産兒窒息
 - (二十二) 遺構異常畸形産
 - (二十三) 齒牙病 生齒ニ因スル諸病
 - (二十四) 腺病 (二十五) 佝僂病
 - (二十六) 小兒營養消耗症 (二十七) 癲病
 - (二十八) 全身水腫
 - (二十九) 糖尿病 (密尿) 尿崩(無味尿)
 - (三十) 脫疽 (三十一) 瘡及腫瘍
 - (三十二) 營養消耗 (三十三) 失句兒倍偲
 - (三十四) 貧血 (三十五) 白血病
 - (三十六) 甲狀腺腫
 - (三十七) 紫斑病 (ウエルホフキール氏發斑病)
 - (三十八) アソン氏病 (銅色病)
- 其他營養及發育ノ障害
- (第三類) 皮膚及筋肉病
- (三十九) 血瘍 (四十) 皮下結締組織硬化症

(四十二) 初生兒ノ結締組織硬化症

(四十三) 漸進性筋肉萎縮

其他ノ皮膚及皮下結締組織ノ疾患

(第四類) 骨及關節病

(四十四) 骨及關節炎、骨炎、骨膜炎、骨髓炎、骨瘍 カリ、エス、骨疽 子シロ、シス、關節膿

瘍、骨折

(四十五) 骨軟化

其他骨及關節ノ疾患

(第五類) 血行器病

(四十六) 心臟炎 心嚢水腫ヲ含ム

(四十七) 心臟肥大 心臟膨大

(四十八) 辨膜病 (四十九) 心臟破裂

(五十) 心臟麻痺、心臟脂化 (五十一) 動脈疾患

(五十二) 靜脈疾患

其他血行器ノ疾患

(第六類) 神經系統及五管器病

(五十三) 腦膜炎 (五十四) 腦水腫

- (五十五) 腦炎
- (五十七) 腦麻痺 腦貧血
- (五十八) 精神病 癲狂
- (六十) 脊體勞
- (六十一) 脊髓麻痺 脊髓軟化ヲ含ム
- (六十二) 子癇
- (六十四) 破傷風 牙關緊急
- (六十五) 其他ノ痙攣搖擻 警癇
- (六十六) 耳病
- (六十七) 眼病
- (六十九) 喉頭氣管支勞
- (七十) 急性氣管支炎、毛樣氣管支炎
- (七十二) 肺炎
- (七十三) 肺勞、肺結核
- (七十四) 咯血
- (七十五) 肺氣腫、喘息
- (七十六) 肺壞疽
- (七十七) 肺麻痺、肺水腫
- (七十八) 胸膜炎、胸水ヲ含ム

其他呼吸器ノ疾患

(第八類) 消化器病

- (七十九) 口舌疾患
- (八十一) 胃管疾患
- (八十二) 下腹炎、腹膜炎、下腹膿腫、骨盤膿腫
- (八十三) 腹水
- (八十五) 腸管壅塞
- (八十七) 胃潰瘍
- (八十九) 吐血
- (九十一) 腸破裂
- (九十三) 吐瀉病即霍亂
- (九十五) 疝痛
- (九十七) 腸間膜勞
- (九十九) 膽石病
- (百一) 肝臟炎
- (百二) 慢性肝臟消耗症
- (百三) 其他消化器ノ疾患
- (八十) 耳下腺疾患
- (八十四) 脫腸
- (八十六) 胃加苔兒
- (八十八) 胃狹窄
- (九十) 腸出血
- (九十二) 下痢 腸加苔兒
- (九十四) 胃腸炎
- (九十六) 腸勞
- (九十八) 脾臟疾患
- (百) 黃疸
- (百二) 急性肝臟消耗症

(第九類) 泌尿生殖器病

(百四) 尿道及膀胱炎

其他ノ膀胱疾患及男子生殖器ノ諸患ヲ含ム

(百五) 尿管

(百六) 石淋

(百七) 腎臟諸病

(百八) 女子生殖器病

(百九) 子宮外妊娠

(百十) 流産

(百十一) 子宮破裂

(百十二) 妊娠及分娩乳房腫脹ヲ含ム

(百十三) 子宮ノ疾患分娩産褥ニ非ラサルモノ

(百十四) 卵巢諸患

(第十類) 外襲性變死

(百十五) 火傷

凍傷

日射病

電撃

爆發

壓死及誤死

怪我

相擽

銃創

切創

刺創

咬創

手術出血

窒息

縊死

絞死

溺死

自殺

(第十一類) 中毒病

(百十六) 動物性及植物性毒

(百十七) 礦物性毒

(百十八) 毒性瓦斯

(百十九) 亞爾僑保兒中毒

一此類別中其他ノ疾患云々ト記載セシハ該類別中ニ列舉スヘキ各病名ヲ省略セ

レモノナルカ故ニ病名ヲ增加スルハ妨ケナシ

一死後診斷ハ生前ノ病症知得ヘキ丈ケテ記スヘシ若シ詳ナラサレハ病名不詳ト

記スヘシ

第二號

流産(死胎分娩)届

用紙同上

郡町村番屋敷

何某妻(妾)或ハ姉妹繼女何職業

氏

名

年 齡

一何月妊娠

一(私生)ナレバ此處ニ一項

一(起シ)私生)ト記ス

一流産或ハ死体分娩ノ原因

右頭書ノ通本日流産(或ハ死胎分娩)致候ニ付此段御届申上候也

郡町村番屋敷

醫師若シハ(産婆)

氏

名 印

郡 長 宛

郡町村番屋敷

何某父母兄弟妻子等ノ別

族籍 氏名

年月日死

何年何月

右埋葬承認候事

(戸長役場印ヲ以テ醫師死亡届
或ハ死亡ノ証ト割印スヘシ)

右町村

戸長 氏名 印

年月日

明治十三年十月二十三日甲第百三十三號布達

今般甲第百三十一號ヲ以テ死亡届取扱規則布達候ニ付テハ戸長ノ埋葬承認証

ヲキ死者ノ葬儀取扱候儀ハ不相成候條 明治十七年甲第一若シ之ニ違犯スルモノ

ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ此旨神官僧侶教導職ニ相達候事

參看 明治十三年十一月二十日甲第百六十二號布達

衛生事務ニ關スル願届届等ハ總テ其町村衛生委員ヲ經テ差出スヘシ此旨布達候

事

但衛生委員不在ノ節ハ直ニ戸長ニ差出候儀ト心得ヘシ

九 山野火入規則ニ違背シタル者

明治十五年十月十三日甲第百六十五號

山林保護ノ備ニ付テハ明治七年内務省甲第三號及同十一年本縣天甲第六十三號

布達ノ次第モ有之處人民其所有山野ニ火入ノ節取締法無之ヨリ往々他ノ山野等

ニ延燒不都合不少ニ付今般山野火入規則別紙ノ通相定候此旨布達候事

別紙

山野火入規則

第一條 總テ山野ニ火入ヲ爲サント欲スルハ其接續官林ハ監守人 監守人無

役場 役場 民林ハ所有者ニ通告シ立會ノ上接境ノ部分ニ防火線ヲ作り猶又火入前

報シ然ル后之ヲ行フヘシ

第二條 防火線ハ其土地ノ平坦傾斜及ヒ枯草ノ疎密ニ隨テ廣狹ノ別アリト雖

モ巾二間ヨリ狭カラサル稜草ヲ艾除シ落葉ヲ除去シ火勢ヲ防遏スルニ足ル

ヲ要ス

第三條 火入チナスモノハ火入中他へ延焼セサル様可致ハ勿論火氣全ク消滅スルニ至ル迄ハ該場所退クサ許サズ

第四條 官有山野等ニテ草刈取ノ許可ヲ得タル地ト雖モ別段允可ヲ得サレバ檀ニ火入チ行フサ許サズ若許可ヲ得テ之ヲ行フキハ前條々ニ由ルモノトス

第五條 前條々ニ乖クモノハ違警罪ニヨリ罰セラルヘシ

十 木曾川淀川及ヒ町屋川流域諸山土砂杆止ノ爲メ設ケタル作業取締ノ條規ニ違背シタル者

明治十七年三月二十一日甲第二十四號布達

明治十三年一月甲第十四號及同十四年四月甲第五十四號布達左ノ通改正條此旨布達候事

木曾川淀川町屋川一名辨川ノ三川流域諸山土砂杆止ノ諸作業取締方曾テ内務卿ヨリ被相達候次第モ有之候條右關係ノ諸山ニ於テ材木ヲ伐採シ草根ヲ除取シ石枿ヲ切出シ其他採鑛開墾土取等ノ業ヲ作ントスルモノハ官私ノ別ナシ其業ヲ作ントスル日ヨリ六ヶ月前作業者ヨリ可同出允願等ヲ要スルモノハ同ニ及ハズ直チニ前同様六ヶ月前願出ヘシ若シ此布達ニ違背シタルモノハ違警罪ニ據リ罰セラルヘシ此旨布達候事

恭看 明治十七年三月二十二日甲第二十五號布達

本年二月太政官第三號布達ノ次第モ有之ニ付テハ民有森林ノ中水源ヲ養ヒ土砂ヲ止メ又ハ風潮ヲ防キ類雪ヲ支ナルノ類國土保安ニ關係アル箇所則チ河川ノ流域海岸並道路耕宅地沼ニシテ漫ニ其樹木ヲ折伐シ鑛物土石ヲ掘採セハ他ニ障害ヲ及ホスヲ不勘ニ付此場合ニ於テハ該地字番ニ反別及折伐スヘキ樹種目通長本數掘採スヘキ種類量數ヲ詳記シ圖面相添三ヶ月以前可同出(日本坑法ニヨリ出願除)此旨布達候事

但木曾川淀川町屋川流域内砂防工事ニ關シ作業取締ル廉ハ其布達ニ據ルヘ

恭看 明治十四年九月二十七日甲第六十一號布達

木曾淀兩川及町屋川流域諸山ニ於テ諸作業ヲナサントスルモノ同出方之條客年甲第十四號及本年甲第五十四號ヲ以テ布達候處右同書ハ自今別紙書式ニ照準正副兩通ツ、可差出此旨布達候事

別紙

字何々 (他村ノモノ所有ノ分ハ姓名ノ肩ニ何郡何村ト記スヘシ) 何番

一山反別何反何祇何步

持主 何 之 誰

但木種 松歟杉歟 雜木歟

凡何千本但 目通り周リ何尺何寸以下

内凡何十本板伐但 目通り周リ何尺何寸以下

(皆伐ハ木種凡何千本ノ下(皆伐ノ二字ヲ加ヘ下柴刈取ハ木種云々ニ下柴刈取ノ四字ヲ用ヒ内以下ノ文字ヲ除クヘシ)

字何々 前同斷

持主 何 之 誰

一山反別何反何祇何步

内何坪 但 縦何間 横何間

是ハ 建築石材或ハ 切出シ又ハ土取及草根堀取

何年何月ヨリ 何年何月マテ 滿何年間ノ見積

以下書筆限前ニ做フ

右ハ流砂ノ憂無之場所ニ付書面ノ通施行仕度此段相伺候也

數人無之トキハ其本人ニテ然ルヘシ

何國何郡何村 人民惣代

何 之 誰 印 何 之 誰 印

年月日

縣 令 宛

局長與書例之通

十一

潜水器使用規則ニ違背シタル者

明治十五年十月二十六日甲第百六十七號布達
潜水器使用規則別紙之通相定候條此旨在達候事

別紙

潜水器使用規則

第一條 潜水器械ヲ使用シ漁業セント欲スルモノハ漁場ニ關係アル村浦ノ保

証書及漁場ノ書圖面ヲ添ヘ出願スヘシ

但營業者ト村浦トノ間ニ制限ヲ設ケ又ハ収利配當等ノ約定ヲナスモノハ其寫ヲ添ヘシ

第二條 潜水器械ノ使用ヲ許ルニ場處則チ海面ヲ三區トナシ互ニ來往漁業ス

ルヲ禁ス其區畫并器械ノ限數左ノ如シ

明治十六年甲第 二十五號追加 但一區内ト雖モ一場ニ二臺以上ヲ併用スルヲ許サス

第一區 志摩國 荅志郡 器械數三臺以下

第二區 伊勢國 度會郡 同 一臺

第三區 紀伊國 南牟婁郡 同 二臺以下

第三條 營業期限ハ許可ヲ受タル日ヨリ滿一ケ年トス

但滿湖ニ至リ尙繼業セント欲スルモノハ更ニ出願許可ヲ受クヘシ

第四條 營業者ハ左ノ制限法ヲ遵守スヘシ

一 捕獲スル鮑ハ堅長四寸曲尺以上ニ限ル

一 鮑種分子ノ季節則毎年九月中ハ捕獲ヲ禁ス

一 漁場ハ從前姪婦營業場ノ外タルヘシ

第五條 潜水器械ノ使用ヲ許スハ本縣下籍在ノモノニ限ル

第六條 毎月ノ捕獲高ニ漁業ノ景況ヲ付シ翌月五日限り郡役所ヲ經テ届出ツ

ヘシ

第七條 營業期限内ト雖モ水産繁殖ニ妨害アリト見認ルルハ其營業ヲ禁止ス

ルコアルヘシ

第八條 第一條ヨリ第四條マテノ條項ニ違背スルモノハ違警罪ニヨリ罰セラ

ルヘシ

第九條 沈没品搜索ノタメ潜水器械ヲ使用セント欲スルモノハ豫メ場處及日

數ヲ定メ所轄郡役所ヘ届出ツヘシ

十二 水除ノ爲メ設ケタル物件ヲ撤去シ又ハ之ニ妨害シタル者

十三 水車水碓等ニ妨害ヲナシタル者

十四 川堀下水又ハ田畝中ニ瓦礫土苛或ハ竹木ヲ投入シタル者

十五 魚鳥ヲ捕フル爲メ有毒物ヲ用ヒタル者

十六 官許ヲ得スシテ魚筭ヲ設ケタル者

十七 人ノ漁獵場獵具又ハ海藻魚類其他ノ物干場ニ妨害ヲナシタル者

十八 道路橋梁堤塘ヲ毀損シ又ハ人ノ田園ヲ掘リタル者

十九 道路地内菜蔬豆類ヲ植ヘタル者

二十 道路取締規則ニ違背シタル者

明治十二年十二月二十七日甲第百九十一號布達

道路取締規則左ノ通相定來ル明治十三年三月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但明治九年天甲第四十七號布達掃除規則第十一條第十二條及同年同第五十九

號同十年天甲第七十四號同十二年甲第三十八號同年同第四十號布達共明治十

三年二月二十九日限廢止候事

道路取締規則

第一條

道路ハ左ノ箇所ニ限ル
東海道 伊勢街道 伊勢別街道 和歌山街道 伊賀街道
大和街道 初瀬街道 熊野街道 鳥羽街道 奈良街道
和歌山別街道 名張街道

以下ハ全田村ノ道路ヲ指ス

桑名 長島 四日市 菟野 神戸 龜山 一身田 津

松坂 山田 守治 田丸 鳥羽 上野 梁瀬

第二條

凡ソ下水外道敷地へ招牌標旗牛馬繫杭等ヲ建設スヘカラス

但檐上樓角ニ掲ケル招牌標旗等地上ヲ距ル九尺以上ニ設ケル分ハ不苦ト

雖モ道路敷地へ差出スコトニ限ルヘカラス

第三條

街燈ヲ建設スルニハ下水又ハ雨落際ヨリ一尺迄ニ限ルヘシ

第四條

日覆ヲナスコトハ道路敷地ニ立テ下水又ハ雨落際ヨリ二尺五寸迄ニ限

ルヘシ若シ止ムヲ得スシテ右制限外ニ及フトキハ其場ノ圖面ヲ添ヘ該地所

轄ノ警察署所へ願出ツヘシ

第五條

公衆ノクメ街路ニ便所及ヒ火ノ見階子等ヲ建設セントスルトキハ其

場ノ圖面ヲ添ヘ該地所轄ノ警察署へ願出ツヘシ

第六條

家屋修繕中足場板圖等ヲ設ケントスルトキハ該地所轄ノ警察署へ願

出ツ可シ

但下水又ハ雨落際ヨリ二尺ヲ踰ユヘカラス且道巾九尺以内ノ地ハ其場ノ

圖面ヲ添フヘシ

第七條

明治十五年七月甲第百五十號ニテ削正達

第八條

明治十四年甲第百二十七條第十四項ニ掲記ス

設ケントスルトキハ其場ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署へ願出ツヘシ

五號布達ニテ

本條ヲ追加ス

廿一

湯屋渡世ノ者ニシテ男女ヲ混浴セシメタル者

廿二

市街及ヒ人家櫛比ノ地ニ於テ厠ニアラサル場所ニ大小便ヲナ

シ又ハ幼兒ヲシテ爲サシメタル者

廿三

糞尿其他腐敗物ヲ運搬スルニ器物へ蓋ヲ爲サハル者

但津 關中町 一身田村 四日市 桑名 神戸 龜山 白子 松坂 久居
山田 宇治 以上伊勢國 鳥羽 上野 名張 伊賀國 等十五ヶ所ノ全田村及ヒ之ニ
接續ノ地ニ限ル

- 廿四 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ乘馬シタル者
- 廿五 夜中燈火ナクシテ荷車ヲ牽キ又ハ乘馬シタル者
- 廿六 馭者馬丁又ハ人力車挽等取締規則ニ違背シタル者

明治十五年五月四日甲第九十五號布達

馬車取締規則左ノ通相定明治十五年八月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但從前營業者ト雖モ此規則ヲ遵守シ明治十五年六月三十日マテニ鑑札ヲ受ク

ヘン尙明治十二年十月甲第六十二號布達乘合馬車取締規則ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

馬車取締規則

- 第一條 乘合馬車貸馬車荷馬車都テ檢印ノ營業ヲナサントスルモノハ別紙第一號書式ニヨリ長ノ與書印ヲ受ケ所轄警察署ヘ願出テ許可ヲ受ク可シ尙一日許可ヲ受クルノ後更ニ他ノ馬車ヲ以テ營業シ又ハ車數ヲ増加スルトキ又同シ其馭者馬丁ヲ兼業セントスルモノハ尙后項ニヨリ鑑札ヲ受クヘシ乘合馬車荷馬車ノ馭者馬丁トナラントスルモノハ別紙第二號書式ニヨリ戶長ノ與書印ヲ受ケ所轄警察署ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ

第二條 水火盜難等ニ罹リ鑑札ヲ遺毀シタルモノハ其事由ヲ詳記シ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受ク可シ

第三條 甲警察署所轄地ヲ離レ乙警察署所轄内ニ移住シ營業セントスルトキハ甲署ヘ鑑札返納シ更ニ乙署ヘ願出鑑札ヲ受ク可シ尙轉業死亡又ハ他管下ニ移住等ノ節ハ其際届ケ出鑑札返納ス可シ其移住ノ警察署部内ニ係ルトキハ移住地ヲ詳記シタル書面ヲ以テ直ニ届出鑑札ノ訂止ヲ受ク可シ

但第一條第一項ニ掲ケル營業者ニシテ乙警察署内ニ移住營業セントスルトキハ其段甲署ニ届出更ニ乙署ニ願出許可ヲ受ク可シ其他廢轉移住死亡等ニ係ルトキハ總テ本條ニ準シ届出可シ

第四條 無鑑札又ハ無認可コト營業シ若シハ鑑札ヲ他人ニ貸與ス又ハ他人ヨリ借受クルヲ禁ス

第五條 馭者トナルコトヲ得ルモノハ無病壯健ニシテ馭術ニ熟達シ且年齡滿二十歳以上ノモノニ限ル

第六條 馬丁ハ殊ニ年限ヲ定メスト雖モ亦無病壯健ノモノニ限ル可シ

第七條 馭者馬丁ハ鑑札ヲ顯帶シ何人ニ限ラズ要用ノ場合ニ於テ見シコトヲ求ムルハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 乘合馬車荷馬車營業ノ者馭者馬丁ヲ雇ヒ入レ及ヒ雇替ヘタルトキハ

都度其馭者馬丁ノ住所姓名年齢等ヲ所轄警察署へ届出ツ可シ

第九條 乗合馬車貨馬車ノ營業者ハ其住所姓名(乗合馬車ハ乘客ノ定員ヲモ記入ス)ヲ記載

シテ木札長七寸ヲ車跡ノ后面最モ見易キ所ニ釘付ス可シ

第十條 乗合馬車ノ構造及ヒ乘客定員ハ左ノ各項ニ從フ可シ

一 四輪ニシテ運轉自在且堅牢ナル者

但屋上ニ客坐テ具フルヲ得ス

二 腰掛長一尺一寸以上ヲ以テ一人ノ度トス

三 馬一匹ニ付乘客六人ヲ以テ限リトス

四 乘客十歳未満ノモノハ二人ヲ以テ一人ト看做シ保護人アル五歳未満ノ

モノハ定員外トス

第十一條 途上ニ於テ左ノ二項ニ觸レタリト思量スル馬車ハ警察署官吏ニ於

テ一時使用ヲ停止スルコトヲ得ル

一 車跡脆弱其他危険ノ虞アリト思量者

二 馬匹疾病毀傷其他衰弱シテ馳驅ニ耐ヘサルモノト思量スルモノトス

第十二條 乗合馬車賃銀ハ該營業者ニ於テ所轄警察署ノ認可ヲ受ケ車中最モ

見易キ所ニ明記スル

第十三條 車内ニ遺留品アルトキハ其主分明ナルハ之ヲ還付シ然ラサルハ

物品相添へ速ニ警察署若クハ分署巡查交番所へ届出ヘシ

第十四條 乗合馬車ニ於テ傳染病者又ハ風癩者又ハ酩酊者ト見認ルルハ乗車

セシムルハカラス若シ乘客中傳染病者アルハ速カニ最寄警察署若クハ分署

巡查交番所へ届出ツヘシ

第十五條 往來雜沓ノ場所若クハ街角橋梁阪路等ヲ通過スルハ徐行シ且掛

聲ヲナスル

第十六條 軍隊及ビ馬車等ニ行達フ時ハ左傍ニ避ケ阪路ハ上リ車之ヲ避ケ

可シ尤郵便馬車ニ行達フハ殊ニ注意シテ避讓ス可シ

第十七條 前車徐行シ後車疾行スルトキハ後車掛聲ヲナス可シ前車ハ便宜之

ヲ避ケ後車ヲ通過セシム可シ

第十八條 第十五條第十六條第十七條ノ場合ニ於テハ馬丁ハ必ス馬前ニ進行

ス可シ

第十九條 酔酩中馭者トナリ及ヒ乘客ニ馭事ヲ委託ス可カラス

第二十條 馬車ヲ駐メテ憩フトキハ馭者若クハ馬丁ハ決シテ車邊ヲ離ル可カ

ラス

但往來ノ妨グトスル可キ場所ニ駐止ス可カラズ

第二十一條 行人ニ對シ強テ乘車ヲ翻シ又ハ傲慢無禮ノ言行ヲナス可カラズ

- 第三十二條 約束外ノ金錢ヲ請求ス可カラズ
- 第三十三條 濫リニ狹隘ノ小路ヲ疾驅ス可カラズ
- 第三十四條 制止ヲ肯ンセスヲ人ノ群集シタル場所ニ入ル可カラズ
- 第三十五條 失火場近傍ニ入ル可カラズ
- 第三十六條 馬車ヲ並ニ馳セ行人ノ妨害トナル可カラズ
- 第三十七條 空車ヲ往來ノ妨ケトナル可キ場所ヘ差置ク可カラズ
- 第三十八條 夜中無燈ニテ馬車ヲ運用ス可カラズ
- 第三十九條 馬匹ヲ慘酷ニ鞭撻驅逐ス可カラズ
- 第三十條 荷馬車ニ過分ノ荷物ヲ乘載ス可カラズ
- 第三十一條 馭者馬丁無クシテ馬車ヲ運用ス可カラズ
- 第三十二條 明治十二年十二月 此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラル、ノ外警察署ニ於テ監札取リ上ケニケ年以内營業停止スルコトアル可キ

別紙

第一號書式

馬車營業願

私備左ニ記載スル馬車ヲ以テ乗合馬車(貸馬車)(荷馬車)營業仕度候間御許可被下度此段奉願候也

年月日

當何年月何年何ヶ月

何警察署御中

(戸長與書如例)

一 乗合馬車又ハ荷馬車

(此所へ全車ノ構造并ニ一匹立ニ匹立ノ別及ヒ新舊ノ別等詳細ニ記入可シ) 但私所持ノモノ(國郡町村何之誰所持ノモノ)

計何輛

第二號書式

馭者又ハ馬丁 鑑札下渡願

私備馭者又ハ馬丁營業仕度候間鑑札御渡被下度此段奉願候也

縣國郡町村何番屋敷(番地)族

(當時縣國郡町何番屋敷 寄留 高居)

年月日

姓

名 實印

當何年月何年何ヶ月

何警察署御中

(局長奥印如例)

明治十五年五月八日甲第九十六號布達

人力車取締規則左ノ通相定明治十五年八月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但從前營業ノモノト雖モ此規則ヲ遵守シ明治十五年六月三十日マテニ組合ヲ

設テ鑿札ヲ受ク可シ

人力車取締規則

第一條

人力車

檢印濟ノ營業ヲナサントスルモノハ別紙第一號書式ニ照ラシ

戸長ノ奥書印ヲ受テ所轄警察署へ願出鑿札ヲ受ケ尙組合ニ加入ス可シ

但人力車營業トハ自己所有ノ人力車ト他人ヨリ借用スル人力車トナ問ハ

ス之レヲ挽クテ營業トスルモノナ云フ而シテ一員鑿札ヲ受クルノ后更ニ

他ノ人力車ヲ以テ營業スルトキハ直ニ其旨届出可シ

第二條

水火盜難等ニ罹リ鑿札ヲ遺失シタルモノハ其事由ヲ詳記シ第一條ノ

手續ヲ以テ更ニ鑿札ヲ受ク可シ

第三條

甲警察署所轄地ヲ離レ乙警察署所轄内ニ移住セントスルトキハ甲署

鑿札返納シ更ニ乙署へ願出鑿札ヲ受クヘシ尙轉業死亡ハ他管下へ移住等

ノ節ハ其段届出鑿札返納スヘシ

但一警察署部内ニ於テ移住スルトキハ其移住地ヲ詳記シタル書面ヲ以テ

直ニ届出鑿札ノ訂正ヲ受クヘシ

第四條

人力車營業者ハ適宜組合ヲ結ビ其組名及ヒ場所ヲ定メ別紙第二號書

式ニ照シ所轄警察署へ届出テ認可ヲ受クヘシ

但甲組ヲ出テ乙組ニ入ルモノハ第二號書式但書ノ届書ニ連署シテ届出ヘ

第五條

組名ヲ改メ又ハ場所ヲ變更スルトキハ別紙第三號書式ニ照ラシ更ニ

所轄警察署へ届出認可ヲ受クヘシ

第六條

人力車賃錢ハ組合ニ於テ之レヲ定メ別紙第四號ノ書式ニ照ラシ所轄

警察署へ届ケ出認可ヲ受ケ車ノ蹴込正面ニ其賃錢ヲ表記スヘシ

第七條

無鑿札又ハ無認可ニテ營業シ若クハ鑿札ヲ他人ニ貸與ヘ又ハ他人ヨ

リ借受クルヲ禁ス

第八條

人力車所有ノモノハ其住所姓名及ヒ車ノ番號ヲ記シタル木札(長五

寸巾四寸)ヲ車ノ蹴込右方ニ釘付スヘシ

第九條 人力車營業者ハ鑑札ヲ顯帶シ何人ニ限ラズ要用ノ組合ニ於テ見ンコトヲ求ムルトキハ之レヲ拒ムコトヲ得ス

第十條 車内ニ遺留品アルトキハ其主分明ナルモノハ之レヲ還付シ然ラサルハ物品相添速カニ警察署若クハ分署巡查交番所若クハ街角橋梁阪路等ヲ通過スルトキハ徐行シ且掛聲ヲナスヘシ

途上ニ於テ車体破損其他危險ノ虞アリト思慮スルトキハ警察官ニ於テ一時使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第十二條 軍隊及ヒ馬車ニ行逢フトキハ左ニ避ケ及ヒ阪路ハ上リ車之レヲ避クヘシ尤郵便馬車ニ行逢フトキハ殊ニ注意シテ避讓スヘシ

第十三條 前車徐行シ後車疾行スルトキハ後車掛聲ヲナシ前車ハ便宜之レヲ避ケ後車ヲ通過セシムヘシ

第十四條 行人ニ對シ強テ乘車ヲ勸シ又ハ侮慢無禮ノ言行ヲナスヘカラス

第十五條 乘客ニ對シ約束外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第十六條 濫リニ狹隘ノ小路ヲ疾驅スヘカラス

第十七條 一人乗ニ二人二人乗ニ三人以上ヲ乘スヘカラス
但十歳未滿ノモノハ二人ヲ以テ一人ト看做シ保護人アル五歳未滿ノモノハ定員外トス

第十八條 失火場近傍ニ車ヲ入ルヘカラス

第十九條 空車ヲ以テ往來ノ妨ケトナルヘキ場所ニ差置クヘカラス

第二十條 往來ノ妨ケトナルヘキ場所ニ車ヲ駐止スヘカラス

第二十一條 一人コテ二輛以上ノ車ヲ連テ輓クヘカラス
但空車二輛ヲ連ヌルハ妨ケナシ

第二十二條 夜中無燈ニテ車ヲ輓クヘカラス

第二十三條 自用人力車ニ在テハ此規則第一條ヨリ第十條マテ及ヒ第十四條第十五條ヲ除クノ外ハ之レヲ遵守ス可シ

第二十四條 明治十六年十二月 此規則ニ違反シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラル、ノ外警察署ニ於テ鑑札取上ケニケ年以内營業ヲ停止スルコトアルヘシ

第一號書式 又ハ國郡町村何ノ 何町ノ組合ニ加入シ營業仕度候
私儀所持ノ人力車ヲ以テ 誰所持ノ人力車

縣國郡町村何番屋敷番地
寄留
當時縣國郡町村何番屋敷
寓居
族

年月日

姓名印

何警察署御中

(戸長奥書如例)

第二號書式

私共備明治十五年五月甲第九十六號御布達ノ趣ニヨリ何町ニ於テ同營業ノモノ組合ヲ立テ組名ヲ何々ト稱シ申度此段徳認可被下度候也
但本文御認可ノ上ハ人員加除ノ都度御届可申上候也

國郡町

人力車營業人

年月日

誰實印

何同

何警察署御中

第三號書式

私共同營業ノモノ何郡町ニ於テ組合ヲ立組名ヲ何々ト稱シ候段何年何月日御署ノ御認可ヲ相受居候處今般何組ト改稱(又ハ場所ヲ何町ニ移轉)仕度候間此段御認可被下度候也

國郡町

人力車營業人

年月日

誰實印

何同

何警察署御中

別紙

人力車賃錢

何街道

一里何錢以内

但雨天ノ節ハ

一里何錢以内

夜中ハ

一里何錢以内

何街道

一里何錢以内

但雨天ノ節ハ

一里何錢以内

夜中ハ

一里何錢以内

廿七

地方稅納稅規則ニ違背シテ營業届ヲ爲サス又ハ其鑑札ヲ受ケ

サル者

明治十六年八月甲
第七十一號改正

明治十六年六月七日甲第四十九號布達
地方稅納稅規則別冊之通相定十六年度ヨリ施行候條此旨布達候事

別冊

地方稅納稅規則

第一款 納稅期限

第一項 納期ヲ定ムル左ノ如シ

營業稅 雜種稅

年稅 第一期 七月三十一日限五分通納
第二期 一月三十一日限五分通納

月稅 該月十五日限全納
日稅 見積日數ヲ以前納

市場稅 翌月五日限全納
屠畜稅

地租割稅 日數割稅

年稅 第一期 六月二十五日限五分通納
第二期 十二月二十五日限五分通納

第二款 納稅手續

第二項 理髮人遊藝師匠遊藝稼人相撲俳優帶間藝妓漁業採藻ヲ營ムモノハ每業必ス營業證札ヲ受クヘシ若シ鑑札ヲ遺失毀損シ或ハ改名轉居シタル節ハ其旨届出書換再渡ヲ乞フヘシ

但本文各業ノ外別段ノ布達ニ於テ鑑札附與ノ手續アルモノハ各其規則ニ從フヘシ

第三項 營業稅雜種稅中 第二項ニ掲クノ業ヲ營ムモノハ届書二通ヲ差出スヘシ郡役所ニ於テハ其届書ニ割印ヲナシ番號等級 商業工業料理屋飲食店新規

等級ナキモノハ 番號ノミヲ記ス 但演劇興行遊覽所ノ届書ハ割印ノ手續ヲナササルニ付届書ハ一通ヲ差出スヘシ

第四項 廢業又ハ改名轉居若クハ新規開業者ノ滿六ヶ月ヲ經テ届出ルトキハ

第五項 理髮人遊藝稼人相撲俳優帶間藝妓ハ納稅上便利ノタメ其町村ニ於テ引請人相設ケ連署届出ヘシ

第六項 營業稅雜種稅ノ業ヲ營ムモノハ左ノ雜形ニ倣ヒ標札ヲ製シ店頭ニ掲クヘシ

但理髮人遊藝稼人相撲俳優帶間藝妓水車乘馬屠畜漁業採藻ハ此限コアラズ
等級ナルモノハ其等級ヲ記シ等級ナキモノ及ヒ等級未定中ノモノハ業名ノミヲ記ス

第何號
何等何々

何之誰

第七項 商業工業料理屋飲食店ノ營業者ハ其業体ノ種別ニヨリ帳簿ヲ製シ賣上金等ヲ日々記載シ置クヘシ

但シ賣上金等ノ調査方法ハ追テ之ヲ布達スヘシ

第八項 年税ハ一ケ年兩度ニ區分シ半年毎ニ之ヲ納ムヘシ新規營業ノ商業工業料理屋飲食店ハ等級査定ノ後納税シ其他年税月税ノ納期以後ニ係ルモノハ總テ届書ニ添ヘテ相納ム可シ

第九項 月税ノモノ新規營業十五日以前ハ全額十六日以後ハ半額又廢業ノ節十五日以前ハ半額十六日以後ハ全額ヲ納ム可シ

但十五日以前ニ廢業スルモノハ其届書ニ添ヘ相納ム可シ

第十項 日税ニシテ日積日數十日以上ニ涉ルモノハ十日毎ニ前納ス可シ

第十一項 市場ハ其實上高ナ日々帳記シ置キ一ケ月毎ニ其仕譯書ヲ添ヘ税金相納ム可シ

第十二項 屠畜ハ日々屠殺スル處ノ頭數ヲ牒記シ置キ一ケ月毎ニ其仕譯書ヲ添ヘ税金相納ム可シ

添ヘ税金相納ム可シ

第十三項 地租割税ハ地租豫算金額ニヨリ定ムル處ノ課額ヲ以テ納期現在ノ

地租金額ニ就キ之ヲ相納ム可シ

第十四項 戸數割税ハ前年十二月調ノ戸數ニヨリ定ムル處ノ課額ヲ以テ納期現在ノ戸數ニ就キ之ヲ相納ム可シ

第十五項 戸數割税ハ其町村會若クハ聯合町村會ノ決議ヲ以テ各戸ノ等級ヲ定ムルコトヲ得

但町村ノ納税額ヲ増減スルコトヲ得ス

第十六項 地租割税戸數割税ハ税金徴収ノ后地租又ハ戸數ニ増減ヲ生シ或ハ徴収法第一項ノ場合ニ遭遇スル者ト雖モ該半年度中ハ總テ前收ノ高ニ據價追收還戻セス

第十七項 明治十六年八月甲 第二項ニ背キ營業監札ヲ受ケヌ第三項ニ背キ營業届ヲナサハルモノハ違警罪ニヨリ罰セラル可シ

廿八

酒類及ハ醬麴ノ製造若クハ販賣ニ關スル條規ニ違背シタル者

明治十六年三月五日甲第十四號布達

酒造營業ニアラスニテ自家用料ノタメ酒類ヲ製造スルモノ規則左ノ通相定候條此旨亦達候事

但明治十五年十月第七十一號布達自飲酒製造心得方規則ハ廢止ス

自家用料酒製造心得方規則

第一項

自家用料ノ酒類ヲ製造セントスルモノハ第一號書式ニヨリ届出第二

號書式ニヨリ免許鑑札ヲ申受クヘシ

但鑑札料ハ申受ケタルトキ之レヲ納ムヘシ且免許鑑札ヲ下付セシトキハ

別ニ指令ヲ付セサルヲ以テ願書ハ副書ヲ差出スニ及ハス

第二項

製造着手十日前其造リ方法ヲ第三號第四號書式ニ倣ヒ届出且着手ノ

時日ヲモ届出ツヘシ

但見込石數ノ内一時ニ製造ヲナササル者ハ製造ノ都度其石數ヲ届出ヘシ

第三項

搾リ器械又ハ蒸溜器械其他桶瓶類等總テ製造ニ用ヒル器械ハ醸造着

手以前之レヲ届出ヘシ

但諸器械ノ内桶類ハ左ニ掲ケル丈量法及算則ニ依リ精密取調桶ノ側面ハ

左ノ件々ヲ記載シ置クヘシ且瓶類ハ便宜適實ノ方法ヲ以テ容量ヲ定メ木

片ニ其容量ヲ記シ之レヲ其前面ニ付シ置クヘシ

第何號

口徑 何程

胴徑 何程

底徑 何程

深 何程

石數 何程

年月日

酒造桶類丈量法

口徑 口頭より一寸 胴徑 口底徑 底徑 底板面ハ孰レモ内側リコテ縱横(+)圖ノ如

ク度リ此縱横徑ヲ和シ之レヲ二ニテ除キ以テ定ム深サハ其酒桶ノ前後左右

孰レモ底徑ヨリ口徑マテノ間ヲ丈量シ此四ケノ尺度ヲ和シ之ヲ四ニテ除キ

以テ定ムヘシ

算則

口胴底ノ三徑ヲ各個自乘シ此三個ヲ和シ之ヲ三ニテ除キ以テ實トス之レニ

深ヲ乘シ又圓積率 七八ヲ乘シ而シテ升法 六四八ヲ以テ除キ其容量ヲ得

但石數ハ合位ニ止メ夕以下切捨ツヘシ

第四項

製酒 搾リ 方着手五日以前届出而シテ製成ノ上ハ更ニ其數量ヲ届出ヘ

第五項

釀造酒ハ酒麴及麴掛米汲水蒸溜酒ハ元粕等 仕込ノ都度其數量并ニ月

日共詳細帳記シ置クヘシ

但酒配及元糟境耐ハハ麴等自製買入ニ區別シ其石數ヲ詳細帳記シ置キ且買入ニ係ルモノハ其賣渡人ノ住所姓名ヲモ記載シ置クヘシ

第六項 酒造中時々検査員臨檢ス可シ故ニ其仕込タル酒類其他仕込米及酒造

ニ關スル器械并ニ第五項ニ掲シル帳簿ノ検査ヲ受クヘシ

第七項 第四項ニ背キ搾リ上又ハ蒸溜シタル酒類ノ數量ヲ届出スニテ消糜シ

タルモノハ違背罪ヲ以テ罰セラルヘシ

第八項 検査上須要ナリト看認ル場合ニ於テハ検査官時宜ニヨリ製造場内外

ニ拘ハラス臨檢スルコアルヘシ

第一號書式

自家用料酒酒製造并ニ見込高御届

一元玄米 何程

此白米 何程 但春減何割ノ見込

此製造清酒高何程

一元粘 何程

此蒸溜酒類高何程 但粕何程ニ付何程垂レノ見込

〔濁酒味淋白酒等其他總テ一期中製造〕

〔ニ係ル酒類ハ本項ニ準列記スヘシ〕

右ハ明治何年度一期中自家用料酒酒製造仕度依テ見込高書面ノ通候條併テ此旨御

届申上候以上

何國何郡何町何番屋敷

年月日

何 之 誰 印

縣令宛

第二號書式

自家用料酒酒製造廳札願

明治何年度一期中自家用料酒酒製造致度旨今般御届申上候ニ付免許廳札御下渡被

下渡此段奉願候以上

何國何郡何町何番屋敷

年月日

何 之 誰 印

縣令宛

(局長與印如例)

第三號書式

自家用料酒酒製造法御届

一 配數何程 但一仕込ニ付何程遣ヒ

配一ツニ付

麴米 何程

蒸米	何程	右配一仕込ニ付	蒸米	何程	配割遣ニ係ル分ハ本行 ノ一目ヲ加ヘ記スヘシ
水	何程		水	何程	
初添	何程		初添	何程	
蒸米	何程		蒸米	何程	
水	何程		水	何程	
中添	何程		中添	何程	
蒸米	何程		蒸米	何程	
水	何程		水	何程	
留	何程		留	何程	
蒸米	何程		蒸米	何程	

水 何程
 麵米 何程
 合 蒸米 何程
 水 何程
 右ハ明治何年分自家用料ノマメ何酒書面ノ方法ヲ以テ醸造仕候條此段御届申上候也

年月日
 縣令宛
 何國何町何番屋敷
 何之誰印

第四號書式

自家用料何蒸溜方法御届

一 甑使用度數何程 但蒸溜器何組一日何度ツ

一 甑ニ付粕何貫目込

此蒸溜何升何合取リ

右ハ明治何年分自家用料ノマメ燒酎(酒精或ハ再溜酒精)書面ノ方法ヲ以テ蒸溜仕候條此段御届申上候也

何國何郡何番屋敷

年月日

何之誰印

縣令宛

白酒味淋酒等ノ元燒酎モ此書式ニ準シ記載スヘシ

明治十六年三月五日甲第十五號布達

明治十五年十月甲第百七十號布達營業心得方規則左ノ通改定候條此旨布達候

事

營業心得方規則

第一項 製造場ハ倉庫ノ棟數ニ拘ハラズ其一區域ヲ以テ一ヶ所トシ免許證札

ヲ授與スヘシ

但現住地ト製造場ト屋敷番號ヲ異ニスルモノハ其製造場ノ屋敷番號又屋

敷ノ一拂外ニアル製造場ニシテ屋敷番號ナキモノハ其他番號ヲモ願書ニ

附記スヘシ

第二項 免許證札ハ其年一期有効ノモノトス故ニ引續キ免許ヲ請フモノハ每

年九月三十日迄ニ最初授與シタル鑑札ヲ差出スヘシ然ルトキハ其鑑札ノ裏

面ハ該期ノ免許証印ヲ捺シ再ヒ之ヲ授與スヘシ

但其裏面余白裁キタルトキハ更ニ新鑑札ヲ授與スヘシ

第三項 免許證札ヲ他管下ノモノヘ賣ノ節ハ雙方連署ノ書面ニ免許證札ヲ添

ハ願出ヘシ然ルトキハ其買受ノ管應ニ對スル添翰ヲ附與スヘシ而シテ買受
人ヨリ之ヲ其管應ニ出シ更ニ書換證札ヲ受ク可シ又他管ヨリ買受ノ節モ此順
序ニ據ルヘシ

但製造場ヲ他管ヘ轉シ或ハ本管ヘ轉スルカタメ證札書換ヲ請フモノモ本
文ノ手續ニヨルヘシ

第四項 廢業ノモノハ其旨届出免許證札ヲ返納スヘシ

第五項 稅則第八條戶外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ離形ニ倣ヒ調製スヘシ

寸法 豎巾曲尺三尺 横巾曲尺八寸

免許證札ノ番號

番號

營業賣捌所

三重縣何國何郡何村何番屋敷
何 某

第六項 一期製造見込石ノ數届出ノ后増減アルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第七項 仕込米及汲水等ハ詳細帳簿ニ記載シ置クヘシ

第八項 醬麴成熟ノ上ハ其旨届出檢査ヲ請クヘシ

第九項 檢査未済ノ蓄廻ヲ販賣スヘカラス

第十項 營業者自カラ行商スルトキハ帳簿ヲ携帶シ蓄廻元高及販賣ノ數量并

購求者ノ居所姓名共其都度無遺漏帳記シ置ク可シ

但家族又ハ雇人ヲシテ行商ナサシムルトキハ營業者ノ族籍記名捺印シ
タル帳簿ヲ携帶セシメ本項ニ準シ詳細帳記セシム可シ

第十一項 行商者ノ携帶スル蓄廻并諸帳簿ハ主任官臨時檢査スルコトアル可シ

第十二項 稅則第五條第一項ノ帳簿差出シタルトキハ其記載石ノ數及購求者

姓名等ヲ精覈檢査ノ上檢印ヲ捺シ下渡ス可シ而シテ該帳簿ハ營業中之ヲ保

存ス可シ

第十三項 第九項ニ背キ檢査ヲ受ケスニテ蓄廻ヲ販賣シタルモノハ違警罪ヲ

以テ罰セラル可シ

明治十六年三月五日甲第十六號布達

蓄廻請賣營業人心得方規則左ノ通り相定メ候條此旨布達候事

蓄廻請賣營業人心得方規則

第一項 蓄廻請賣ヲナサントスル者ハ其旨縣廳ヘ願出許可ヲ受ク可シ

第二項 蓄廻請賣ノ許可ヲ得タルモノハ左ノ雛形ノ標札ヲ製シ戶外ニ掲出ス

可シ

寸法 豎巾曲尺二尺 横巾曲尺六寸

蓄廻請賣所	何國何郡何町何番屋敷
	何之誰

第三項 蓄廻買入帳及販賣帳ヲ製シ置キ買入又ハ販賣ノ都度其石數年月日買

入先キ并購求者居所姓名共無遺漏帳記シ置ク可シ

但行商者ニ渡シタルトキハ販賣帳ノ内別廉ヲ設ケ其石數并年月日姓名共

明記ス可シ

第四項 買入帳及販賣帳ハ翌年十月中縣廳ヘ差出シ檢査ヲ受ク可シ

第五項 請賣者自カラ行商スルトキハ帳簿ヲ携帶シ蓄廻元高并ニ販賣ノ數量

及購求者ノ居所姓名月日トモ其都度無遺漏帳記ス可シ

但家族又ハ雇人ヲシテ行商セシムルトキハ請賣者ノ族籍姓名捺印シタル

帳簿ヲ携帶セシメ本項ニ準シ詳細帳記セシムヘシ

第六項 請賣者又ハ行商者ノ蓄廻諸帳簿ハ主任官隨時檢査スルコトアルヘシ

第七項 第一項ニ背キ許可ヲ受ケスニテ請賣ヲナシタルモノハ違警罪ヲ以テ

罰セラル可シ

明治十六年十一月七日甲第九十四號布達
客年甲第六十九號ヲ以テ及布達候酒造營業規則左ノ通改定候條此旨布達候事

酒造營業心得方規則

第一款 營業免許

第一項 新規營業ヲナサントスルモノハ酒造場一ヶ所毎ニ第一號書式ニ倣ヒ
免許鑑札願出可シ

第二項 免許鑑札ハ其年一期有効ノモノトス故ニ引續キ免許ヲ請フモノハ第
二號書式ニ倣ヒ毎年九月三十日迄ニ最初授與シタル鑑札ヲ添へ願出ツ可シ
然レトキハ其鑑札ノ裏面ハ該期ノ免許証印ヲ捺シ之ヲ授與ス其裏面餘白盡
キタルトキハ更ニ新鑑札ヲ授與スヘシ

第三項 免許鑑札ヲ賣與讓與スルモハ十五年第六十一號公布以前ヨリ引續營
業ニ係ルモノハ第三號書式該公布以後新ニ營業ニ係ルモノハ第四號書式ニ
倣ヒ鑑札書換ヲ請フ可シ

明治十七年一月
甲第十七號布達
ニテ
一 免許鑑札ヲ賣
買讓與スルモハ
同則第三項ニ拘
ハラス第三號書
式ノ書願差出ス
可シ

但他管下ノ者ハ賣渡ノ節ハ本文ノ手續ニ準シ免許鑑札ヲ添へ願出ツ可シ
然ルトキハ其買受人ノ管廳ニ對スル添翰ヲ附與ス可シ而シテ買受人ヨリ
之ヲ其管廳へ出シ更ニ書換鑑札ヲ受ク可シ又他管ヨリ買受ケノ節モ此順

序ニヨル可シ

第四項 酒造場ハ倉庫ノ棟數ト製酒ノ種類トヲ問ハス都テ其一區域ヲ以テ一
ヶ處トシ免許鑑札ヲ授與ス可シ

第五項 營業者ノ屬籍住所ト酒造場ト甲乙兩管廳ニ交渉スルモノハ都テ酒造
場所在ノ管廳ニ於テ免許鑑札ヲ受ク可シ

但酒造場ヲ他管へ轉シ或ハ本管へ轉スルカタクモ鑑札書換ヲ請フモノハ第
三項但書ニ準シ其ノ手續ヲナス可シ

第六項 廢業ノモノハ其旨届出免許鑑札ヲ返納ス可シ

第七項 稅則第十八條道石稅免除ノ酒類ト雖モ一期製造見込ノ種目石數等總
テ稅則第二十六條ニ依リ届出ツ可シ且シ其一期製造ノ分ハ其石數翌年十月
中ニ届出ツ可シ

第八項 稅則第二十六條造酒見込ノ種目并ニ石數ハ第五號書式ニ倣ヒ免許願
出ト同時ニ差出シ爾後増減ノ節ハ第六號書式ニ倣ヒ届出ツ可シ

但造酒見込ノ種目則チ清酒濁酒燒酎酒精再溜酒精白酒味淋等種目限リ之
ヲ掲記シ且銘酒ハ直酒保命酒桑酒養老酒菊酒紫蘇酒アラシ酒南蠻酒等各
其酒名ヲ分配ス可シ

第九項 稅則第二十六條釀造方法ハ第七號蒸溜方法ハ第八號書式ニ倣ヒ免許

ヲ受ケタルトキ届出ツ可シ

但白酒味淋銘酒等ノ製造元ニ用ヒル焼酎ト雖モ本項ニ準ス可シ

第十項 税則第廿條酒造ニ屬スル諸器械(桶瓶類)ハ第九號書式ニ倣ヒ願出

檢査ヲ受ケ且賣買讓與貸借ハ其時々届出檢査ヲ受ク可シ

第十一項 税則第二十七條酒造ニ屬スル倉庫納屋等ハ其實況詳細繪圖面ニ製

シ且諸器械ハ第十號書式ニ倣ヒ取調之レテ差出ス可シ

但本項調書中増減及變換等アルトキハ其時々届出ツ可シ若シ諸器械ノ内
他ノ營業者ヨリ借受使用スルトキハ直チニ其旨届出ツ可シ

第十二項 税則第廿八條戶外ニ掲出ス可キ標札ハ左ノ離形ニ倣ヒ調製ス可シ

但石數ハ最初届出ノ見込高ヲ掲記シ増減アルトキハ其時々札紙ヲ貼付シ
之レテ更訂ス可シ

寸法堅巾曲尺三尺 横巾製酒種類ノ數ニヨリ適宜ニ定ム可シ

免許標札ノ番號

番號

酢元 何酒何石造

酢元 何酒何石造

三重縣何國何郡何村何番屋數

何 某

第二款

桶瓶調査

第十三項 税則第二十條第一項酒造用諸器械ノ内桶瓶類(新製修繕)ハ營業

人ニ於テ左ノ丈量方法及算則ニヨリ其石數ヲ算出シ第十一號書式ニ倣ヒ檢
査ノ儀願出ツ可シ

酒造桶類丈量法

口徑 口頭ヨリ一寸胴徑ノ口底徑 底版面ハ孰レモ内側リニテ縱横 \oplus 圖ノ如
下リタルケ處 中央底徑ノケ處
ノ度リ此縱横徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除キ以テ定ム深サハ其酒桶ノ前後左右孰
レモ底ヨリ口徑マテノ間ヲ丈量シ此ノ四ケ處ノ尺度ヲ和シ之レテ四ニテ除
キ以テ定ム可シ

但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切り捨ツ可シ

算則

口胴底ノ三徑ヲ各個自乘シ此三個ヲ和シ之ヲ三ニテ除キ以テ實トス之レニ
深サヲ乘シ又圓積 $\frac{7}{8}$ ヲ乘シ而シテ升法 $\frac{64}{8}$ ヲ以テ除キ其容量ヲ得
但シ石數ハ合位ニ止メ夕以下切り捨ツ可シ

第十四項 瓶類ノ容量ハ便宜適實ノ方法ヲ以テ之ヲ丈量シ前項ノ手續ニ據ル
可シ

但營業者ニ於テ適宜木札ヲ製シ番號石數ノ記入及縣廳ノ烙印ヲ請ヒ正面

ニ付シ置シ可シ

第十五項 第十三項ノ手續ニヨリ願出ツルトキハ検査員ニ於テ其當否ヲ検査シ而シ之ヲ桶ノ側面ヘ記載縣印ヲ烙記シ其酒造場一ヶ所毎ニ調査簿甲乙二帳ヲ製シ査定濟ノ分ハ勿論爾後新製又ハ修繕等ノ節ハ其都度査定ノ上之ニ記入シ兩帳共營業人ノ調印ヲ徴シ検査員檢印ノ上甲ハ縣廳ニ備置キ乙ハ營業人ニ下付スヘシ

但粕桶水桶米浸シ桶ノ類ニ全ク酒類ヲ容レサル分ハ丈量ヲナサスト雖モ各其番號ヲ記シ調査簿ニ登記スルモノトス

酒桶側面記載式

番號

口徑	何程
胴徑	何程
底徑	何程
深	何程
石數	何程

年月日

官 姓 名

第十六項 検査濟ノ桶瓶類賣買讓與又ハ貸借スルトキハ其旨雙方連署ノ書面

ヲ以テ届出其賣買讓與ニ係ル分ハ番號ノ書換調査簿ノ訂正ヲ乞フヘシ其營業人ニアラサル者ハ賣渡スカ或ハ破解スルモノハ第十二號書式ニ倣ヒ願出桶側面記載ノ件々及烙印ノ削除ヲ請ヒ而後賣却等ノ手續ヲナスヘシ若シ其賣買讓與貸借ノ甲乙兩管應ニ涉ルトキハ第三項但書ニ準シ其手續ヲナスヘシ

第三款 器械開閉

第十七項 稅則第二十五條ノ封緘ハ摺リ器械ハ酒精ノ樋口并男柱ノ穴蒸溜器械ハ兜釜甑及穴等ヘ封緘ヲナスヘシ

第十八項 器械開閉ヲ請フモノアルトキハ使用又ハ洗滌ノ日數ヲ計査シ其封印ヲ開披シ使用洗滌ノ日數滿限ニ至レハ前項ノ手續ニヨリ封緘ヲナスヘシ
第十九項 器械ノ封緘及開披ヲ請フ者ハ第十三號書式ノ請書ヲ差出シ爾後開閉ノ都度調印スヘシ

第四款 造石検査

第二十項 造石検査最期節中ハ管内ヲ五區ニ分チ每區ニ出張所及支所ヲ置キ之ニ検査員ヲ駐在セシムヘシ其區畫左ノ如シ

但区内ノ支所ハ事業ノ摸樣ニヨリ廢設ノ時日ヲ短縮スルコアルヘシ
第一區 安濃郡 奄藝郡 河曲郡 鈴鹿郡 一志郡

出張所 安濃郡津 支所 奄藝郎白子鈴鹿郡龜山
 第二區 三重郡 朝明郡 桑名郡 員辨郡
 出張所 三重郡四日市 支所 桑名郡桑名
 第三區 飯高郡 飯野郡 多氣郡 度會郡 志保郡 英虞郡
 出張所 飯高松坂 支所 多氣郡相可
 第四區 阿拜郡 山田郡 名張郡 伊賀郡
 出張所 阿拜郡上野 支所 名張郡名張
 第五區 北牟婁郡 南牟婁郡
 出張所 南牟婁郡木之本

第二十一項 前項ニ掲グル検査員駐在中ハ酒造検査ニ係ル諸般ノ事項ハ總テ該出張所へ申出シ
 第二十二項 酒造場一ヶ所毎ニ造石検査簿二帳ヲ製シ甲ハ之ノ官簿トシ乙ハ之ヲ營業人へ下付シ置シヘキニ付検査ノ都度検査官ノ認印ヲ受ケ右二帳ニ調印スヘシ
 第二十三項 該期酒造着手前ニ於テ古酒及買入酒ハ第十四號書式ニ依ヒ願出検査ヲ受ケ爾後〔醸造季節〕他家ノ造酒ヲ買入シタルトキハ右石數及代價ヲ詳記シタル仕切書以テ送り狀等ヲ取置其都度第十五號書式ニ依ヒ願出檢

査ヲ受シヘシ
 第二十四項 酒院着手ハ第十六號書式ニ依ヒ前以テ願出成熟ノ上ハ検査ヲ受シヘシ
 第二十五項 醱成熟ノ上ハ第十七號書式ニ依ヒ願出検査ヲ受シヘシ
 但毎日仕込ノ分ハ十仕込幅日仕込ノ分ハ五仕込以内ヲ以テ區域ヲ立テ検査ヲ受シヘシ
 第二十六項 前項醱區域ニヨリ搾リ揚ケタル酒類ハ混淆セサル様區別シ置キ其都度第十八號書式ニ依ヒ願出検査ヲ受シヘシ
 但酒精モ搾リ揚ケノ都度區別シ置キ検査ヲ受シヘシ
 第二十七項 焼酎ノ元ニ用ユル酒粕并醱等ハ第九號書式ニ依ヒ願出検査ヲ受ケ而テ蒸溜ノ上ハ第十八號書式ニ依ヒ願出其石數ノ検査ヲ受シヘシ
 但白酒味淋銘酒等ノ製造元ニ用ユル酒類ト雖モ亦本項ニ準ス
 第二十八項 造石検査ヲ受ケル酒類ハ酒瓶等口頭ヨリ一寸ヲ減シ側面記載ノ石數ヲ入置ヘシ若シ側面記載ノ石數ニ充タサズモノハ現在ノ入實ニ就テ其石類ヲ算出スヘシ
 但本文入實ノ胴徑以下ニ在ルモノハ其假口徑 現在ノ入實ト其深サトサ度ノ之ニ査定ノ底徑ヲ用ヒ算出ス又胴徑以上ニアルモノハ該方法ニヨリ胴

徑ノ以上以下ヲ區別シ各個ニ石數ヲ算出スヘシ其算則左ノ如シ

胴徑ヨリ以下ニアル入實石數ヲ得ル法

胴徑底徑ノ差ヲ置キ入實ノ深サヲ乘シ総深ノ半數ヲ以テ除シ底徑ヲ加ヘ假
口徑ヲ得ル此口徑ト底徑ト和シ二除シ其入實ノ深サヲ乘シ尙之ニ積率ヲ
乘シ現石數ヲ得ル

胴徑ヨリ以上ニ在入實石數ヲ得ル法

口胴々底ノ四個ノ徑ヲ和シ四除シ以テ深サヲ乘シ法トス此法ヲ以テ石數ヲ除
シ之ヲ率トス

第二十九項 稅則第十九條ニ基キ左ニ掲クル所ノ帳簿ヲ製シ酒造一切ニ係ル

金穀出納等ヲ詳記シ置調査ヲ受クヘシ

酒造米買入帳

搗米浦帳

仕込帳 第二十号雛形ニ
做ヒ調製スヘシ

杜武仕込帳

蒸溜帳 第二十一号雛形ニ
做ヒ調製スヘシ

酒賣上帳

酒賣出シ帳

酒造米仕拂帳

酒貸帳

荷物判取帳

杜武并日雇給料帳

樽貸帳

金錢判取帳

酒精糖賣拂帳

糶出帳

酒糟目方扣帳

酒造諸器械賣買扣帳

此他酒精麹麥苗シ及銘酒類ニ加味スヘキ品類買入帳等一切

第三十項 他家ノ造酒ヲ買受ケ之ノヲ販賣スルトキハ買入賣却共其石高及代

價ヲ帳簿ニ詳記シ置クヘシ

但シ第二十三項ノ検査ヲ受ケタル後賣却又ハ買入ノ分ハ帳簿ニ區域ヲ立

テ記載シ置クヘシ

第三十一項 検査済ノ酒類并ニ買入酒等ヲ精漉ニセントスルモノハ酒粕混和

前第二十二號書式ニ做ヒ願出検査ヲ受ケ且製成ノ上ハ第十八號書式ニ做ヒ

更ニ願出検査ヲ受クヘシ

第三十二項 壹類ノ火入滓引等ハ造石検査ノ後之ヲ爲スヘシ

第三十三項 稅則第二十一條但書酒モトノ不用ニ屬シタルモノヲ營業者ニ賣

渡ストキハ第二十三號書式ニ做ヒ其旨願出検査ヲ受クヘシ

第三十四項 稅則第十六條酒類并モロニ共非常ノ損害ニ罹リタルトキハ其實

況ヲ詳記シタル書面ヲ以テ速ニ申立検査ヲ受クヘシ

第三十五項 前項検査済ノ酒類ヲ變製セント欲スルモノハ其變製酒ノ種目并

石高共届出製成ノ上ハ第十八號書式ニ做ヒ願出其石數ノ検査ヲ受クヘシ

第三十六項 酒類皆造検査前將古酒ヲ合酒シ或ハ煮込セント欲スル者ハ其旨届出検査ヲ受ケ製成ノ上西更ニ其旨申出検査ヲ受クヘシ

第三十七項 検査上須要出ルル者認ルル場合ニ於テハ検査官ハ酒造ノ倉庫ニアラサルモ時宜ニモリ臨檢スルモノハモシ

第三十八項 稅則第十八條造石稅免除ノ酒類ニ雖モ時宜ニモリ検査官之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第五款

課稅區別

第三十九項 造石稅納期以前免許鑑札ヲ賣與讓與又ハ廢業スル者ハ検査濟酒類ニ係ル造石稅出願又ハ届出ノ節其賣渡人モリ直チニ之ヲ完納スヘシ

第四十項 營業中都合ニテ未製成ノ酒類ニ除クテ販賣スルモノハ其旨届出検査ヲ受ケ其石數ニ應シ稅則第二條ノ類別ニモリ造石稅ヲ納ムヘシ

第四十一項 免許鑑札ヲ賣買讓與シ又ハ廢業ノ節未成製ノ酒類ニ除クテ營業者ニ賣渡サント欲スルトキハ雙方連署ノ書面ヲ以テ届出検査ヲ受クヘシ其買得者ニ於テハ製成ノ上ノ第十八號書式ニ倣ヒ届出検査ヲ受ケ造石稅ヲ納ムヘシ然レトモ若シ之ヲ營業者ニアラサル者ニ賣渡ストキハ其造石稅ノ第三十九項ノ手續ニモリ之ヲ完納スヘシ

但本項酒類賣買ノ節若シ甲乙兩管ニ涉ルトキハ第三項ノ手續ニ準スヘシ

第四十二項 稅則第十五條條宜濟ノ酒類ヲ變製ニ二類ヲ三類ニ變製スル類ノトキハ該條ニ依ルヘシト雖モ一酒類中ノ變製酒酒ヲ清酒ニ味淋ヲトキハ單ニ其變製シタルモノニ就テ造石稅ヲ納ムヘシ

第四十三項 稅則第十八條ノ葡萄酒及麥酒ノ類造石稅ヲ免除セラル、モノハ西洋酒類造ニ係ルモノニ限ルヘシ

第六款

雜件

第四十四項 第一號第二號第三號第四號書式ヲ除ク外ノ願書ハ指令ヲ付セサルニ付總テ原本ヲ添ユルニ及ビ且日限ヲ要スルモノハ該日限五日以前願書ヲ差出スヘシ

第七款

違犯

第四十五項 左ノ件々該タルモノハ違警罪ニモリ罰セラルヘシ

一 第二十四項ニ背キ検査ヲ受ケシテ酒既チ使用シタルモノ

二 第二十五項ニ背キ検査ヲ受ケシテ釀ノ搾リ方ニ着手シタルモノ

三 第二十七項ニ背キ燒酎元ニ用ユル酒粕及醪等ノ検査ヲ受ケシテ蒸溜シタルモノ又ハ白酒味淋銘酒等ノ製造元ニ用ユル燒酎ノ検査ヲ受ケシテ仕込タルモノ

四 第三十一項ニ背キ検査ヲ受ケシテ糟漉チナシタルモノ

五第三十二項ニ背キ造石検査已前火入ヲナシタルモノ

第一號

新規酒造營業願

一酒造場一ヶ所

何國何郡何町何番屋敷

屋敷番号ナキ者ハ地番号ヲ記スベシ

明治何年度一期中酢元酒造營業仕度ニ付免許證札御下渡被成下度該期造酒見込石高届相添此段奉願候以上

何國何郡何町何番屋敷

年月日

願人

何之誰印

同

酒造營業人何之誰印

同

何之誰印

同

何之誰印

同

何之誰印

同

何之誰印

縣令宛

片長與印郡役所經由如例願書ニ捺テ做之

第二號

酒造引續營業願

明治何年度一期中引續營業仕度候ニ付御免許被成下度因テ最前拜受ノ證札并該期造酒見込石高届相添此段奉願候以上

何國何郡何町何番屋敷

年月日

何之誰印

縣令宛

第三號

酒類製造免許證札 買買ニ付書換願

第四號

一酒類製造營業免許證札

右ノ今般何々ニ據リ賣渡且買受何國何郡何町何番屋敷 屋敷番號ナキモノニ於テ

營業仕候ニ付證札御書換被成下度(因テ該期造酒見込石高届相添) (買買) 受人

於テ新ニ造酒

中六十五

スル者ハ此 運署ヲ以テ奉願候以上 (他管内ハ(賣讓)渡ノ節ハ見込届ヲ要) 文字ヲ加フ此 運署ヲ以テ奉願候以上 (他管内ハ(賣讓)渡ノ節ハ見込届ヲ要)

年月日

何國何郡何村何番屋敷
賣渡人 何 之 誰印
同 買受人 何 之 誰印

縣令宛

第四號

酒類製造免許鑑札 賣買ニ付書換願

第何號

一酒類製造營業免許鑑札

右ノ今般何々ニ據リ 賣渡且 買受人何國何郡何村何番屋敷 屋敷番號ナキモノニ於テ 營業仕候ニ付鑑札御書換被成下度(因テ該期造酒見込石高届相添)(買讓)受人ニ 於テ新ニ造酒 文字ヲ加フ此 運署ヲ以テ奉願候以上 (他管内ハ(賣讓)渡ノ節ハ見込届ヲ要) (セサルニ付因テ以下十三字ヲ除ク)

年月日

何國何郡何村何番屋敷
賣渡人 何 之 誰印
同 買受人 何 之 誰印

買受人 何 之 誰印
同 酒造人 何 之 誰印
同 營業人 何 之 誰印
同 何 之 誰印
同 何 之 誰印
同 何 之 誰印
同 何 之 誰印
同 何 之 誰印

縣令宛

第五號

何酒釀造石高見込御届

一元玄米何程

此白米何程 但春減何割ノ見込

此釀造見込石高何程 但白米一石ニ付何程運ノ見込

何國何郡何町何番屋敷
酒造人 何 之 誰印
營業人 何 之 誰印

年月日
縣 令 宛

石長檢印郡役所經由如例屆書ハ總テ做之

燒酎ハ元玄米等ヲ除キ元粕何貫目トシ釀造トアルハ都テ蒸溜ト記スヘシ味
淋モ本書式ニ準メ尤之ニ用ユル元燒酎元粕貫目及其蒸溜石見込ヲモ例記ス
ヘシ此他各種酒類此書式ニ準メ添酌記載スヘシ

第六號 書式

何酒釀造増石御届

一元玄米何程

此白米何程 但春減何割ノ見込

此釀造見込石何程 但白米一石ニ付何程並ノ見込

右ハ明治何年度何酒釀造石見込最前御届ノ外前書ノ通増石仕候條此段申上候也

何國何郡何町何番屋敷

酒造營業人

何 之 誰印

年月日
縣 令 宛

第七號

各種酒類増減届ハ最初差出シタル石高届ヲ添酌シ此書式ニ準メ記載スヘシ

何酒釀造法御届

一元數何程

但一仕込ニ付何程並ヒ

配一ツニ付

麴米 何程

蒸米 何程

水 何程

右配一仕込ニ付

麴米 何程

蒸米 何程

水 何程

初添

麴米 何程

蒸米 何程

水 何程

中添

配割道ニ係ル分ハ本ノ
一目ヲ加ヘ記スヘシ

麴米	何程
蒸米	何程
留	
水	何程
蒸米	何程
水	何程
麴米	何程
合	
蒸米	何程
水	何程

右、明治何年度何酒書面ノ方法ヲ以テ釀造仕候條此段御届申上候也

何國何郡何町何番屋敷
酒造營業人

年月日

縣令宛

何之誰印

第八號 書式

何蒸溜方法御届

一 瓶使用度數何程 但蒸溜器何組一日何度ツ、

一 瓶ニ付粘何貫目込

此蒸溜何升何合取リ

右、明治何年度燒酎(酒精或ハ再溜酒精)書面ノ方法ヲ以テ蒸溜仕候條此段御届申上候也

何國何郡何町何番屋敷
酒造營業人

年月日

縣令宛

何之誰印

第九號

酒造諸器械御検査願

白酒味淋銘酒等ノ元燒酎モ此書式ニ準シ記載スヘシ

一 酒糟 何個

一 暖氣樽 同

一 半切桶 同

一 柄杓 何本

一 麴板 何枚

右ノ外酒造ニ關スル諸器械ハ前行ニ準シ記載スヘシ
右ハ今般新調仕候ニ付御檢査被成下此段奉願候以上

何國何郡何村何番屋敷
酒造營業人

何之誰印

年月日

縣令宛

第十號

用紙美濃紙

酒造諸器械調書

何國何郡何村何番屋敷

何某

酒造諸器械調

一酒糟 何個

一層梓 同

一男柱 同

一締木 同

一掛袋 同

一垂瓶 同

一蒸溜器 鐵組

一礎 同

一甕 何個

一暖氣樽 同

一蒸釜 同

一半切桶 同

一試桶 同

一桃桶 同

一擔桶 同

一柄杓 同

一翅板 何枚

酒造ニ屬スル諸器械即今所持ノ分前記ノ通相違無之候尤以後増減有之節ハ其時々御届可仕候也

何國何郡何村何番屋敷

酒造營業人

何某印

年月日

縣令宛

第十一號

酒造用桶御検査願

番號	石數	口徑	胴徑	底徑	深
何號	何十何石	何尺何寸	何尺何寸	何尺何寸	何尺何寸
同	同	同	同	同	同

（一類類ハ胴徑底徑ヲ除クノ外本文ニ準ス）
 右ハ新調ニ付容量石數取調候間御検査奉願候以上
 輪替

年月日

縣令宛

何郡何町何番屋敷

何之誰印

第十二號

酒造用桶賣却ニ付烙印削除願

第何號 石數何石何斗何升何合

第何號 石數何石何斗何升何合

右ハ今般何々ニ付破解（何郡何町何番屋敷何之誰ハ賣却）仕度候間烙印及調査願

削除被成下度此段奉願候以上

年月日

縣令宛

何郡何町何番屋敷

何之誰印

第十三號

（用紙ハ縣廳ヨリ下渡スヘシ）

造酒搾リ器械封緘請書

何國何郡何町何番屋敷

何之誰

御請書 蒸溜器械請書モ本書式ニ倣ヒ別冊ニ製スヘシ

私所持ノ造酒搾リ器械左ノ箇所々々御封印相請候ニ付右器械使用ノ節ハ御成規ノ通其旨御届仕御解封可願上尤御解封ノ上ハ左ニ掲クル日數中必洗滌ヲ相了リ御届ノ上御再封相請可申候仍テ御封緘并ニ御解封ノ都度其年月日及洗滌日數ヲ左ニ掲記シ御請印仕候也

何國何郡何町何番屋敷

酒造營業人

何之誰印

年月日

御封緘簡所

一酒糟桶口

一ヶ所

一男柱孔

一ヶ所

中七十六

御封緘年月日	御封印解破年月日	器械洗滌日	數
明治何年何月何日印	明治何年何月何日印	使用	明治何年何月何日ヨリ印同日間
		洗滌	

第十四號

古酒御検査願

第何號

一何酒何石何斗何升何合

第何號

一同

桶面記載ノ石數ニ充テテ現在酒ノ深何尺何寸何分ト記スヘシ

合石數何百何十何石何斗何升何合
右ハ明治何年産殘古酒前記ノ通石數相違無御座候間御検査被成下度此段奉願候
以上

何國何郡何村何番屋敷

年月日

縣令宛

何之誰印

第十五號

買入酒御検査願

一何酒何石何斗

伊丹樽何個

此量百何十貫目

右ハ何國何郡何村何番屋敷何ノ誰ヨリ買受候間仕切書寫相添此段奉願候以上

何郡何村何番屋敷

年月日

縣令宛

何之誰印

第十六號

酒配御検査願

來ル幾日ヨリ配立ニ着手仕候間何月幾日頃成熟ノ見込ニ有之候ニ付御検査被成下度此段奉願候以上

何郡何村何番屋敷

年月日

何之誰印

中七十七

第十七號 縣令宛

釀御検査願

第何號桶

一第何号仕込

第何號桶

一第何号仕込

右ハ前書ノ釀來ル何月何日頃成熟ノ見込ニ候間御検査被成下度此段奉願候以上

何郡何村何番屋敷

何之誰印

年月日

縣令宛

第十八號

何酒御検査願

白酒味淋銘酒等ノ製造元ニ用ニル酒類ハ何酒製造元ト記載スヘシ

一何何何程

此粕何買目 但何號仕込ヨリ何號仕込迄

内 蒸溜酒ハ粕買目ヲ記載セス且但書

仕込順ヨリ省キ瓶數ヲ記スヘシ

何程 第何号桶入

同 同

端桶ノ分ハ現在酒ノ深何尺何寸何分ト記スヘシ

右ノ通御検査奉願候以上

何郡何村何番屋敷

何之誰印

年月日

縣令宛

第十九號

蒸溜製造元御検査願

一元粕何買目

但叔糖何買目混和 (蒸溜元ノ種類ハ總テ本)

文ニ準シ記載スヘシ

右ハ來ル何日ヨリ蒸溜仕度候ニ付御検査奉願候以上

何郡何村何番屋敷

何之誰印

年月日

縣令宛

第二十號

何年度何酒仕込帳

清酒既立ノ部(濁酒モ本文ニ準スヘシ)

何月何日

麴米何斗

第何號ヨリ

一蒸米何斗

第何號マテ

水何斗

但何斗既

何月何日

麴米何斗

第何號

一蒸米何斗

水何斗

麴何斗

合計蒸米何斗

水何斗

清酒仕込ノ部

第何號

釀仕込ノ順號ナリ

何月何日

既立月日ナリ

麴米何斗

一蒸米何斗

既

水何斗

但何斗配幾ノ何分遣

何月何日

麴米何斗

初添

一蒸米何斗

水何斗

何月何日

麴米何斗

中添

一蒸米何斗

水何斗

何月何日

麴米何斗

留

一蒸米何斗

水何斗

合計蒸米何石何斗

水何石何斗

味淋仕込帳 (白酒モ本文ニ準スヘシ)

第何號

何月何日

麴米何斗

一蒸米何斗

燒酎何斗

第何號

第何號

何月何日

物米何斗

一蒸米何斗

燒酎何斗

麴米何石何斗

合計蒸米何石何斗

燒酎何石何斗

第二十一號 何年度燒酎蒸溜帳 (味淋白酒銘酒製造ニ燒酎モ之ニ準ス)

何月何日

一元粕何貫目 (蒸溜元ノ種類ハ總テ本文ニ準シ記載スヘシ)

但淑糖何程混和

此燒酎何程

此蒸溜數何度

何月何日

一同

一同

一同

第二十二號

粘渡酒御検査帳

一何酒何程 (買入酒、古酒)

粕何貫目 (何年何月何日検査済ノ分)

右之通御検査奉願候以上

何郡何村何番屋敷

年 月 日

何 之 誰

中八十三

縣令宛

第二十三號

酒既賣却ニ付御検査願

一酒既何個

第何號ヨリ

第何號マテ

右ノ今般何々ニ付何郡何町村何某へ賣渡候ニ付御検査被成下度此段奉願候以上

何郡何町村何番屋敷

年 月 日

何 之 誰 印

縣 令 宛

廿九 小形旅客汽船取締規則ニ違背シタル者

明治十六年一月十七日甲第二號布達

客年甲第三百三十二號ヲ以テ布達候小形旅客汽船取締規則別冊之通改正本年二月

二十日ヨリ施行候條此旨布達候事

小形旅客汽船取締規則

第一條 小形旅客汽船ヲ以テ管内又ハ管轄地トノ間ニ航運營業ヲナスモノハ

總テ此規則ヲ遵守スヘシ

但公稱馬力五十未満ハ勿論五十以上ノモノト雖モ船体機關等ノ狀況ニヨリ

本則ヲ遵守セシムルコトヲルヘシ

第二條 前書航運營業ヲ爲サント欲スルモノノ營業上ノ諸規則并ニ左項ニ掲グルル

明細書各ニ通テ添ヘテ其旨ヲ出願シ船体機關等ノ検査ヲ請クヘシ

但航路ノ愛知縣ト交渉スルモノハ同縣検査員立會検査スヘシ且營業ヲ許シ

タル後船積ヲ増シ或ハ船体機關ヲ變更シ又ハ修繕スルトキモ本條ニ依リ檢

査ヲ受クヘシ尤修繕一小部分ニ係ルモノ及塗替等ハ此限ニ非ラス

一本船在籍府縣名

一製造ノ年月地名及製造人ノ姓名

一船 名

一内 車

一外 車

一登簿噸數

一公稱馬力

一航 路

一留留場所及發着ノ定日時間

一客室ノ坪數乘客ノ定員并乘客物貨ノ運賃

一船主船長機關手 (廻轉手ヲ要スルモノ同)ノ族籍氏名

第三條 營業ヲ許可シタルモノハ検査證書ヲ與ヘ毎年一回ノ定期検査ヲナシ其

証書ヲ交換ス尤翌年ノ定期検査マテ航運ニ堪ヘサルモノハ堪ユヘキ期限ヲ記
載シタル検査証書ヲ下付ス

但航路ノ愛知縣ト交渉スルモノハ其所管ノ孰レニフルヲ問ハス検査員ヲシ
テ臨時ニ乗船々体機關等ノ整備スルヤ否ヲ検査セシムルコトアルヘシ此場合
ニ於テハ縣令ノ命令狀ヲ示スモノトス

第四條 定時臨時ノ検査ヲ問ハス舟体機關等ニ故障アリト認ムルカ或ハ検査証
書ヲ所持セス又ハ舟体機關ヲ變更修繕シテ検査ヲ受ケサルモノハ航運ヲ停止
シ修繕若シハ改造ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 廢業又ハ賣却讓渡等ノ場合ニ於テハ其旨ヲ届出検査証書ヲ返納スヘシ
第六條 検査証ハ期限内舟内ノ見易キ場所ニ掲示シ乗客ノ定員并賃錢表ヲ每客
室ニ粘付スヘシ

第七條 本舟々体所屬品ハ必ス左項ニ掲ケル如ク整備スヘシ

但川路航運スル分ニ限り検査員ニ於テ危險ナシト認ムルモノハ完備セサル
モ特ニ許スコトアルヘシ

第一 舟体ハ棧貨堅牢ニシテ諸部ノ構造適合整備セサルモノ

第二 舟側并甲板面ハ虞知ヲ以テ充分ニ罅障ヲ塞キ水ノ漏泄ヲ防キ尙兩舷ニ
水吐孔ヲ設クヘシ

第三 甲板ニ設ケタル出入及荷積口ハ其縁材甲板面ヨリ高フシテ艙内ニ水ノ
流入スルヲ防キ且之ヲ密閉スヘキ外套ヲ備フヘシ

第四 甲板上船舷ナキモノハ其周圍ニ欄干ヲ設ケテ二尺以上ニ至ラシムヘシ

第五 室内空氣流通ノタメ窓口ヲ設ケタルモノハ堅牢ナル戸扉ヲ備フ可シ

第六 端舟ヲ釣リ得ヘキ船体ニ於テハ必ス之ヲ備ヘ其付屬品全備シテ不時ノ
用ニ適スルモノ

第七 舵ハ其取付堅牢ニシテ豫備ノ轉舵索ヲ舟尾ニ備フヘシ

第八 羅盤及救命浮子各一個以上ヲ備ヘ其救命浮子ハ人体ヲシテ充分水上ニ
浮ミ得セシムルモノ

第九 相當ノ消防器具及小桶三個以上ヲ備フヘシ

第十 船ノ噸數ニ應シ其量目及大サノ適合セル錨并錨鎖ヲ備フヘシ

第十一 掲燈及信号器ハ總テ製造規則ニ適合シタルモノニシテ其燈ノ隔板
ハ位置正シク裝置スヘシ

第十二 汽笛及号鐘ハ其音響ノ障碍ナキ場所ニ裝置シ号鐘ハ音響高キモノニ
テ善ク其用ニ適スルモノ

第十三 甲板上何レノ場所ヲ問ハス漏水ヲ排出スヘキ汚水唧筒一箇以上ヲ備
フ可シ

第八條

本船ノ汽機及所屬品ハ必ス左項ニ掲クル如ク整備ス可キモノトス

但川路航運スル分ニ限リ検査員ニ於テ危険ナシト認ムルモノハ完備セサルモ特許ス可アル可シ

第一 機脚ハ諸部適合ノモノニテ充分ニ整備セシモノ

第二 水線以下及其近傍ニ於テ装置セシ船外ニ通スル管ハ必ス階子或ハ瓣ヲ備フ可シ

第三 罐及機關ニ屬スル相當ノ豫備品并ニ付屬品ヲ備フ可シ

第四 冷蒸器ヲ設クル機脚ハ正當ナル冷蒸器ヲ備フ可シ

第五 汽罐ハ豫テ水試験ヲ經タルモノニテ平常用スル汽力ニ對シ新罐ハ其二十斤ノ汽力ヲ用フ 古罐ハ其二分ノ一ヲ加ヘタルモノハ十五斤ノ汽力ヲ用フ 倍ルモノハ二十斤ノ汽力ヲ用フ

第六 安全弁ハ每罐火床面積ノ一平方尺毎ニ必ス二分ノ一平方寸ノモノニテ備ヘ平常用フル汽力ニ對スル重量ヲ定メ内一個ハ外套ヲ備ヘ其外套ハ検査員ノ立合ヲ得サレハ開閉シ能ハサシ設ケテナシタルモノ

第七 聯汽器驗機器温器ハ時々試験シテ誤謬ナキモノ

第八 聯水器ハ每罐硝子製ノモノト二個以上ノ試ト兩様ヲ備ヘタルモノ

第九 瀝罐二個以上ニシテ塞瀝瓣一個ヲ備ヘタルモノハ其塞瀝瓣ヲシテ各罐ニ付タルモノ

ノ瀝路ヲ閉塞セシムルニ適スルモノ

第十 蒸氣ヲ噴出セシムルタメ必ス排氣管ノ設ケアルモノ

第九條 乘客ハ必ス既定ノ客室内ニ限ル可シ面シテ其員數ハ一坪六尺八寸ハリ超過ス可カラズ

但十歳未満ノモノハ二人ヲ以テ一人ノ割トス

第十條 每室乘客ノ員數、運賃、航路、及發着ノ場所時限等ヲ變更スルハ書面ヲ出シ認可ヲ受ケ船長及運轉手機關手ニ更迭アルトキハ其族籍氏名ヲ具シ履出シ可シ

第十一條 明治十六年四月甲 小形旅客汽船ニ限リ十噸未満ト雖モ海員雇入又ハ雇止ヲナストキハ雇者ノ間ニ締約書又ハ解約書ヲ作り浦役場ノ公認ヲ受シ可シ

第十二條 物貨ヲ積ムハ必ス艙内ニ限ルヘシ尤長大ニシテ艙内ニ積ム能ハサルモノ及手荷物ハ此限ニ非ス

但客室ト雖モ乘客ノ員數制限ニ滿ラサルハ物貨ノ積入ヲ爲スモ妨ナシ

第十三條 火藥硝石硫黃石炭油其他危害ノ物品ヲ積載スルハ明治六年第二百九十二号公布ニ因リ取扱フヘシ

第十四條 船ノ脚入ハ喫水線ヨリ超過スヘカラズ

第十五條 航行ノ途中他船ト競争シ或ハ竊ニ安全瓣ノ封緘ヲ關閉スル等ノ所爲ハ決テアルヘカラス

第十六條 橋下航運スルモノハ煙突ヲ備ヘ又渡舟場ヲ通航ノ時ハ速力ヲ緩クシ長聲一發ノ汽笛ヲ報シ苟モ自他ヲ危害スルノ虞ナカラシムヘシ

第十七條 船内ハ燈火ノ外ニ烟火ヲ用フヘカラス又舟表ニ定則外ノ燈火ヲ懸出スヘカラス

但燈器ハ堅固ニシテ安全ナルモノヲ用フヘシ

第十八條 燈火ハ石炭油其他揮發性ノ油ヲ用フヘカラス

第十九條 沿岸人家ノ近傍ニ於テ薪材ヲ焚用スヘカラス

第二十條 一旦拔錨ノ上ハ乘客乗後レ又ハ物貨積後レノ爲メ其運轉ヲ中止スヘカラス

第二十一條 汽船出入ノ際汽笛ハ三回マテニ限ル可シ安ニ發聲スルヲ許サス

但非常風波ノ節ハ此限ニアラス

第二十二條 川筋航運ノモノハ出水何尺増ユリ航運ヲ留ルノ制限ヲ設ケ豫テ届出シラシム

但航路中淺瀬ノ爲メ人力ヲ要スルガ如キ場合ニ於テハ航運ス可カラス

第二十三條 三日以上休業スルモノ及航運中遭難等ハ其事由ヲ具ニ届出シ得シ

第二十四條 營業ヲ許可セシ後ト雖モ航路ニ障礙アリト認ムルハ臨時處分ヲ爲ス可アル可シ

第二十五條 此規則ニ違背セシモノハ出港ヲ停留シ其情狀ヲ取調ヘ違警罪ヲ以テ相當處罰セラル可シ

第何號 検査之証

印刷			船名	持主	常盤港	製造		年月
汽機		船體						
流	流	流						
鐘	鐘	鐘						

事故	航路	最大汽壓	推進器	公稱馬力	大修繕		最後船體
					年月	汽機	
検査之上授與之 年月日 三重縣 検査員何某 印							

三十

喧嘩爭論ヲ爲シ又ハ之ニ荷擔シタル者

卅一

職人日雇稼ノ者等仲間ヲ結ヒ他人ノ稼ヲ爲スニ故障ナシタル者

卅二

神佛祭事婚姻祝儀等ノ節事故ニ托シテ妨害ヲ爲シタル者

卅三

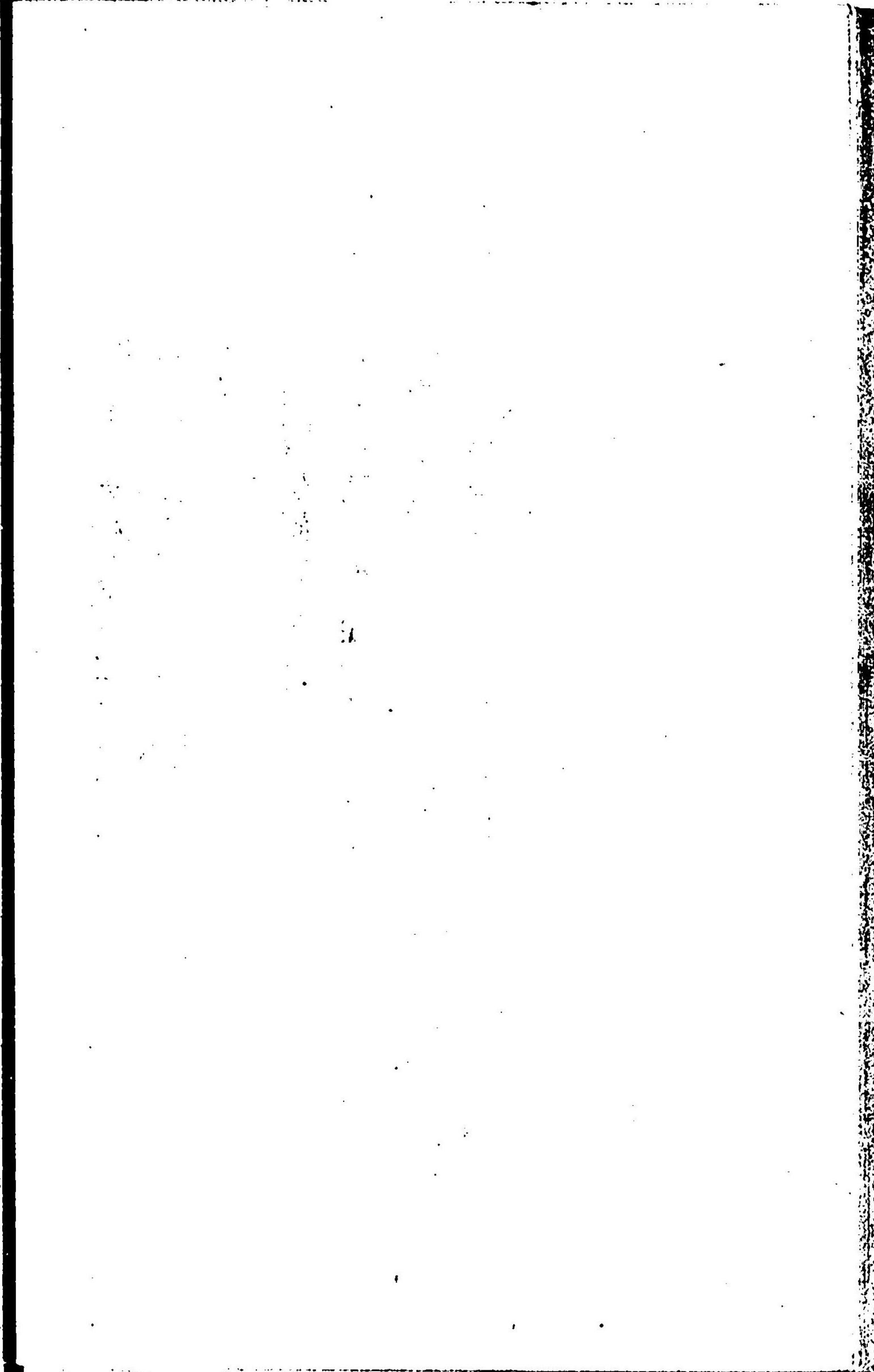
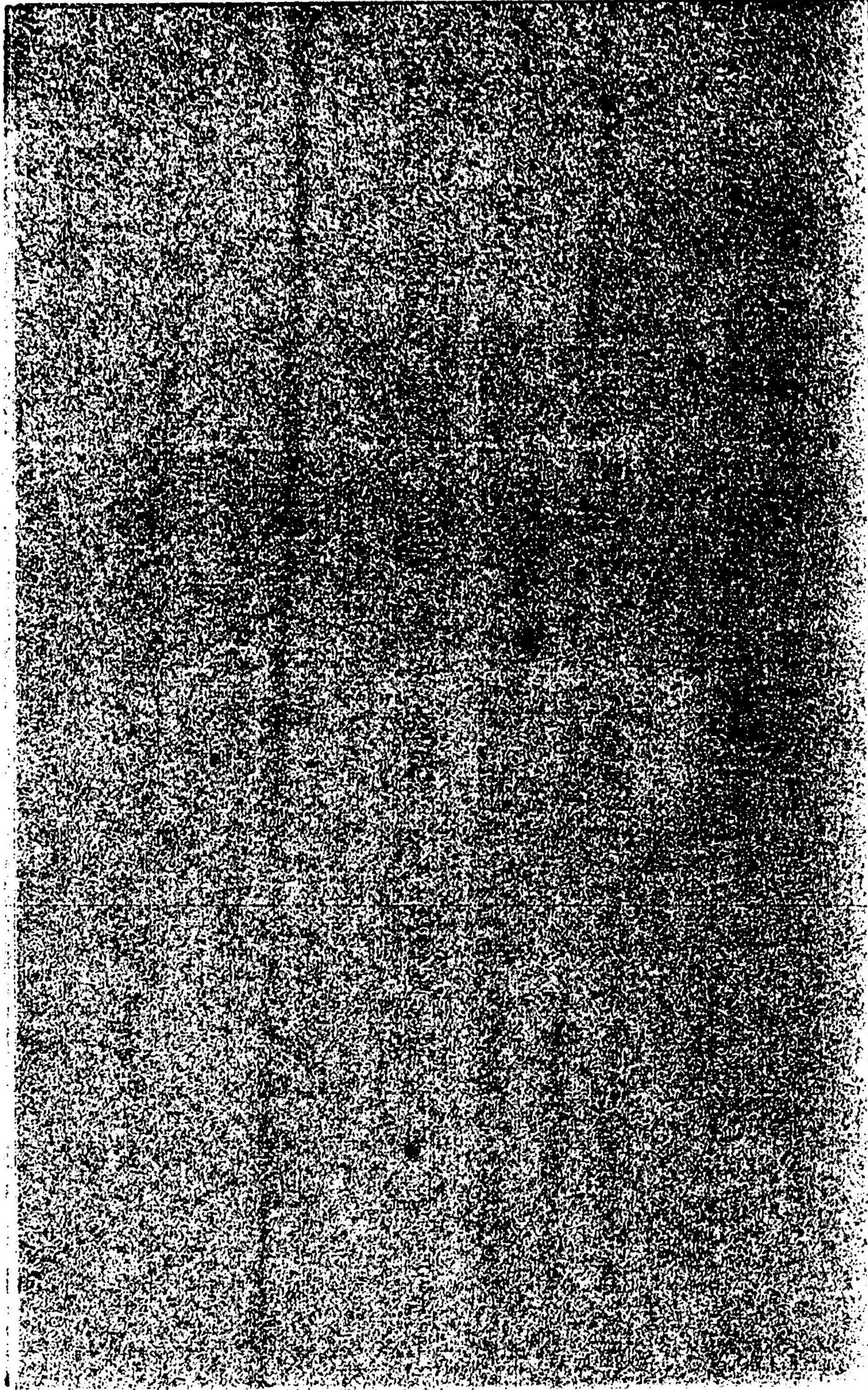
酔ニ乘シ又ハ戲ニ往來ノ妨碍ヲ爲シタル者

卅四

揭示場ヲ汚損シ又ハ之ヲ破毀シタル者

卅五

各所ニ傍示セル禁條ヲ犯シタル者



三重縣罰法類纂下編 諸罰則

明治十四年十月十日甲第百六十九號布達

明治十一年四月天甲第五十五號布達娼妓檢査規則ヲ別冊之通更正シ日是迄各所ニ

配置セシ療養會ニ改稱候條此旨布達候事

但從前ノ諸箇中療養會又ハ入舍退舍トアリハ療養病院又ハ入院退院ト更訂候

事

娼妓檢査規則

第一條 縣内貸座敷ア、地ヲ分テ六檢査區トシ每區一ノ療養病院ニ設ケ及ヒ檢

査所ノ數ヲ定ムル左ノ如ク

第一檢査區 安濃郡 奄藝郡 一志郡
飯高郡 鈴鹿郡ノ内 河曲郡ノ内

津養毒病院 檢査所十二ヶ所

津二ヶ所 一身田 江嶋 棕本 松坂二ヶ所 龜山

賢岐 藤枝 上野 若松 久居 川合町 桑名町 四

第二檢査區 三原郡 河曲郡ノ内 鈴鹿郡ノ内

四日市療養病院 檢査所七ヶ所

四日市二ヶ所 狹野 庄野 神戶二ヶ所

南町 北町 石藥師 帶盤町 十日市町

第三檢査區 桑名郡

桑名 檢査所三ヶ所
桑名 木町 長嶋
江戸町

第四檢査區 度會郡 若志郡 英虞郡

山田 檢査所十七ヶ所
宇田四ヶ所 古市町三ヶ所 山田三ヶ所 大世古町 神社
中之町 曾根町 一ノ木町

田丸 藤田町 輪番 贊 鳥羽二ヶ所 的矢三ヶ所
本町 大里町 渡鹿野 安乘 濱嶋

第五檢査區 阿拜郡 名張郡

上野 檢査所二ヶ所

桑 町輪番 名張 松崎町

第六檢査區 北牟婁郡 南牟婁郡

尾鷲 尾鷲 檢査所三ヶ所
尾鷲 引本 二木嶋

以上各檢査所ハ該地管內中輪番又ハ示談ヲ以テ之ヲ設クヘシ

第二條 此規則ニ稱スル檢査トハ 眞症假症ノ檢査及ヒ之ニ牽連ノ雜症並ニ之ニ

密着近似ノナル皮膚ヲ總稱ス

第三條 凡ソ娼妓營業ノ廢業ノ節ハ最寄檢査病院ニ於テ檢査ノ有無ヲ檢査シ
無毒ノ者ハ其證書ヲ與フヘシ

但廢業ノ節他ノ難病大患ニテ檢査ヲ受ケ得難キ者ハ醫師二名以上ノ診斷書
休質原因症候經過圖方像后ヲ明瞭ニ記入シ且症候中ニ檢査病院長承認ヲ受
ニハ其檢査ヲ受得難キ難キ事ヲ舉ケテ之ヲ証言スヘシ

カ廢業届書ニ添ヘ差出スヘシ

第四條 營業ヲ廢業ハ必所轄檢査病院ニ於テ療養ノ傳染ノ虞ナシト認ムルニ
テサレハ退院ヲ命ジ若シハ廢業ヲ許サス尤ヒ其症頑固ニシテ急治ノ難ク或ハ
已ムテ得ル事情アルモハ郡役所ニ於テ詮議ノ上廢業ヲ許スヘシ

第五條 娼妓ノ營業ヲ差止メラシムルモハ入院中ハ其儘療養セム他ハ二日內
ニ檢査病院ニ就キ檢査ヲ受ケ得難キモノハ入院療養スヘシ

但木文ニ於テノ取扱ハ總テ一般娼妓ニ異ナラズ

第六條 檢査ハ毎月二回トシ其期日午前九時午後一時ノ兩度ニ區別シ又ハ巡回
路程ノ遠近ニ由リ午前九時若シハ午後一時ノ内ニ就テ之ヲ定メ此時限前テ受
檢娼妓ノ出頭時間ハ尤期日祭祝日及ヒ歳暮新年ノ休暇ニ當レハ順延ス
但期日ニ至ラサルモ檢査感染スル者ハ隨時檢査病院ニ出頭シテ檢査ヲ受ク
ヘシ

第七條 檢讞ハ懲毒病院ノ醫員毎月各檢讞所ヲ巡回シテ之ヲ行ヒ警察署ヨリハ
巡查ヲ派出シテ之ヲ巡察ス

第八條 檢讞所ニハ檢讞室及娼妓扣所等區域ヲ嚴シク掛員ヲ娼妓附副婦人ノ外
ハ其内ニ入ルヲ禁ス

第九條 檢讞ハ檢讞所ニ到着ノ順次ヲ以テ之ヲ爲シ兼テ懲毒病院ヨリ頒布シテ
檢讞毒檢査票ヲ携帶シテ檢査室ニ至ラシメ檢査ノ上無毒ノ者ハ該票ニ檢讞醫
員ノ認印及捺印ヲ捺シ本人ニ返附シテ檢査済ノ証トシ有毒ノ者ハ該票ニ檢讞
醫員ノ認印及捺印ノ印ヲ捺シ所屬ノ懲毒病院ニ於テ病養セシメ退院ノ際全
ノ月日ヲ記シ院長認印ノ上本人ニ返附スルモノトス

第十條 他ノ疾病ニ罹ル者及官衙ノ召取ヲ受ケ自身山頭スヘキ者或ハ父母近親
ノ看病ヲシ若クハ其死葬ニ會スルモノヲ除クノ外ハ檢讞期日ニ不参スルヲ許
サズ

但本文他ノ疾病ニ罹ルモノハ檢讞醫員其病狀ニ就キ檢讞スルコトアルヘシ
第十一條 前條ノ場合ニ遭遇シテ不参スヘキトキハ其事故ヲ詳記シタル本人及
身元引受人連署ノ届書ヲ作り檢讞世話掛ヲ經テ衛生委員ノ認印ヲ受ケ期日出
頭時限迄ニ出張ノ檢讞醫員ニ差出スヘシ

但本人或ハ父母近親ノ病氣ハ其届書ニ醫師ノ診斷書
(病名症候經過)ヲ添
豫后ヲ詳記ス

フヘシ

第十二條 前條ノ届書ヲナサズ若クハ他ノ事故ヲ以テ擅ニ不参スル者アルハ
檢讞醫員ハ警察官ト共ニ本人所在ノ家ニ就キ檢讞スルコトアルヘシ

但本條ノ不参者アルハ身元引受人ニ於テ直チニ其事由ヲ詳記シタル届書
ヲ作り檢讞世話掛ヲ經テ檢讞醫員ニ差出スヘシ

第十三條 第六條及第十二條ノ期日不参ノ者ハ更ニ懲毒病院ニ出頭シテ臨時檢
讞ヲ受ケルコトヲサレハ營業スルコトヲ許サズ

第十四條 期日不参ノ翌日ヨリ五日ニ至ルモ猶前條 檢讞ヲ受ケ難キ者ハ身元
引受人ヨリ其事故ヲ詳記シ檢讞世話掛ヲ經テ衛生委員ノ認印ヲ受ケ懲毒病院
ニ届出爾后臨時檢讞ヲ受ケル迄ハ五日目毎ニ同様届出ヘシ

但次回ノ期日ニ至リ猶不参スヘキハ其日數ニ拘ハラヌ更ニ第七條ノ手續
ニ準シ届出ヲナシ爾后前條及本條ノ例ニ據ルヘシ

第十五條 檢讞世話掛ハ貸座敷營業者ノ當務トシ該地檢讞ニ係ル一切ノ雜務ヲ
取扱フモノトス其人員及ヒ撰定法ハ實際ノ便宜ニ任ス尤其人姓名ハ衛生委員ヲ
經テ懲毒病院ニ届出ツヘシ爾后變換ノ都度亦之ニ準ス

但郡役所ニ於テ實際世話行届カス若クハ弊害アリト認ムルトキハ其人員ヲ
増減シ又ハ改撰セシメ時宜ニヨリ指名シテ之ヲ勤メシムルコトアルヘシ

第十六條 檢讞世話掛、娼妓入退院ノ都度其月日及稼地氏名ヲ記シ、檢毒病院醫員ノ認印ヲ受ケ衛生委員ヲ經テ郡役所ニ届出ヘシ

第十七條 檢讞ノ際點檢等ノ爲メ檢讞世話掛ニ於テ娼妓ノ氏名年齢住所及鑑札番號ヲ記ケル名簿二冊ヲ製シ、一ハ檢讞所用トシ、一ハ世話掛ノ許ニ留メ置キ、新規營業及廢業或死亡轉住等ノ都度之ヲ加除訂正シ、毎回檢讞所用ト交換スヘシ。但入院ノ者ハ其氏名ノ所ニ何月何日入院ト記シタル付箋ヲナシ退院ノ時之ヲ取除クヘシ

第十八條 檢讞世話掛ハ前條娼妓異同アル毎ニ其年月日氏名ヲ衛生委員ニ報告シ、又毎月檢讞所ニ係ル費用(該所借入料及筆紙墨薪炭ノ類)仕拂テ翌月五日限リ同委員ニ報告スヘシ

第十九條 娼妓及身元引受人此規則ニ違背スルハ警察署ニ於テ十圓以下ノ過料ニ處ス。尚娼妓ハ事情ニ因リ鑿札ヲ取揚ケ二ケ年以内管内ニ就テ營業ヲ差止ムルコトヲ得ヘシ

但本條ノ過料ハ其言渡シテ受ケタル日ヨリ十日以内ニ完納セシム。若シ完納スル能ハサル者ハ半圓ヲ一日ニ折算シ、若使ニ換フ其半圓ニ滿タサルモ尙一日ニ折算ス

明治十六年三月二十八日甲第二十四號布達

密賣淨取締規則左ノ通相定候條此旨布達候事

但明治九年天甲第十八號布達其他從來ノ令達本文抵觸ノ分ハ總テ廢止ス

密賣淨取締規則

第一條 密ニ賣淫ヲナシ又媒合シタル者ハ四圓以上二十圓以下ノ過料ニ處ス。若シ十六歳未滿ノ婦女ニシテ尊族親其他ノ者教令シタルハ其教令者ヲ罰シ、婦女ハ座セス

第二條 賣淫ノ爲主及ヒ容止者ハ五圓以上三十圓以下ノ過料ニ處ス。若シ老幼婦女等他ノ威迫ニ依リ容止シタル者ハ其威迫者ヲ罰シ、容止者ハ座セス。因テ財ヲ得タル者ハ皆窩主ヲ以テ論ス

第三條 前二條ノ所爲二個以上俱發シタルハ各別ニ處斷ス

第四條 過料ハ言渡ノ日ヨリ十日以内ニ納完セシム。若シ限内納完セサル者ハ半圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ若使ニ換フ其半圓ニ滿タサルモ仍ホ一日ニ折算ス

第五條 若使限内過料ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ若使ヲ免ス。親屬其他ノ者代テ納メタル亦同シ

明治十六年七月十三日甲第六十二號布達

明治十二年六月甲第八十一號布達中娼妓及貸座敷規則左ノ通改定ス。因テ従前ノ令達之ニ抵觸スル分ハ總テ廢止候條此旨布達候事

但現今營業ノモノハ此際郡役所ニ願出鑑札ノ訂正ヲ受ケ其旨所轄警察署ニ届出ヘシ

娼妓貸座敷規則

第一節

娼妓貸座敷

第一條 娼妓貸座敷ノ營業ハ貧困不得已娼妓ハ滿十ニ限リ詮議ノ上後ニ揭示スル場所内ニ於テ之ヲ許ス尤其場所内ト雖モ娼妓又ハ貸座敷ノ營業者一旦廢絶セシ後ハ總テ營業ヲ許サズ

第二條 營業ヲナサント欲スル者ハ後ニ揭示スル書式ニ倣ヒ願書ニ通テ作リ其

營業セントスル地ノ警察署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 營業願書ニハ所屬戸長ヨリ願書無相違ノ証印ヲ受ケ仍ホ他署内ニ於テ

營業セントスル者ハ所屬署長ノ証印及ヒ其營業セントスル地戸長ノ與印郡内他町村浦ニ於テ營業セントスル者ハ其地戸長ノ與印ヲ受クヘシ又娼妓營業願書ニハ父母其在ラサルモノハ最近ノ親戚二名及ヒ其營業セントスル住地ニ居スル體ナル身元引受人

二名連署スヘシ

第四條 甲警察署々轄内ヨリ乙警察署々轄内ニ移轉營業セント欲スル時ハ一旦

廢業シ更ニ前二條ニ依リ免許鑑札ヲ受クヘシ

第五條 同警察署々轄内ニ於テ營業ノ家屋又ハ町村浦若クハ港灣ヲ變換シテ營

業セント欲スル時ハ其事由ヲ具シ鑑札相添ヘ郡役所ニ願出許可ヲ受クヘシ其

他遺失毀損改名等ノ節ハ同署ニ願出鑑札ノ訂正若クハ再渡ヲ受ケ廢業ノ節ハ

其旨届出願札ヲ返納スヘシ

但本支娼妓ノ願書ニハ身元引請ハ連署スヘシ

第六條 營業ノ許可ヲ受ケ又廢業シ若クハ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ

所轄郡役所ニ娼妓ハ該地檢娼妓ハ該地檢ニモ届出ヘシ

第七條 營業貸座敷ハ鑑札ニ記載スル家屋娼妓ハ之ニ記載スル町村浦ノ貸座敷

若クハ港灣ニアラザルハ之ヲ爲スヲ許サズ隨テ其場所外ニ住テハ免許鑑札ハ

總テ無効ノモノトス

第八條 鑑札ハ他ハニ貸渡シ又ハ預ケ置クヘカラス

第九條 此規則ニ違背シタル者ハ警察署ニ於テ十圓以下ノ過料ニ處ス尙ホ其情

狀ニヨリ管内ニ於テ二ケ年以内營業ヲ停止スルコトアルヘシ

第十條 過料ハ申渡ノ日ヨリ十日以内ニ納完スヘシ若シ限内納完セサル者ハ半圓

ヲ一日ニ折算シ之ヲ苦使ニ換フ其半圓ニ滿タサル者ト雖モ仍ホ一日ニ折算ス

第十一條 苦使限内過料ヲ納メタルハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ苦使ヲ免

ス親屬其他ノ者代テ納メタル時亦同シ

第二節 娼妓

下九

第一條 營業願出ノ前塚テ其營業セントスル地最寄ノ梅毒病院ニ就キ梅毒疥癬等無ノ検査ヲ請ヒ醫員ニ検査濟ノ証書ヲ受ケ願書ニ添付スヘシ尤モ其検査該ノ証書ニ記載ノ日ヨリ十五日ヲ過クレハ検査濟ノ効ナキモノトス

第二條 住居ハ貸座敷アル町村又ハ港灣アル町村浦内ニ限ルヘシ尤モ貸座敷營業人ノ家ニ住居スルヲ許サス

第三條 軒前ニイミ往來ノ者ニ遊興ヲ勸ムヘカラス

第四條 何事ニ寄ラヌ客ノ所業不審ナルヲ見聞スル時ハ速ニ貸座敷主又ハ警察署或ハ交番所若クハ巡行ノ巡査等ニ密告スヘシ

第五條 貸座敷主ニ於テ不當ノ出費ヲ強ヒ又ハ當然ノ理由ナク廢業及移轉ヲ故障シ或ハ約束ニ違フノ故ヲ以テ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル時ハ其旨所轄警察署又ハ交番所等ニ申出ルヲ得ヘシ

第三節 貸座敷

第一條 店頭ニ貸座敷何某ト標記シタル看板ヲ掲ケ夜ハ行燈ニ換フヘシ

第二條 遊客姓名簿ヲ製直シ其族籍氏名年齢職業ヲ記入シ其滞留二夜以上ニ及フ者ハ頭ヒニ圈點ヲ施シ毎夜所轄警察署又ハ交番所ニ差出シ點檢ヲ受クヘシ尤モ警察署交番所トモ無之地ハ之ヲ騰寫シ十日毎ニ届出ヘシ

第三條 貸座敷ハ其地ニ於テ營業ノ許可ヲ受ケタル娼妓アラサレハ之ヲ貸ス

ヘカラス

第四條 娼妓ヲ遇スルコハ誠意ヲ旨トシ且刀メテ正業ニ復セムル様厚ク注意スルハ勿論濫リコ之ヲ束縛スルノ規約ヲ爲スヘカラス

第五條 遊客ノ内金銀ヲ濫用シ其他不審ノ舉動ヲ見聞スルトキハ速ニ警察署又ハ交番所若クハ巡行ノ巡査等ニ密告スヘシ

第六條 何人ニ限ラヌ要用アリテ遊客ノ姓名ヲ尋問シ又ハ面會セントスル者アルハ速カニ之ヲ指示シ若クハ面會セシムルノ手續ヲナスベシ

第七條 金錢不拂ヲ名トシ遊客ヲ抑留スヘカラス

第八條 往來人ニ遊興ヲ勸メ又ハ車夫其他ノ者ト謀テ誘引シ若クハ娼妓其他ノ者ヲ軒ニイセ遊興ヲ勸ムル等ノ所爲ヲナサシムヘカラス

第九條 娼妓免許鑒札ヲ預リ置クヘカラス又他ニ移轉等ヲナサントスル時ハ之レカ妨ケヲナスヘカラス

第十條 家屋ヲ異ニシ貸座敷ヲ營業セント欲スル時ハ各別ニ願出免許鑒札ヲ受クヘシ

第十一條 旅館屋船宿ヲ兼業スヘカラス
但家屋ヲ異ニスルニ於テハ此限ニフラス

第十二條 營業上ニ關スル事ハ雇人其他ノ者ノ所爲ト雖モ貸座敷主其責ヲ免ル

娼妓營業願
貸座敷

下十四

私業是迄何々モ差問ナカリシ等ノ事由ヲ詳記ス候處何々貧困不得止ノ娼妓
敷ヲ營業スルカ他ニ目度無之ニ付一時何助村浦又ハ何港ニ於テ該業ヲ營ミ何々
生活仕度又ハ父母奉養仕度等ニ御許可ノ上ハ堅ク御規則及御達等ヲ遵守スルハ
營業者ト爲ルノ目的ヲ詳記ス
勿論生計ノ道相立候ハ、速ニ正業ニ復シ可申候間事情御洞察願意御聽許願札御
下附被下度此段奉願候也

年月日

族籍氏名ノ何女等
願人 族籍 氏名 年 齡

父 族籍 氏名 年 齡

族籍 氏名 年 齡

願ノ通御許可ノ上ハ本人身上ニ係ル事故ハ万事引受可申候連署ヲ以テ奉願候也

身元引受人 族籍 氏名 年 齡

何 郡 長 殿

本願ノ趣實地取札候處相違無之ニ付茲ニ証印候也

何郡長 氏名
何戸長 氏名

(奥書如例)

明治十六年八月二十一日甲第八十號布達

本年甲第六十二號布達娼妓貸座敷規則第三節第二條ノ儀ハ當分ノ内實施セヌ此
旨布達候事

明治十六年六月二十八日甲第八十一號布達

明治十年天甲第七十号布達娼妓及貸座敷并賦金規則左之通改定本年七月ヨリ施
行候條此旨布達候事

但檢徴費ハ七月一日ヨリ相廢候事

賦金規則

第一條 娼妓及貸座敷營業ノ場所ヲ三等ニ分チ其賦金課額ヲ定ムルノ左ノ如シ
一等場所 津 四日市 桑名 宇治 松坂 月賦金二圓娼妓 同金三圓貸座敷

下十五

二等場所 一身田 椋本 上野 江崎 神戶 關 龜山 庄野 石藥師 菟野

久居 山田 大湊 神社 鳥羽 的矢 梁瀬 伊賀上野

月賦金一圓五十錢娼妓 同金二圓五十錢貸坐敷

三等場所 若松 長嶋 田丸 小濱 淺嶋 三ヶ所 渡ヶ野 安乘 贊浦 引本

尾鷲中井浦 天満浦 須賀利浦 二木嶋 九木浦

月賦金一圓娼妓 同金二圓貸坐敷

第二條 娼妓及貸座敷營業ノ者ハ毎月十五日限其賦金ヲ郡役所ニ納ムヘシ

第三條 新規營業并ニ廢業ノ者ハ月ノ十五日前后ニ拘ハラス全月分ノ賦金ヲ納

ムヘシ尤新規營業并十五日以前廢業ノ者ハ其時々納ムルモノトス

但娼妓徵毒ニ罹リ一ヶ月内入舎二十日以上ニ及フ者又ハ入舎中疾病ノ爲メ

廢業スル者ハ其月ノ賦金ヲ免除ス尤既納後ニテ下戻スヘキ分ハ翌月五日限

リ郡役所ヘ申出ヘシ

第四條 娼妓及貸座敷營業者ノ郡役所々轄内ニテ等級ニ差違アル場所ヘ移轉營

業スルモ其月ノ賦金ハ納期現在ノ場所ノ等級ニ依リ相納ムヘシ

第五條 賦金徵収期日ヲ過キ猶上納セサルモノハ鹽札ヲ取上ケ其營業ヲ差止ム

ヘシ

第六條 前條ニ依リ營業ヲ差止メタルモノハ本縣管内ニ於テ二ヶ年間營業ヲ許

サス

參看明治十七年一月四日第一號布告

賭博犯ノ儀刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ヘトモ當分ノ内行政

警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ヲシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ

取締懲罰ノ事ヲ行ハシム

賭博犯處分規則

第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上二百圓以下

ノ過料ニ處ス家屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲シ其他總テ幫助ヲ爲シタル者亦同シ

博徒ニシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭場ヲ開張シ又ハ兇器ヲ携帯シ又ハ四隣ニ横行

スル者ハ一年以上十年以下ノ懲罰及ヒ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス其

招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲スト雖モ前項ニ依テ處分ス

第二條 賭具及ヒ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒入ス

第三條 賭博犯ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリトモ之ニ立入ルコ

ト得

但警察官巡查ハ其証票ヲ携帯スヘシ

第四條 此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視廳官府知事 東京府 縣令ニ於テ便宜

之ヲ定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルコトヲ得

明治十七年二月二十日甲第十八號布達

本年一月第一號ヲ以テ賭博犯處分規則布告相成候ニ付其規則第四條ニ依リ賭博犯處分細則左ノ通相定候條此旨布達候事

賭博犯處分細則

第一條 賭博犯處分規則ニ違犯シタル者ハ其犯則地ノ何レナルニ拘ハラヌ逮捕ノ地ヲ以テ處分ノ所轄トス其逃走シタル者ヲ逮捕シタル時亦同シ

第二條 前條ニ依リ處分スヘキ所ハ四日市、津、山田、上野、ノ四警察署トス其所轄スヘキ區畫ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 警察官吏ニ於テ現行ノ犯則者ヲ認知スルカ又ハ現行ニ在ラヌト雖モ其舉動犯則者ト恩料スルルハ直ニ所轄警察署ニ拘引シテ署長ニ報告スヘキ處分言渡ノ執行ヲ通シタル者及警察署ノ呼出ニ應セサル者亦同シ

第四條 犯則ノ所爲二個以上並發スルモノノ犯情重キ者ニ依テ規則ノ範圍内ニ於テ處分ス

第五條 刑法ノ罪ト賭博犯ト並發シタル時ハ各別ニ處分スヘキモノトス

第六條 犯則ノ所爲一個前ニ發シ己ニ處斷ヲ經テ餘ノ所爲後ニ發シ其前發ノ所爲ヨリ重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ犯則ヲ以テ後發ノ犯則ニ通算ス

第七條 懲罰限内逃走シ再ヒ捕ニ就マタル者ハ其逃走中ノ日數ヲ除キ前後通算ス

ス

第八條 刑期限内賭博ノ所爲發見シ其處分ヲナス爲メ呼出シタル日數ハ刑期ニ算入スヘシ

第九條 監視ニ付セラレタル者ヲ懲罰ノ處シタルトキハ懲罰ノ處分終リタル後監視ヲ執行ス

第十條 過料ハ言渡ノ日ヨリ三十日内ニ納完スヘシ若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ懲罰ニ換フ其一圓ニ滿タサル者亦同シ

第十一條 懲罰限内過料ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除メ懲罰ヲ免ヌ親屬其他ノ者代テ納メタル時亦同シ

第十二條 懲罰ノ日數ハ處分言渡シノ日ヨリ起算ス其放免ノ日ハ期限ニ算入セズ

第十三條 懲罰限内悔悟悔改ノ狀アリト認ムル者ハ其犯由及ヒ悔改ノ情狀等ヲ詳具シ内務卿ノ允可ヲ得テ減免スルコトアルヘシ

第十四條 刑法ノ處刑執行后懲罰ヲ執行スヘキ者ニシテ刑期中假出獄中懲罰ノ執行ヲ猶豫シ其間監視規則ヲ敬守シ愈悔改ノ狀アルニ於テハ其情狀ヲ詳具シ内務卿ノ允可ヲ得テ懲罰ヲ寛宥スルコトアルヘシ

第十五條 懲罰ヲ減免シタルハ別段ノ取締ニ付スルコトアルヘシ

第十六條 別段ノ取締ニ付セラレタル者ハ其期限内左ノ各項ヲ遵守スヘシ

第一 毎月二度所轄警察署又ハ交番所ニ到リ謹慎ヲ表スヘシ

但其期限間ハ警察官吏時宜ニヨリ其家宅ニ臨檢スルコトアルヘシ

第二 酒宴遊興ノ事ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スヘカラス

第三 住所ヲ移轉セントスル時ハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第四 他府縣又ハ他ノ警察署内ニ行カントスル時ハ出發以前ニ其發行先及事由并ニ往復滞在ノ日數等ヲ詳記シテ所屬警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第五 天災又ハ疾病等ニ因リ警察署ニ出頭スルコト能ハサルカ又ハ旅行期限内ニ歸郷スルコト能ハサル時ハ其地戸長ノ証明書ヲ受ケ直ニ同署ニ届出ヘシ

第六 他人ヲ宿泊同居セシメントスル時ハ所屬警察署ノ認可ヲ受クヘシ

參看明治十六年十二月廿八日第五十号布告

古物商取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年二月一日ヨリ施行ス

別冊

古物商取締條例

第一條 古物商トハ古道具 古本、古書畫、古着、古銅鐵、潰金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ

袋物屋、小間物屋、籠甲屋、時計屋、飾屋、箔打屋、煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル

古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據スヘシ

第二條 古物商ハ管轄廳東京府ハノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

但身元詳ナル者其証ハタルトキ又ハ警察官若クハ巡査ノ認可ヲ受ケタル時ハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白癩風癩者及ヒ雇人雇主ノ家ニアル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

但父母后見人雇主又ハ身元詳ナル者其証ハタルトキハ此限ニアラス

官廳、町村、學校、病院、會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキコトヲ證明スル証人二名以上アルニアラサルレハ之ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サルコトアルヘシ

第六條 古物商ハ營業者タルト否トヲ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄

竊スルキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居室ノ外ニ於テ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス

第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スルコトヲ得ス

第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルキ又ハ他府縣ヨリ受取リタルキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ

警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ検査シ之ヲ差押コルコトアルヘシ但費用ハ届入之ヲ擔當スヘシ

第十條 贖物ノ品觸フルキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年内ニ類似ノ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルキ若シハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及簿冊ノ検査ヲ爲シ時

宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲナシタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル古物商ハ管轄廳東京府ハニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得警視廳

第十六條 特別取締ニ付セラレタルモノハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ

一 物品ヲ買取リ又ハ交換シタルキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形狀徽章號番編柄模様 價額年月日時ヲ簿冊ニ記載スヘシ

二 日出前日没后ハ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス

三 營業者ニ付ラサルモノヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シタルキハ其物品ヲ原狀ノ儘五日間保存スヘシ

四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルキハ其物品ノ形狀價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其検査ヲ受クヘシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居シメントスル者ハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 前條ニ違背シタルモノハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 特別取締ニ付セラレタルモノ第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ直ニ之ヲ納完セシム納完セサルモノハ留置セラレ、コトアルヘシ

第十九條 古物商一年内ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタルモノハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取り又ハ交換シタル物品贖物ニ係ルモノハ營業者ニ依ルト否トヲ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徴シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサルトキハ之ヲ領直シ一年ノ后官沒ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇ハノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府ヲ除ク縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツヘシ

明治十七年一月二十三日甲第十號布達

明治十六年 十二月 第五十號ヲ以テ古物商取締條例布告相成候ニ付古物商取締細則

則左ニ通相定候條此旨布達候事

但現今營業者ト雖モ本文ニ依リ更ニ願出鑑札ヲ受クヘシ尙從前ノ令達之ニ抵触ノ分ハ本文施行ノ日ヨリ廢止トス

古物商取締假細則

第一條 古物商取締條例ニ依リ古物商ヲナサント欲スルモノハ后ニ揭示スル書式ニ倣ヒ營業願書ニ通テ作り所轄警察署ヲ經テ本廳ニ願出免許鑑札ヲ受ケ尙組合ニ加入スヘシ

條例第七條ニ依リ古物ノ市場ヲ開カント欲スルモノ亦同シ

第二條 營業者其家屬又ハ雇ハチシテ行商セシメント欲スルトキハ其住所姓名年齢等ヲ記載シタル願書ニ通テ作り所轄警察署ヲ經テ本廳ニ願出一人毎ニ行商鑑札ヲ受クヘシ其鑑札ハ貸借若クハ轉用スルヲ許サス

第三條 水火盜賊等ニテ鑑札ヲ遺毀シタルトキハ其事由ヲ詳記シテ更ニ願出鑑札ヲ受クヘシ其他改姓名代替又ハ管内ニ於テ移住スルトキハ其事由ヲ詳記シテ鑑札ノ書替若クハ訂正ヲ願出ヘシ

第四條 轉業廢業等又ハ他管下ニ移住ノ節ハ其旨届出鑑札返納スヘシ

第五條 古物商ハ物品買入帳物品賣渡帳品觸寫帳ヲ製シ又ハ古物市場營業者ハ品觸寫帳ヲ製シ俱ニ警察官吏ノ契印ヲ受ケ左ノ區別ニ依リ記帳スヘシ

第一 物品買入帳ニハ物品ノ賣主譲主交換主ノ本籍住所姓名品名品柄代價箇數并ニ取引シタル場所及其年月日等ヲ取引ノ都度記載シ條例第三條ノ如ク調査上ニ差支ナカラシムヘシ

但特別取締ニ付セラレタルトキハ條例第十六條ニ依リ本帳ニ記載スヘシ

第二 物品賣渡帳ニハ買主讓受主交換主ノ本籍住所姓名其他前項ノ例ニ倣ヒ可成記載シ置クヘシ

第三 品觸寫帳ハ條例第十條ニヨリ觸示ノ全文ヲ寫シ置クヘシ

第四 凡ソ記載ハ餘白ナク相連接シテ之レヲ記スヘシ

第六條 古物ヲ買入讓受又ハ交換スル時ハ條例第五條第六條第七條ニ觸ルカ否ヤヲ調査シ又刀劔若クハ之レヲ仕込タル器具ヲ賣渡讓渡又ハ交換スルトキハ條例第八條ニ觸ルヤ否ヤヲ調査シ聊タリトモ不分明ノ兼アルトキハ其事由ヲ詳記シ所轄警察署ニ伺出差圖ヲ受クヘシ

但警察官若クハ巡查巡行等ノ節ハ口頭ヲ以テ伺出指圖ヲ受クルモ妨ケナシ
第七條 條例第四條但書及條例第五條第一項但書后段并同條第二項ノ証人ハ左ノ諸項ヲ具備シタルモノニ限ルヘシ因テ其証人タルヲ得ヘキモノナルコトヲ熟知セサルカ又ハ其証人トナルヘキモノ無之トキハ其事由ヲ詳記シ買取讓受交換ヲナス地所轄ノ警察署ニ伺出指圖ヲ受クヘシ

但書前條ニ同シ

第一 買取讓受交換ヲナス地所轄ノ警察署部内ニ住居スル者

第二 年齡滿二十歳以上ノ者

第三 賣主讓主交換主ノ住所姓名年齡等ヲ熟知シタル者

第四 白痴風癡ニアラサル者

第五 剽奪若クハ停止公權又ハ贓罪或ハ偽証ノ罪ニ依リ處刑ヲ受ケサル者

第八條 証人ヲ立テタルキハ第五條第一項ノ帳簿ニ其住所姓名年齡及証人トナリタルコトヲ付記シ置クヘシ

第九條 條例第六條ニ依リ許可ヲ請ハントスルキハ賣渡讓渡主等ノ住所姓名年齡刑名刑期宣告ノ年月日品名品柄箇數寄藏スヘキ期限等ヲ詳記シタル願書ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ

第十條 條例第九條ノ物品ノ目錄ニハ品名箇數其他第五條第一項ノ記載方ニ倣ヒ可成詳記シ且其發送スヘキ年月日及其受入主ノ住所姓名等ヲ發送二日以前ニ所轄警察署ヘ届出ツヘシ其發送ノ年月日變更ノキ亦同シ

但物品ヲ他府縣ヨリ受取タルキハ遅クとも其翌日マテニ目錄書相添ヘ同署ヘ届出スヘシ

第十一條 物品ノ變造若クハ繕ヒノ詭ヘテ受クルキ豫テ示達ヲ受ケタルモノニ

符合ルカ又ハ其類似品ト思料スルモノハ尙ホ條例第十一條ニ依リ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十二條 不正ノ物品ト思料スヘキモノヲ賣却又ハ交換等ニ來ル者アルカ又ハ身ヲ不相應ナリト思料スル片ハ成ルヘク之ヲ留置キ若シ其留置ク事能ハサル場合ニ於テハ其住所姓名ヲ問ヒ述ニ警察署又ハ交番所若クハ巡行ノ巡查等ニ密告スヘシ

第十三條 條例第四條第八條中身元詳不トハ住所姓名年齢等ヲ豫テ詳知セサル者ヲ云フ故ニ臨時質問ヲ受ケ其住所姓名其他ヲ答フル者又ハ僅々一面識アル者ノ如キハ皆不詳ノ者トス又新古武器ニ用ヒタル刀劍(鎗薙刀刀脇差)ハ假令屬具ヲ取除ケ中身ノ者ト雖モ尙ホ條例第八條中ノ刀劍ト心得ヘシ

第十四條 古物商古物市場營業者ハ所轄警察署部内ニ於テ組合市街若クハ連摺ハ四日市鳥羽ノ類ハ之ヲ一組トシ其他郡村ハ適宜ニ區畫スヘシヲ結ヒ日ツ組合毎ニ取締二人ヲ撰擧シ其組名及組合ノ區域并ニ取締人ノ住所姓名ヲ具シ所轄警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ

其變更ノ時亦同シ

第十五條 取締品觸其他組合中ニ係ル一切ノ事務ヲ取扱フヘシ
組合人出入ノトキハ速ニ其姓名住所等ヲ具シ其旨所轄警察署ニ届出ヘシ

第十六條 物品ノ賣買交換等ニ出ツル片ハ鑑札ヲ携帯シ何人ニ限ラス要用ノ場合ニ於テ見シテ求ムル片ハ之ヲ拒ムヘカラス

第十七條 此規則ニ依リ得タル處ノ許可ノ書類等ハ散逸セサル様一簿冊ニ編輯シ置クヘシ

第十八條 條例及本則ニ係ル願伺書ハ各ニ通長ノ奥印ヲ受ク願書ニハ所属戶届書ハ一通ヲ作り住所姓名ヲ署シ捺印ノ上差出スヘシ

營業願書式

古物商 營業願書
古物市場 營業願書
私儀本縣下何郡何町何番屋敷屋號ニ於テ古道具條例第一條ノ目ニ依リ營業賣買營業仕度御許可ノ上ハ堅ク御規則及御達等ヲ遵守可致候間願意御聽許ノ上鑑札御下附被下度別紙履歷書相添此段奉願候也

族籍及現住所

年月日

何之 誰印

何年何月日何年何ヶ月

縣令宛

(戸長奥書如例)

履歷書式

履歷書

一年號月日云々 仕官ノ有無ハ勿論從來職業ノ沿革ヨリ
賞罰ノ有無ニ至ルマテ委數列記スヘシ
一何々
右之通ニ御座候也

住 所 何 之 誰 印

年月日

熱看明治十七年三月二十五日第九號布告

質屋取締條例別冊之通制定。明治十七年五月十五日ヨリ施行ス

別冊

質屋取締條例

- 第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳東京府ハノ免許ヲ受クヘシ
- 第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ受クヘシ
- 第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物、貸金、質入主及質入受戻入換ノ年月日
ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシ
- 但証人ヲ要スルキハ質入主及証人ノ實印ヲ捺捺セシメ置クヘシ
- 第四條 身元詳ナラサルモノヨリ質物ヲ取ルコト得ス
- 但身元詳ナルモノ証人ヲルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノモノ白痴風癪者及雇ハ雇主ノ家ニヨリ質物ヲ取ルコト得

ス

但父母後見人雇主又ハ身元詳ナルモノ証人ヲルトキハ此限ニアラス
官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其質入得ヘキコト
証明スル証人二名以上アラサレハ之ヲ質物ニ取ルコト得ス

前二項ニ違背シタルモノハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク質物ヲ取戻
サルコトアルヘシ

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタ
ルモノヨリ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第七條 贖物ノ疑アル物品又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ルモノアルト

キハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡查ニ密告スヘシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ
差出ス可シ

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品代價及買主ヲ調査スル
ニ差支ナキ様流質物賣拂帳ニ記載ス可シ

第十條 贖物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記ス可シ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルトキ若